

外国人のための

いわて情報生活 ハンドブック



いわて生活ハンドブック Contents

にほんご 日本語

1 在留資格

在留期間、在留期間の更新	6
不法残留(滞在)	7
在留資格の変更	8
永住許可の申請、資格外活動許可	9
在留資格の取得	10

2 結婚・離婚

結婚	11
婚姻届	12
当事者の一方が外国人の場合、 当事者の両方が外国人の場合、婚姻後の国籍	13
結婚・離婚にともなう各種届出	14
国際結婚の手続きの流れ	15
国際離婚の手続きの流れ	16

3 労働と技能実習・研修

仕事に就くとき、就いてから、やめるとき	17
---------------------	----

4 住まい・引越

日本で住むには	21
はじめて賃貸住宅に 入居するとき、転居・退去するとき	22
住宅	23
持ち家、公的住宅	25
申込みの方法	26
民間の賃貸住宅	27
住宅を借りるときの流れ	28
借りるときの注意点、借りるときのアドバイス	29
不動産屋で	30
希望物件チェックリスト	31
契約書で確認すること、契約更新・解約	32
入居	33
転居・退去	36
引越	37
住宅用語説明	39

5 生活

近隣とのつきあい、自治会(町内会)	41
子ども会、慶弔、除雪	42
ごみ	43
生活騒音、ペット	48

6 税金

日本の税制度、外国人の納税義務	49
所得控除	52
給与所得、住民税	53
消費税・地方消費税、印紙税、年末調整	54

7 金融機関

金融機関の種類	55
---------	----

8 国内郵便・宅配便

国内郵便、宅配便	58
----------	----

9 県内の交通

県内の交通	59
交通ルール	61

10 救急

警察	65
----	----

11 災害

地震	66
津波	67

12 警察

警察、逮捕・拘束	68
----------	----

13 消費者トラブル

消費者トラブル	69
---------	----

English 英語

1 Status of residence

Period of stay/Extension of period of stay	72
Illegal stay	73
Change of status of residence	74
Application for permission for permanent residence/ Permission to engage in an activity other than that permitted by the status of residence previously granted	75
Acquisition of status of residence	76

2 Marriage/Divorce

Marriage	77
Marriage notification	78
Between a foreign national and a Japanese national/ Between foreign nationals/Nationality after marriage	79
Various Notifications on one's marriage/divorce	80
Process of international marriage procedures	81
Process of international divorce procedures	82

3 Work, technical intern training and training

When you get a job, after you get a job, when you leave a job	83
---	----

4 Housing/Moving

To live in Japan	87
Moving into rental housing for the first time/ Moving out	88
Housing	89
Owned housing/Public subsidized housing	91
Application procedures	92
Private rental housing	93
Process of renting housing	94
Do's and don'ts for renting/Advice for renting	95
At a real-estate agent	96
Checklist for desirable property	97
Items to confirm on the contract/Contract renewal/termination	98
Moving in	99
Moving out	102
Moving	103
Terminology for Housing	105

5 Life

Getting on with neighbors/Residents' Associations (Neighborhood Associations)	107
Children's Groups/Celebrations and Condolences/Snow Removal	108
Garbage	109
Daily Life Noise/Pets	114

6 Tax

The Japanese tax system/Tax obligations for foreign residents	115
Income deductions	118
Salary Income/Resident tax	119
Consumption tax and local consumption tax/Stamp duty/Year-end adjustment	120

7 Financial institutions

Types of financial institutions	121
---------------------------------	-----

8 Domestic Mail/Package delivery services

Domestic Mail	124
---------------	-----

9 Transportation in the Prefecture

Transportation in the Prefecture	125
Traffic rules	127

10 Emergencies

Police	131
--------	-----

11 Earthquakes/Tsunamis

Earthquakes	132
Tsunamis	133

12 Police

Police/Arrest and Custody	134
---------------------------	-----

13 Consumer Problems

Consumer Problems	135
-------------------	-----

い わ て 生 活 ハ ン ド ブ ッ ク Contents

中文 中国語

1 居留资格

居留期限 / 居留期限的更新	138
非法滞留	139
居留资格的变更	140
永住(定居)许可的申请 / 居留资格外活动许可	141
居留资格的取得	142

2 结婚与离婚

结婚	143
结婚申报	144
当事人一方为外国人时 / 当事人双方均为外国人时 / 结婚后的国籍	145
结婚或离婚时的各种申报	146
跨国结婚的手续流程	147
跨国离婚的手续流程	148

3 劳动与研修

就职时, 就职后, 辞职时	149
---------------	-----

4 住居与搬家

如何在日本安家	153
初次入住租赁住宅时 / 迁居和退房时	154
住宅	155
自购房 / 公营住宅	157
申请方法	158
私营租赁住宅	159
租借住宅时的流程	160
租借住宅时的注意事项 / 租借住宅时的几点建议	161
房地产商一般问题	162
候选住宅清单	163
合同内容的确认 / 合同的更新与解除	164
入住	165
迁居与退房	168
搬家	169
住宅用语说明	171

5 生活

与邻居的相处 / 自治会(町内会)	173
儿童会 / 红白喜事 / 除雪	174
垃圾	175
生活噪音、宠物	180

6 税收

日本的税收制度 / 外国人的纳税义务	181
所得扣除	184
工资所得 / 住民税	185
消费税和地方消费税 / 印花稅 / 年末调整	186

7 金融機関

金融机构的种类	187
---------	-----

8 国内邮件・快递服务

国内邮件 / 快递服务	190
-------------	-----

9 县内的交通

县内的交通	191
交通规则	193

10 救急

警察	197
----	-----

11 地震／海啸

地震	198
海啸	199

12 警察

警察 / 逮捕和拘留	200
------------	-----

13 消费者纠纷

消费者纠纷	201
-------	-----

Tiếng việt ベトナム語

1 Tư cách lưu trú

Thời hạn lưu trú/Thay đổi thời hạn lưu trú	204
Ở lại bất hợp pháp	205
Thay đổi tư cách lưu trú	206
Xin giấy phép vĩnh trú/Giấy phép hoạt động ngoài tư cách	207
Lấy tư cách lưu trú	208

2 Kết hôn - Ly hôn

Kết hôn/Kết hôn tại Nhật	209
Đăng ký kết hôn	210
Trường hợp một người là người nước ngoài./ Trường hợp cả hai người cùng là người nước ngoài/ Quốc tịch sau khi kết hôn	211
Các loại đăng ký khác cùng với việc kết hôn và ly hôn	212
KẾT HÔN - LY HÔN	213
Các bước tiến hành thủ tục ly hôn quốc tế	214

3 LAO ĐỘNG VÀ TU NGHIỆP

Khi nhận việc, sau khi nhận việc, thôi việc	215
---	-----

4 Việc định cư và thay đổi chỗ ở

SỐNG Ở NHẬT BẢN	219
KHI MỚI BẮT ĐẦU NHẬP CƯ VÀO NHÀ THUÊ/ KHI RÚT LUI HOẶC CHUYỂN CHỖ	220
Nhà ở	221
Nhà sở hữu/Nhà công	223
Phương pháp đăng ký	224
Nhà cho thuê tư nhân	225
Những bước khi thuê nhà	226
Những điểm cần chú ý khi thuê nhà/Những lời khuyên khi đi thuê nhà	227
Ở trung tâm bất động sản	228
Bảng kiểm tra căn nhà theo nguyện vọng của mình	229
Xác nhận lại giấy khế ước/Gia hạn và hủy bỏ hợp đồng	230
Chuyển đến nơi ở mới	231
Chuyển chỗ ở và rời chỗ ở	234
Chuyển nhà	235
Giải thích về các thuật ngữ liên quan đến nhà ở	237

5 Kết bạn với hàng xóm

Kết bạn với hàng xóm/Hội tự quản (hiệp hội khu phố)	239
Hội trẻ em/Hiếu hi/Dọn tuyết	240
Rác	241
Tiếng ồn trong sinh hoạt/Thú cưng	246

6 Tiền thuế

Hệ thống thuế của Nhật Bản/Nghĩa vụ nộp thuế của người nước ngoài	247
Khấu trừ thuế	250
Thu nhập từ lương/Thuế cư dân	251
Thuế tiêu thụ và thuế tiêu thụ địa phương/ Thuế trước bạ/Điều chỉnh cuối năm	252

7 Các loại tổ chức tài chính

Các loại tổ chức tài chính	253
----------------------------	-----

8 Bưu điện trong nước · Giao hàng tại nhà

Bưu điện trong nước/Giao hàng tại nhà	256
---------------------------------------	-----

9 Giao thông trong tỉnh

Giao thông trong tỉnh	257
Luật giao thông	259

10 Cấp cứu

Cảnh sát	263
----------	-----

11 Động đất/Sóng thần

Động đất	264
Sóng thần	265

12 Cảnh sát

Cảnh sát/Bắt giữ, giam giữ	266
----------------------------	-----

13 Vấn đề rắc rối của người tiêu dùng

Vấn đề rắc rối của người tiêu dùng	267
------------------------------------	-----



1 在留資格

在留期間

在留期間は15日、30日、90日、3ヵ月、6ヵ月、1年、1年3ヵ月、2年、2年3ヵ月、3年、5年の11通りと出国準備期間として月単位で許可されるものがあります。この期間を超えて在留する場合は、許可が必要です。

在留期間の更新

在留期間を延長して同じ活動を続けたいときは、在留期間更新の手続きをしなければなりません。申請は在留期間の満了する日以前(6ヵ月以上の在留期間を有する者にあたっては在留期間の満了するおおむね3ヵ月前)からできます。

もし申請の結果が在留期間内にしなかった時は、現在の在留期間の満了後も最長2ヵ月間は、同じ在留資格で滞在可能です。(2ヵ月以内に申請結果が出れば、その日が在留満了日になります。)

申請に必要な書類は在留資格と在留期間によって異なるので、居住地の地方入国管理官署に問い合わせましょう。

必要な書類	1 在留期間更新許可申請書 2 写真 3 日本での活動内容に応じた資料 4 パスポートまたは在留資格証明書 5 在留カード 6 資格外活動許可書〈資格外活動許可を受けている場合〉 7 身元保証書 など
提出先／問合せ先	提出先：居住地の地方入国管理官署 問合せ先：居住地の地方入国管理官署または外国人在留総合インフォメーションセンター
いつから、いつまで	在留期間の満了する日以前(6ヵ月以上の在留期間を有する者にあたっては在留期間の満了するおおむね3ヵ月前から)
手数料	許可されるときに4,000円が必要(収入印紙)

不法残留(滞在)

在留期間を1日でも過ぎて滞在すると「不法残留(オーバーステイ)」となり、一定期間は日本への再入国が認められません。不法残留の人が帰国するには次のような手続をとります。

通常どおりの帰国	病気などのやむを得ない事情やごく短期間不法残留した場合、期間更新の手続を取り、認められると通常通り出国できる場合もありますから、なるべく早く最寄りの地方入国管理官署に届出ましょう。
出国命令による帰国	入管法違反者のうち、一定の要件を満たす不法残留者について、身柄を収容しないまま簡易な手続により出国させる制度が出国命令制度です。 出国命令の対象者については、次のいずれかにも該当する不法残留者です。 (1) 速やかに日本から出国する意思をもって自ら地方入国管理官署に出頭したこと (2) 残留期間を経過したこと以外の退去強制事由に該当しないこと (3) 入国後に窃盗罪等の所定の罪により懲役または禁錮に処せられていないこと (4) 過去に退去強制されたことまたは出国命令を受けて出国したことがないこと (5) 速やかに日本から出国することが確実と見込まれること
退去強制(強制送還)	逮捕された場合は、拘置所などに身柄を拘束されます。その後、地方入国管理官署に引き渡され退去強制手続を受ける場合と起訴されて裁判を受ける場合があります。退去強制により出国した人は5年間、日本へ再入国はできません。過去にも退去強制歴のある場合は10年間、または永久に日本に入国できない場合があります。 ※在留特別許可: 退去強制にあたとされた人でも、事情を考慮して法務大臣がその人の残留を許可することができるとされています。これが残留特別許可で、在留が認められるかどうかは法務大臣が決めます。許可された場合に限り、在留資格が与えられ引き続き日本で生活することができます。

在留資格の変更

在留資格が「日本人の配偶者等」「定住者」「永住者」「永住者の配偶者等」の人は、活動に制限がないので、仕事によって在留資格を変更する必要はありません。しかし、それ以外の在留資格の人が、転職や就職する場合には、その活動に見合った在留資格に変更する必要があり、地方入国管理官署に「在留資格変更」の申請をしなければなりません。必要書類は在留資格と在留期間によって異なるので、詳しくは最寄りの地方入国管理官署に問い合わせましょう。

必要な書類	1 在留資格変更許可申請書 2 写真 3 日本での活動内容に応じた資料 4 パスポートまたは在留資格証明書 5 在留カード 6 資格外活動許可書（資格外活動許可を受けている場合） 7 身元保証書 など
提出先／問合せ先	提出先：居住地の地方入国管理官署 問合せ先：居住地の地方入国管理官署または外国人在留総合インフォメーションセンター
いつから、いつまで	資格の変更の事由が生じたときから在留期間満了日以前
手数料	許可されるときに 4,000 円が必要（収入印紙）

永住許可の申請

日本に永住を希望する人は、永住の許可を受ける必要があります。

地方入国管理官署で永住許可を申請します。永住許可を受けると在留資格は永住者となり、外国籍のままで、ずっと日本に住むことができます。在留期間の更新手続や在留資格変更の手続は必要ありませんが、旅行などで日本を出国するときには再入国許可が必要です(ただし、有効なパスポートと在留カードがあり、出国から1年以内に再入国するとき、再入国許可の所得不要)。永住許可にはいくつかの条件がありますから、詳しくは最寄りの地方入国管理官署に問い合わせましょう。

手数料

許可されるとき 8,000 円が必要(収入印紙)

資格外活動許可

たとえば留学生がアルバイトをしたいときに必要な許可です。(留学生が、在籍する大学または高等専門学校(第4学年、第5学年および専攻科に限る)で教育補助(TA)や研究補助(RA)の仕事をする場合は不要です。)

就労を認められていない資格の人がアルバイトなどで収入を得る活動をするには、地方入国管理官署で資格外活動許可を受けなければなりません。留学・家族滞在などでアルバイトをするときには、就労時間や就労内容に制限があります。自分の在留資格の活動範囲ではない仕事をするとな「不法就労」となり処罰されます。詳しくは最寄りの地方入国管理官署に問い合わせましょう。

必要な書類	1 資格外活動許可申請書 2 資格外活動許可に係る活動の内容を明らかにする書類 3 パスポートまたは在留資格証明書 4 在留カードなど 5 身分を証する文章等の提示(申請取次者が申請を提出する場合)
提出先／問合せ先	提出先: 居住地の地方入国管理官署 問合せ先: 居住地の地方入国管理官署または外国人在留総合インフォメーションセンター
いつ	現在取得している在留資格以外の活動で報酬を得たいとき
手数料	無料

在留資格の取得

日本で生まれて、日本の国籍を持たない子どもが日本に在留するには、生まれた日から30日以内に所轄の地方入国管理官署に申請して、在留資格取得の手続をしなければなりません。ただし、60日以内に出国する場合は必要ありません。

必要な書類	1 在留資格取得許可申請書 2 出生証明書、母子健康手帳など 3 両親のパスポートと在留カード 4 身元保証書 など
提出先／問合せ先	提出先：居住地の地方入国管理官署 問合せ先：居住地の地方入国管理官署または外国人在留総合インフォメーションセンター（4 在留に関する各種問い合わせ参照）
いつまで	生まれた日から30日以内（ただし60日以内に出国する場合は必要ありません）
手数料	無料

特別永住者の子どもについては、生まれた日から60日以内に、お住まいの市町村の役所で、特別永住許可申請をしてください。



2 結婚・離婚

日本の法律にのっとった外国人の結婚と離婚について解説します、日本人と大きく違うのは、日本で届出のほかに本国への届出が必要なことです。また結婚、離婚にともない各種届出を行う必要があります。忘れずに行いましょう。

結婚

国際結婚では結婚する二人の、それぞれの国の法律に従わなければなりません。また、両方の国で結婚の手続をすることが大切です。

具体的には婚姻届のほかに、各種届出が関係法律で定められていますので、忘れずに行いましょう。この場合、勤務先や学校を通じて届出をすることも多いので、勤務先や学校にも知らせましょう。

日本の婚姻

日本の法律で定められた婚姻(結婚)条件は以下のようなものがあり、すべてを満たしていなければいけません。

- 結婚年齢は男性が満 18 歳、女性が満 16 歳に達していること(民法 731 条)
- 20 歳未満の場合は父母の同意が必要(民法 737 条)
- 重婚でないこと(民法 732 条)
- 女性が再婚する場合は、法的に離婚した日から 6 ヶ月を経過していること(民法 733 条)
- 近親者(直系血族または三親等内の傍系血族)でないこと(民法 734 条)

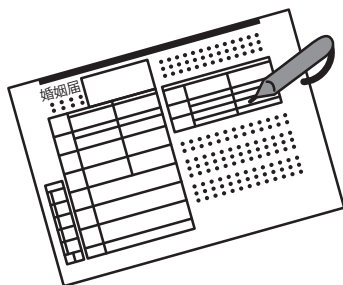
婚姻届

婚姻届とは結婚するときに、市区町村の役所に提出する届出のことです。婚姻成立の要件は、国によって異なりますから、日本人は日本の、外国人はその人の国の婚姻要件(条件)を備えていることが必要になります。そこで、外国人が婚姻する場合は、婚姻要件を備えていることを証明する婚姻要件具備証明書を提出しなければなりません。

外国人の婚姻要件具備証明書は、在日大使館、領事館で発行され、外国語で記載されている場合は、翻訳者の署名、捺印された訳文を添付します。婚姻要件具備証明書が発行されない国の場合は、それに代わる書類を準備しなければなりませんので、詳しくは市区町村の役所に問い合わせてください。

必要な書類	1 婚姻届(用紙は市区町村の役所にあります) ※成人の証人2名の署名と捺印が必要 2 戸籍謄本1通(日本人) 3 婚姻要件具備証明書またはそれに代わる文書(外国人) 4 パスポートなど(国籍を証明するもの)
提出先/問合せ先	結婚する二人のどちらかの住所があるところ、または日本人の本籍地の市区町村の役所
いつから、いつまで	任意
届け出る人	結婚する二人

※必要ならば、受理された後、婚姻届受理証明書を発行してもらう。



当事者の一方が外国人の場合

日本人と外国人が日本で結婚する場合は、戸籍法の規定に従って婚姻届を出します。これで日本側の手続は終わり、このあと本国に届け出をします。その際、婚姻届受理証明書が必要です。婚姻届を提出したときに受理証明書を発行してもらおうといいでしょう。また、国によって手続方法が異なりますから、在日大使館や領事館などに確認をしましょう。日本人と結婚して、日本人の配偶者としての在留資格の変更を希望する人は、所轄の入国管理局へ相談しましょう。

婚姻届の書き方

婚姻届の書き方は、以下の点を除いて日本人の場合と同じです。

●当事者の氏名、生年月日、住所

カタカナで氏・名の順で記入します。氏と名の間には読点を打ちます。生年月日は西暦でかまいません。住所は住民登録をしている場所です。

●本籍地

当事者の国籍のみ記入します。

●署名・捺印

署名だけでかまいません。

当事者の両方が外国人の場合

外国人同士が日本で結婚したい場合は、手続の方法が国によって異なりますから、それぞれの在日の大使館、領事館に確認しましょう。日本の市区町村の役職で婚姻手続をする場合は、市区町村の役所に必要書類などの確認をしましょう(受理された後、婚姻届受理証明書を発行してもらいます)。またそれぞれの本国への届出も必要です。

婚姻後の国籍

外国人が、日本人と結婚したことで自動的に日本国籍を取得することはありません。なお、日本国籍を所得するためには、法務大臣の帰化の許可を得なければなりません。

結婚・離婚にともなう各種届出

婚姻届、離婚届の提出にともなって、以下のような各種届出を行わなければいけません。この場合、市区町村の役所だけではなく、勤務先や学校を通じて届出をすることも多いので、勤務先や学校にも知らせる必要があります。

必要な届出	届出先
配偶者との離婚・死別の届出	地方入国管理官署
在留資格の変更	地方入国管理官署
転居届	市区町村の役所
転入届	新しい居住地の市区町村の役所 市区町村の役所
国民健康保険・国民年金の住所・名義変更	市区町村の役所
運転免許証の住所・名義変更	警察・運転免許試験場
身上異動届	勤務先
預貯金の住所・名義変更	金融機関
電気・ガス・水道の契約変更	電力会社、ガス会社、水道局
電話の移転・新設	電話会社
郵便物転送のための変更届	郵便局

国際結婚の手続の流れ

日本人と外国人の結婚

日本人は日本の法律に定められた婚姻条件を満たしていること。
外国人は本国での婚姻条件を満たしていること

用意する書類

- 1 婚姻届（市区町村の役所で入手、成人の証人2名の署名と捺印が必要）
- 2 戸籍謄本（日本人）
- 3 婚姻要件具備証明書またはそれに代わる文書（外国人）
- 4 パスポートなど（国籍を証明するもの）

結婚する当事者二人のどちらかの住所があるところ、または日本人の本籍地の市区町村の役所に届出

受理されると日本国での結婚が成立

その場で婚姻届受理証明書を発行してもらう

外国人は本国での婚姻手続をする

国によって手続方法が異なりますから、在日大使館や領事館などに確認する

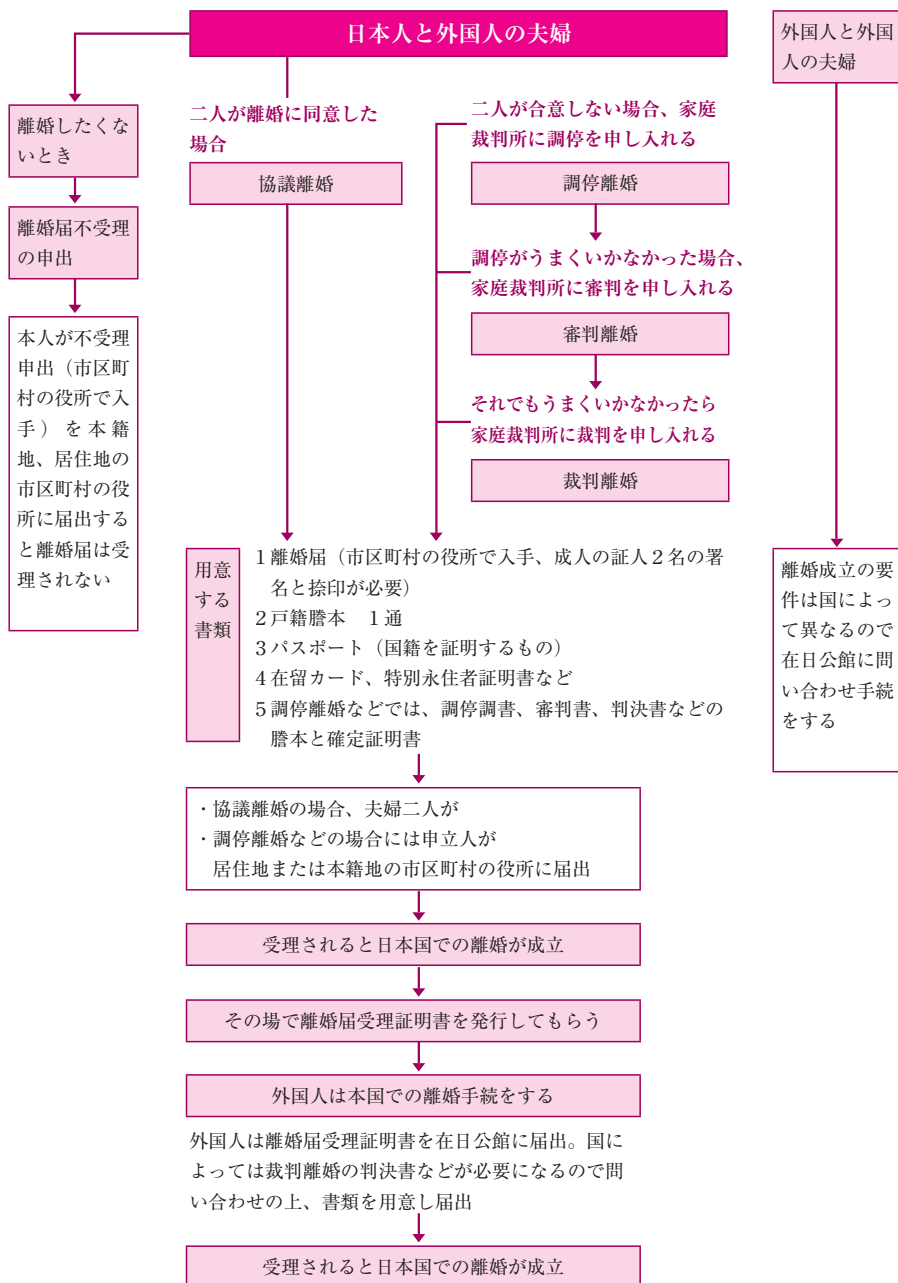
受理されると本国での結婚が成立

日本人の配偶者として在留資格の変更を希望する人は、所轄の入国管理局へ相談を

外国人と外国人の結婚

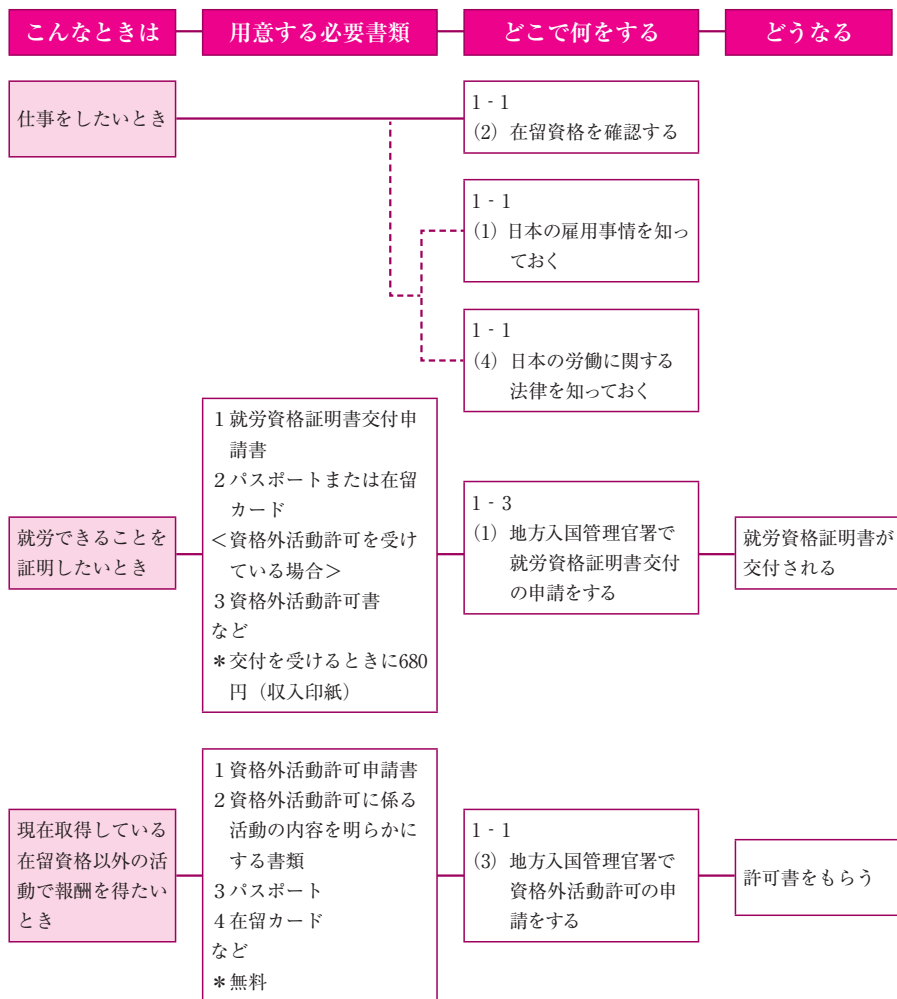
婚姻成立の要件は国によって異なるので、在日公館に問い合わせ、手続をする
日本の市区町村の役所で婚姻手続をする場合は、市区町村の役所に問い合わせる

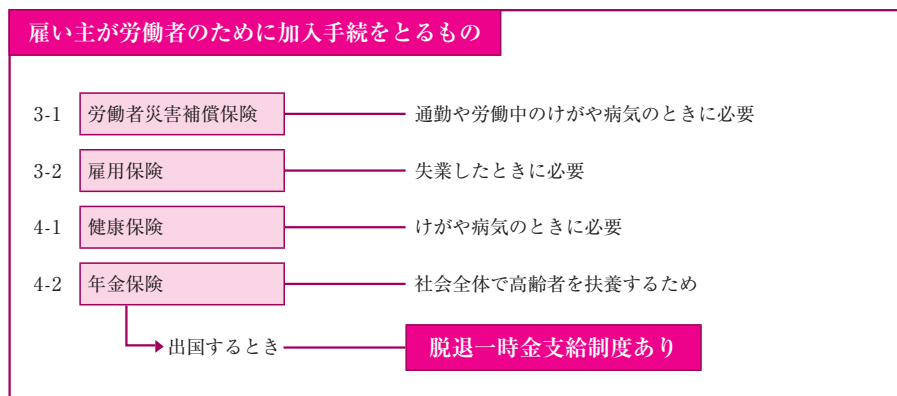
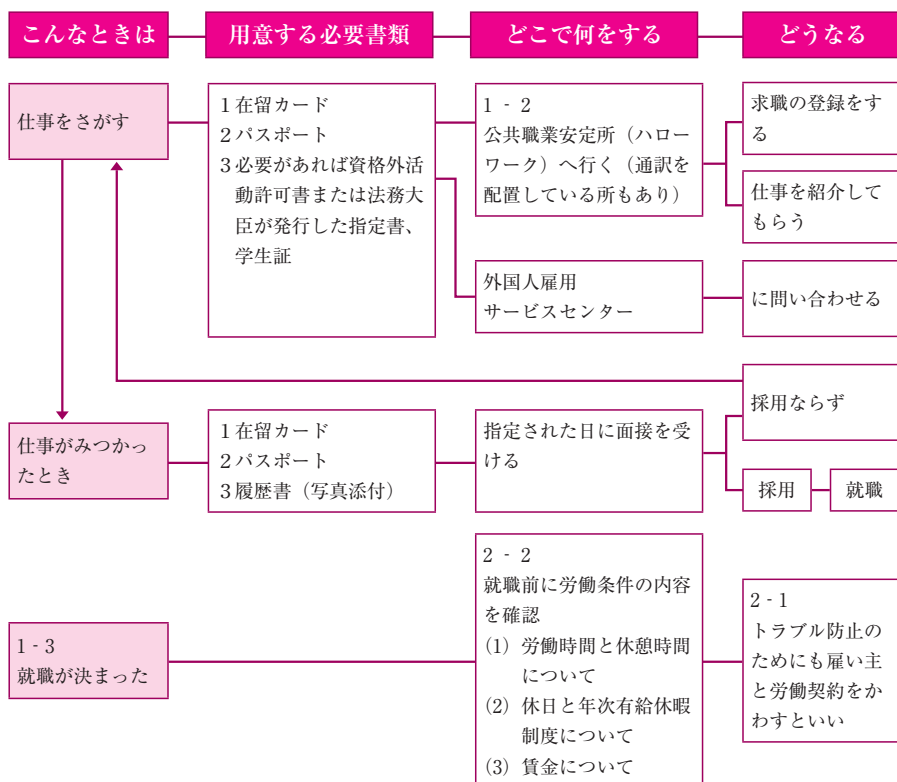
国際離婚の手続の流れ

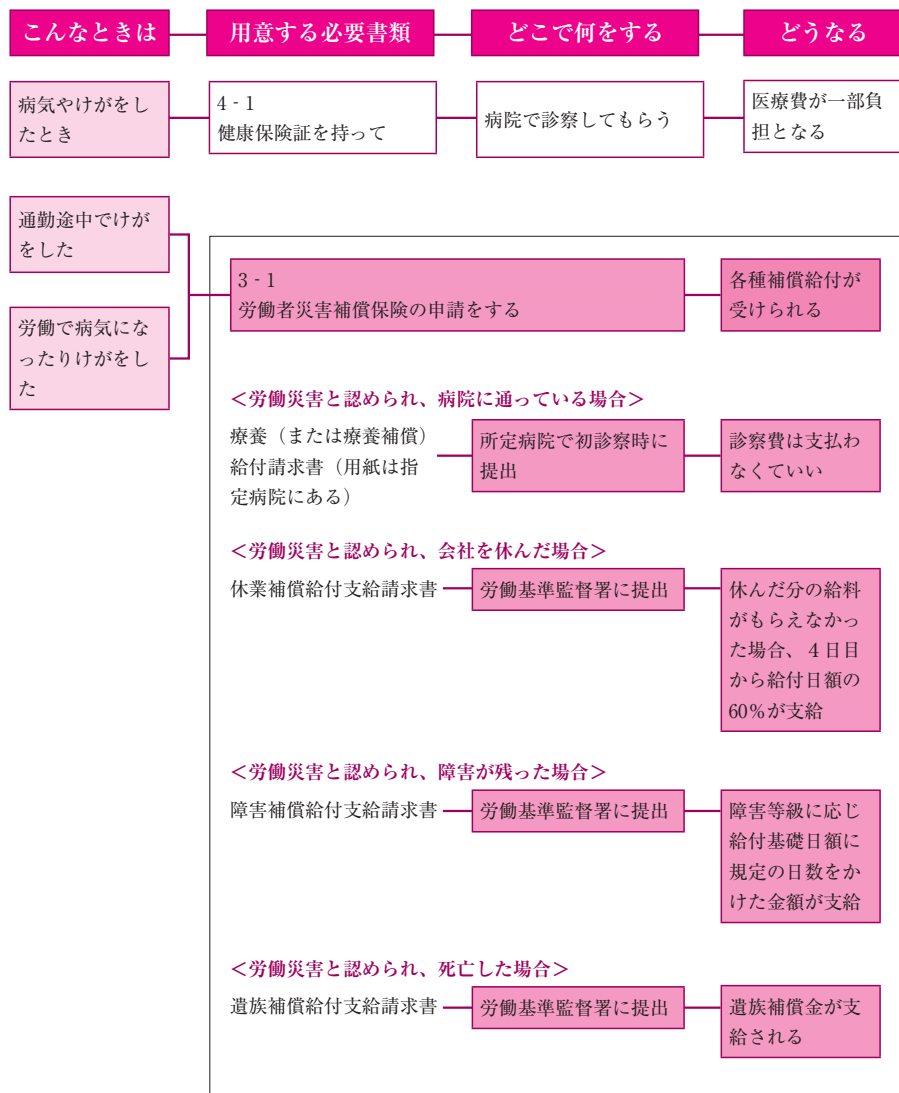


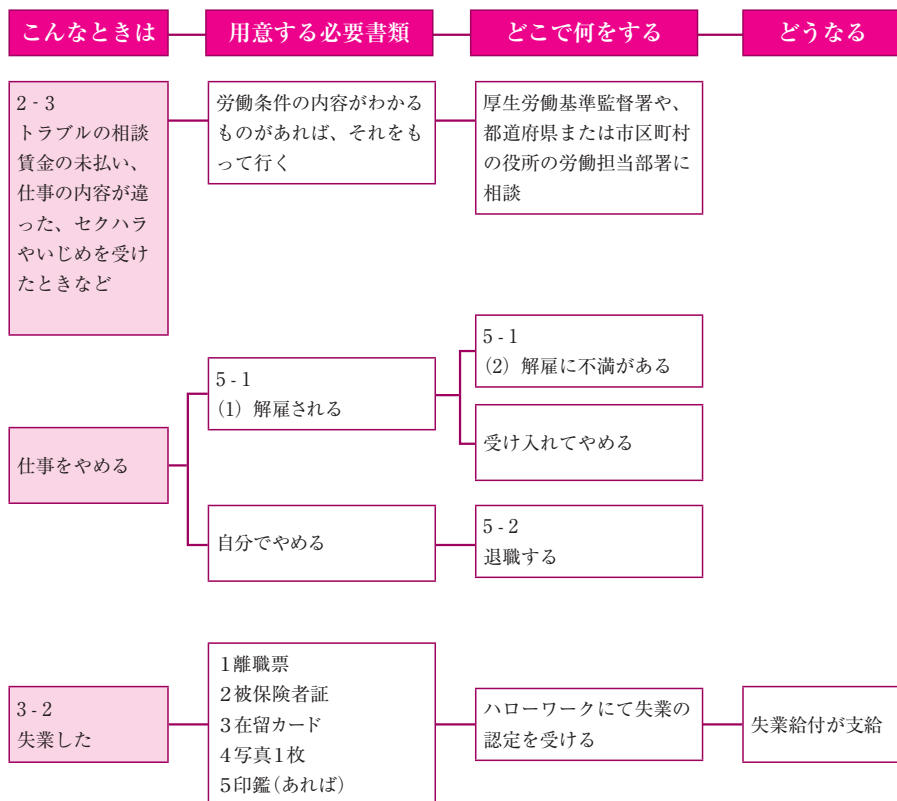
3 労働と技能実習・研修

仕事に就くとき、就いてから、やめるとき

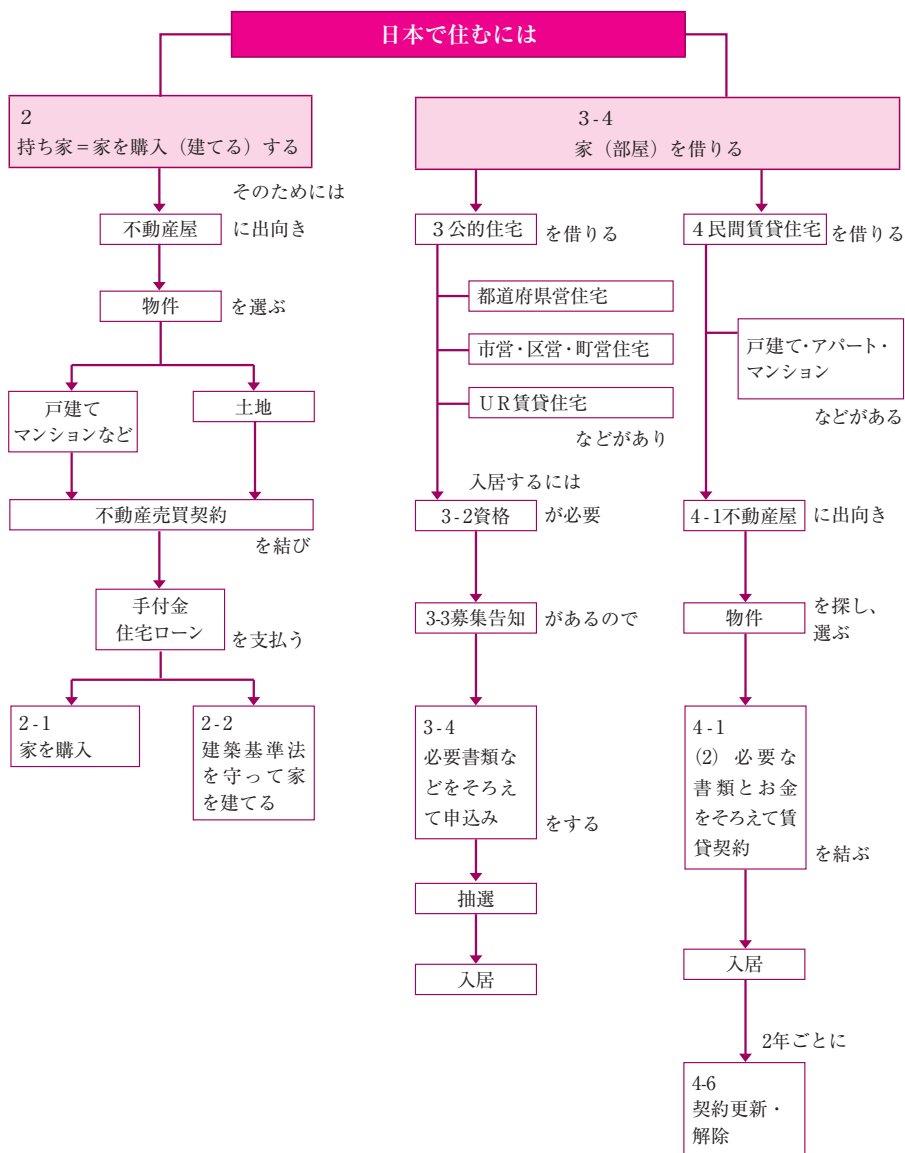








4 住まい・引越

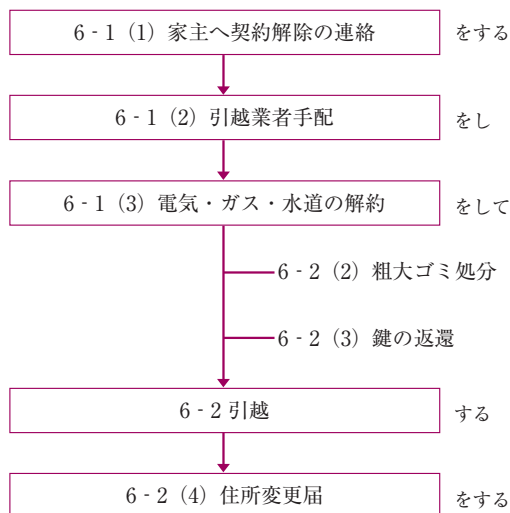


はじめて賃貸住宅に入居するとき



転居・退去するとき

1～2ヵ月前に



住宅

日本の住宅には、大きく分けて「持ち家」「公的住宅」「民間の賃貸住宅」の3種類があります。それぞれの住宅の特徴と、日本の住宅の広さと間取り、地上階の表記の仕方、地域住民による住民組織などについて説明します。

日本の住宅について

持ち家

所有権のある家のことを日本では「持ち家」と言います。一戸建て、マンションといった住宅形態があり、住宅を所有するためには購入に関するさまざまな手続や契約が発生します。また建物を建てる場合は守らなければならない注意事項などがあります。



公的住宅

公的住宅は住宅に困っている人に対して、都道府県や市区町村などの地方公共団体、公共企業などが安価な家賃で提供する住宅のことで、都道府県営住宅、区民住宅、市営住宅、町営住宅、UR賃貸住宅などがあります。入居者資格が決められているので、その条件を満たしている人しか入居できません。

民間の賃貸住宅

民間の賃貸住宅とは、住むために家賃を支払って借りる、貸家やアパート、マンションなどのことをいいます。家賃は月ごとに前払い(前もって支払うこと)します。家賃のほかに、管理費、共益費などが必要な場合があります。その場合は、家賃と一緒に支払います。



住宅の広さと間取りについて

住宅の広さは、部屋のほか、トイレ、風呂、台所などを合わせ、「専有面積〇㎡」と表します。部屋の広さは、床に敷く畳の数で表し、畳1枚のことを1畳と呼びます。1畳は基本的に約180cm×90cm、約1.6㎡ですが、170cm×85cmの団地サイズと呼ばれるものや、176cm×88cmのものなどもあります。

また、部屋の数とその部屋がどのような部屋なのかは数字とアルファベットで表し、部屋のタイプは床が畳の部屋は「和室」、床が板などの部屋は「洋室」と表します。

〔例〕

- 2LDK 独立した部屋が2つと、居間、食堂、台所の兼用部屋がひとつ
- 2 部屋の数
- L 居間(Living)
- D 食堂(Dining)
- LDK 居間食堂、台所の兼用部屋
- DK 食堂と台所の兼用部屋

地上階と地下の表記の仕方

日本では地上1階のことを1Fと表記し、地下1階はB1と表記します。

〔例〕

- 1F～5F 地上1階から5階のこと
- 2B 地下2階のこと

持ち家

持ち家とは賃貸ではなく自分の家を持つということです。ここでは住宅を購入する方法、家を建てる時の注意事項について紹介します。

取得する方法と手続

持ち家を取得する際は不動産屋を利用するのが一般的です。物件を選び、購入を決断したら重要事項説明を受けた後「不動産売買契約」を結び、手付金を支払い、ほとんどの場合は住宅ローンの申込みをします。その後、住宅の所有権が購入者に移ったことの手続や固定資産税という税金などの手続も行います。必要な各種手続は不動産屋が有料で代行してくれることがほとんどですから、相談するとよいでしょう。

家を建てる時の注意事項

日本の建物を建てる際には「建築基準法」という法律に従って、計画・施行しなければなりません。土地に対する建物の大きさや高さ制限などさまざまな決まりごとがあり、市区町村の役所の許可を受けてからでないと建築できません。詳しくは市区町村の役所の建築指導課などの担当課員に相談してください。

公的住宅

地方公共団体や公共企業が提供する住宅を公的住宅と呼びます。公的住宅の種類、入居資格、募集告知、申込方法などについて紹介します。

公的住宅の種類

公的住宅には地方公共団体と公共企業などが提供する住宅があります。地方公共団体が提供する公的住宅には、都道府県営住宅、区営住宅、町営住宅などがあり、公共企業が提供する住宅には、UR都市機構によるUR賃貸住宅(都市機構住宅)などがあります。

入居資格

いずれの公的住宅も住民登録の対象者か「外交」等の在留資格があること、所得基準などについて、入居資格が細かく決められています。詳しくは、その公的住宅を監理する自治体やUR都市機構にお問い合わせください。

募集の告知

公的住宅は定期的または随時募集されます。都道府県営住宅はおおむね年4回(1月、4月、7月、10月)募集され、「募集案内」が市区町村の役所などで配布されます。

市営住宅、区営住宅や町営住宅などは市、区や町の発行する広報紙に募集の告知が掲載されます。広報紙は市区町村の役所や駅などに置いてあります。また、町内会や自治会などを通して配布されています。

UR賃貸住宅はUR都市機構のホームページから希望にあう物件を探して応募することができます。

申込みの方法

申込資格等を確認のうえ、指定された入居申込書に必要書類を添えて、募集している公的住宅の入居係などへ申込みます。

ただし、公的住宅は入居希望者が多いので、抽選で入居者を選考します。

家賃は収入によって決められ、家賃のほかに共益費、駐車場代などが必要となります。

必要な書類	1 入居申込書 2 入居希望者全員分の住民票等 3 所得証明書など 4 その他、必要に応じて求められる書類もあります
申込先	募集している公的住宅の入居係
いつ	<市・区・町営住宅、UR賃貸住宅> 定期的または随時 <都道府県営住宅> おおむね年4回 (1月、4月、7月、10月)
備考	詳しくは公的住宅を管理する役所やUR都市機構にお問い合わせください

民間の賃貸住宅

民間の賃貸住宅を借りるときには不動産屋へ行きます。その際、事前に希望条件を整理しておくのがポイントです。契約をするときには、多くの場合、家賃の5～6月分のお金が必要です。

家(部屋)の探し方・借り方

探し方

入居を希望する地域の不動産屋(貸家やアパートを紹介する店)へ行き、希望する家賃や広さ、駅からの距離などの希望条件を伝えて、物件を紹介してもらいます。

店頭に張り出されている物件情報だけをまず見てみることもできますし、雑誌やインターネットで希望する地域の家賃の相場や物件そのものを調べることもできます。また、留学生は大学の学生課などを利用する方法もあります。

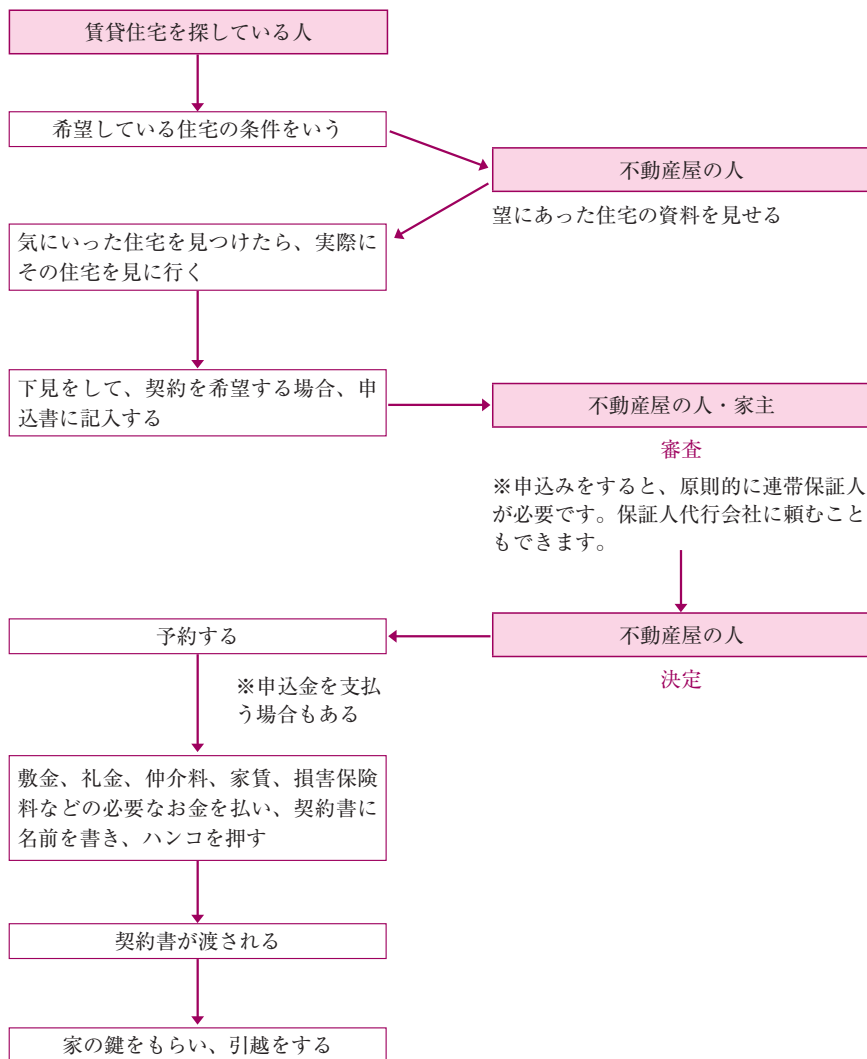
借り方

貸家やアパートを借りるときには契約を結びます。これを賃貸契約といい、契約期間は一般的に2年になります。

契約をする際には、次のような書類とお金が必要です。

契約するときに 必要な書類	1 入居者全員分の住民票等 2 所得証明書 3 連帯保証人(7 住宅用語参照)または誓約書 4 印鑑登録証明書など
契約するときに 必要なお金	1 今月の家賃と翌月の家賃 2 敷金 3 礼金 4 仲介料など これらを合計すると、家を借りるときには、家賃の5～6ヵ月分ぐらいのお金が必要です

住宅を借りるときの流れ



借りるときの注意点

■交通の便について

物件への交通の便は1分間に80m歩くと仮定して計算し、「近くの駅から〇分」というように表されています。この1分間に80m歩くというのは時速4.8kmで、坂道や階段、信号待ちの時間などは含まれていません。契約する前に実際に駅までの道を歩いてみるのがいいでしょう。

■ペットについて

家主の多くはペットを飼うことを禁止していますから、ペットを飼いたいときは、契約する前に不動産屋できちんと確かめておくことも大事です。



ペットを飼うこと

■改造や模様替え

家主の許可をもらわないで、改造や模様替え、家族以外の人と一緒に住まわせてはいけません。もちろん、家の一部または全部をほかの人に貸してもいけません。



部屋に釘を打ったり、ペンキを塗ること

■部屋にあるもの、ないもの

日本の賃貸住宅はあらかじめ部屋に設備されているものと、入居者が用意するものがあります。部屋にあるもの、ないものは下記の通りです。

- 部屋にあるもの…電気、ガス、水道の設備
- 部屋にないもの…照明器具、ガステーブル、オープン、家具など。
必要なものは自分で用意します。



別の人に部屋を貸すこと

借りるときのアドバイス

賃貸住宅を借りるにあたっていくつかの障害が発生することがあります。そのための、いくつかのアドバイスです。また、地域の国際交流協会が相談にのってくれることもあります。

- 日本語が話せない…日本語が話せる人と一緒に行きましょう。あいさつ程度でも日本語で話すと、相手の印象が全然違います。
- 外国人に貸してくれない…知りあいの紹介やインターネットなどで対応してくれる不動産屋を見つけ、そこに問い合わせるのが効率的でしょう。
- 保証人がいない…保証人代行会社に頼むこともできます。不動産屋に相談してください。

不動産屋で

不動産屋では、一般的に次のようなことを聞かれます。

1. 名前	()
2. 職業	()
3. 雇用形態	☐ 正社員 ☐ 契約社員 ☐ パート ☐ 学生 →奨学金受給の有無… ☐ 有 ☐ 無し
4. 同居予定者	()人 ☐ 家族 ☐ 友人 ☐ その他()
5. 固定収入 ・ 本人	☐ 給与 ☐ 仕送り ☐ その他 月額 ・ 10万円以下 ・ 10～15万円 ・ 15～20万円 ・ 20～25万円 ・ 25～30万円 ・ 30万円以上
・ 同居予定者	☐ 給与 ☐ 仕送り ☐ その他 月額 ・ 10万円以下 ・ 10～15万円 ・ 15～20万円 ・ 20～25万円 ・ 25～30万円 ・ 30万円以上
6. 日本語能力 話す	☐ できる ☐ 日常会話程度 ☐ できない
読む	☐ できる ☐ 簡単な日本語 ☐ ひらがなのみ ☐ できない
7. 連帯保証人の 有無	☐ 有 →本人との関係() ☐ 無 →保証会社利用の希望の有無… ☐ 有 ☐ 無
8. 緊急連絡先 (本人以外)	()
9. 身分証明書	☐ パスポート ☐ 在留カード／特別永住者証明書 ☐ その他()
10. 帰国予定	☐ 有()年後 ☐ 無 ☐ わからない
11. 住宅を探している 理由	()

希望物件チェックリスト

自分の希望をはっきりさせておきましょう。

■希望する物件の内容

1. 家賃	()円から()円まで
2. 希望エリア	(1)最寄り駅 ()駅 (2)駅からの時間 (徒歩)分以内
3. 建物の種類	☐ アパート ☐ マンション ☐ 一戸建て
4. 部屋の階	()階
5. 間取り (1) 部屋数	()室
(2) 台所について	☐ K ☐ DK ☐ LDK ※K:キッチンのみ DK:ダイニングキッチン LDK:リビングダイニングキッチン
(3) 部屋のタイプ	☐ 洋室 ☐ 和室 ☐ どちらでもよい
6. トイレ	☐ 洋式 ☐ 和式
7. 風呂	☐ 風呂付 ☐ 風呂なしでもよい
8. エアコン	☐ 有 ☐ 無
9. 部屋の方角	☐ 南向き ☐ 南東向き ☐ 北向き以外 ☐ 何でも可
10. 周辺的环境	☐ 公衆浴場 ☐ コインランドリー ☐ 学校 ☐ その他()
11. 入居希望日	()年()月から

契約書で確認すること

契約書による契約は、貸す人と借りる人との権利と義務をはっきりしておく取り決めです。契約書へ署名(自分の名前を書くこと)することは、契約書に書かれていることに同意し、きちんと守るということです。内容をよく読み、説明してもらいましょう。そして、契約書に書いてあることを理解してから署名することが大切です。次のことは必ず確認しましょう。トラブルを防ぐためにもとても大切です。

家賃、管理費	金額と支払日、支払方法など
禁止事項	ペットの禁止など
契約の更新が可能かどうか	契約期間はふつう2年間です。2年経ってまた契約をするときに、家主から更新料を請求されることがあります。不動産屋からも更新手続の手数料を請求されることがあります。
契約終了時の条件	契約終了時に敷金が返されなかったり、高額なハウスクリーニングの費用を請求されることがあります。解約するときに支払うこととなる費用を前もって決めてから契約します。

契約更新・解約

日本の賃貸住宅では賃貸契約の更新を2年ごとに行います。これを契約の更新といいます。引き続き、契約を希望するときには契約更新料などを添えて不動産屋に申込みます。

逆に、帰国や転居などで契約を解約したい場合は、不動産屋、家主に知らせなければなりません。遅くとも1～2ヵ月前までには伝えます。

契約更新（更新の手続）

契約の更新を希望する場合は不動産屋、家主に申し出ます。その際、家賃は値上げされることが多く、家主からは新家賃の約1ヵ月分の更新料、不動産屋からは更新手続の手数料を請求されることがあります。

契約書については、以前に契約した契約書を引き継ぐことがほとんどです。また、満期がくる前に不動産屋から契約更新の有無を尋ねる連絡がくることもあり、家賃の値上げがない場合や更新料、更新手数料とも請求されないこともあります。

契約終了時（解約通知）

契約を終了したいときには、不動産屋を通じて、または家主に直接、解約したいと伝えます。早めに伝えることが大事で、契約内容に従って、1～2ヵ月前までに伝えなければなりません。

家主に知らせないで引越してしまったり、引越直前に知らせると敷金を返してもらえないことがあります。解約通知はくれぐれも早めに伝えましょう。

入居

家(部屋)が決まり、賃貸契約を結んだら、住むための準備をします。これから住む家(部屋)の掃除や、電気・ガス・水道の使用を申込み、住民登録・住所変更の届出などを行います。生活用品も揃えなければなりません。入居後は隣人へあいさつに行くことも大切です。

はじめての入居

■鍵の受け取り

家(部屋)の賃貸契約を結ぶと、家(部屋)の鍵が渡されます。この鍵は解約時には返すものから、なくさないようにします。なくした場合は速やかに家主・不動産屋に連絡をしなければなりません。また鍵の交換費用などを自己負担しなければならないことがあります。これは防犯上とても重要なことです。

■電気・ガス・水道の申込み

電気・ガス・水道が使えなくては生活できません。これらの使用申込は入居前に済ませておきましょう。地域によって多少異なりますが、おおむね次のような手順をします。

	電気	ガス	水道
いつ？	入居後、鍵を受け取った後	入居後、鍵を受け取った後	入居後、鍵を受け取った後
どこへ連絡する？	地域の電力会社へ	地域のガス会社へ	市区町村の役所の水道課などへ
どうすればいい？	ブレーカーのつまみを上げると、電気がつきます。すぐにブレーカーについているはがきに名前、住所、使用開始日などを記入してポストに投函します。はがきがついていない場合は電力会社へ直接連絡をします。	ガス会社へ電話で連絡をして、使い始めたい日時に来てもらいます。当日、ガス会社の職員が来て開栓してくれます。	市区町村の役所の水道課などに連絡をして、使い始めたい日に来てもらいます。自分でバルブのメーターを回して開栓し、備え付けのはがきに氏名、住所、使用開始日などを記入してポストに投函することもあります。
備考		ただし、調理に必要なガステーブルはほとんどの賃貸住宅についていませんから、来てもらう日までにガステーブルを購入しておきましょう。	下見・契約のときに「入居時にすぐに使えるのか」不動産屋や大家さんに聞いてください。

■室内清掃

これから住む家(部屋)の室内はおおむね良好な状態ですが、気持ちよく住み始めるためにも、入居前に室内の掃除をしましょう。掃除をするためにも、入居前に電気・ガス・水道の申込みをしておくことは大切です。

■生活必需品を揃える

日本の賃貸住宅には、一般的には、家具、カーテンなどの備え付けはありません。生活に必要な家具や家電、寝具、台所用品、バス・トイレ用品などは自分で用意しなければなりません。

■入居後のあいさつ

日本では、引越してきた人が隣人にあいさつに行くのが一般的です。近所の人と顔見知りになることは大切ですし、地域のいろいろな情報も教えてもらえるかもしれません。自分の名前やどんなことをしているかなど、簡単な自己紹介をしましょう。

■住民登録、住所変更の届出

居住する市区町村や役所へ届出をします。詳しくはA新しい在留管理制度・外国人住民基本台帳制度4 - 1居住地(住所)を変更したときをご覧ください。

■浴室・トイレの使い方

風呂場やトイレの排水管が詰まると、水があふれて大変なことになります。下の階の住宅に被害が出たときは、弁償(自分でお金を出して元どおりに直す)しなければならないこともあります。排水口に髪の毛などを流さないようにし、トイレではトイレットペーパー以外流してはいけません(ティッシュペーパーや生理用ナプキンも流してはいけません)。

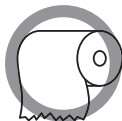


トイレの排水がつまると水があふれ出てしまいます。

トイレットペーパー以外のものはトイレに流してはいけません。



●トイレットペーパー



●ティッシュ

■ベランダの使い方

ベランダが緊急時の脱出用として使われている場合は、脱出口をふさがないようにすると同時に、避難用の隣の部屋との壁などの前には物を置かないようにします。

また、ベランダで布団などを干すときや、鉢植えなどの植物を育てるときは、それらがベランダから落ちないように気をつけます。

布団や鉢植えが落ちないように注意しましょう。

■共用部分の使い方

集合住宅では、自分の部屋以外の廊下や階段はみんなで使う共用部分です。地震や火事が起きたときなど緊急のときには、避難通路にもなるので、自分の荷物を置いてはいけません。

■自転車置き場・駐車場の使い方

集合住宅では、自転車は自転車置き場などの決められた場合に、きちんと並べて置きます。

また、車(自動車)は必ず駐車場を借りる必要があります。路上駐車はしてはいけません。駐車場は有料です。毎月駐車場代を支払わなければなりませんから、空いているからといって、自分が借りている駐車場以外へ駐車してはいけません。

転居・退去

新しい住宅へ引越す、転居・退去の際には、まず引越の日が決まり次第、家主へ連絡します。引越は一般的に引越業者に頼んで行います。電気・ガスなどの解約手続も忘れずに行い、明け渡す部屋はきれいに掃除。ゴミは部屋に残してはいけません。

引越準備

1. 家主への連絡

契約書に書かれている期限内(通常、1～2ヵ月前)に家主へ契約解約の連絡をします。

2. 引越方法の検討

日本にはたくさんの引越業者があります。引越専門業者のほか、貨物を運ぶ業者も引越を請け負ってくれます。価格は荷物の量や引越す距離、荷造りから荷物の積み下ろしまですべてをしてもらうなどサービス内容によって変わりますから、複数の業者から見積もりをとり、料金やサービス内容などを確認し、自分の希望にあう業者を選びましょう。見積もりの比較はインターネットなどでもできます。

3. 電気・ガス・水道の解約

引越をする2～3日前までに連絡しておきましょう。

	電気	ガス	水道
いつ？	引越をする2～3日前	引越をする2～3日前	引越をする2～3日前
どこへ連絡する？	近くの電力会社営業所に知らせます。	近くのガス会社営業所に知らせます。	今住んでいる市区町村の役所の水道課、または近くの水道事業所に知らせます。
どうすればいい？	引越をする日に係の人が来て、電気を止め、その日までの料金を計算してくれます。	引越をする日に係の人が来て、ガスを止め、その日までの料金を精算してくれます。	引越をする日に係の人が来て、水道の元栓を閉め、その日までの料金を精算してくれます。

引越

1. 荷物の運び出し

荷物はすべて部屋から出し、部屋をきれいに掃除します。ゴミは残してはいけません。

2. 粗大ゴミ

家具などの粗大ゴミや、ゴミが一度に大量に出る場合は市区町村の役所の担当窓口へ連絡し処分方法を確認します。

3. 鍵の返還

鍵を返還し、敷金の精算をします。家主や不動産屋の人の立ちあいのうえ、契約書に書かれている原状回復のルールに従いましょう。

※部屋を明け渡す(引越す)さいに、原状回復という考え方があります。原状回復内容は不動産屋や契約内容によって異なります。ときにはトラブルの原因になりますので、契約時に原状回復の責任範囲を確認するとともに、入居時には部屋の状況(現状)をきちんと確認しておくことが重要です。場合によっては、部屋の写真を撮っておくといいかもしれません。原状回復にかかった費用を敷金から差し引いた残金が退室時(契約終了時)に返されます。

4. 住所変更

転居するにあたって次のような手続が必要になります。これらの手続を忘れてはいけません。

■転居の手続一覧

	手続の方法は
居住地変更	転居した日から14日以内に引越先の市区町村の役所で、在留カードまたは特別永住者証明書などを持参して、新しい住所を登録します。引越先が今住んでいる市区町村でないとき(転出のとき)は、引越の14日前から引越までに、今住んでいる市区町村の役所で「転出証明書」を発行してもらい、引越の日から14日以内に引越先の市区町村での変更届出時に提出します。
国民健康保険や国民年金	引越先が今住んでいる市区町村でないとき(転出のとき)は、今住んでいる市区町村の役所に「資格喪失届」を出し、転出先の市区町村の役所で「居住地変更」をした後で、新しく国民健康保険、国民年金へ加入する手続をします。
運転免許証	居住地の警察署へ行き、住所変更届を提出します。
電話	契約している携帯電話会社へ住所移転の連絡をします。固定電話はN T T の116番に電話して、引越先への電話を移す工事を頼みます。
金融機関	住所変更の連絡をします。詳しくは講座開設している金融機関へ問い合わせてください。
郵便	現在住んでいる地区を担当している郵便局へ転居届を出します。そうすると、その後、1年間は転居先(新しい住所)に郵便物が転送されてきます。

※転居とは、現在住んでいる住宅から、新しい住宅へ引越をすることで、市区町村の役所では、「転居」とは同一市区町村内で引越すことをい、市区町村外へ引越すことを「転出」といいます。

住宅用語説明

■不動産屋

不動産の売買や、民間の賃貸住宅の仲介などを行う店。

■家賃

借りる住宅の1ヵ月の賃料。毎月、前の月に翌月(次の月)分を支払います。このため、最初はその住宅に引越す月の家賃と、翌月分の2ヵ月分を支払うことになります。家賃は通常、銀行口座引き落としです。銀行へ振込むことなどもあります。

■管理費・共益費

住んでいる人たちが共同で使う場所(階段や廊下など)や設備の管理、電気代、そうじ代などにかかるお金。家賃とは別に支払います。

■敷金

借りる人が契約をするときに、家主(家の所有者)に預けるお金。家賃の1～3ヵ月分を預けます。借りた人が新しい家へ引越すとき、家賃を払っていなかったり、借りていた住宅を壊したり、汚したりしたときの修理のために使われます。残ったお金があれば返されます。

■礼金

契約したときに、家主にお礼として支払うお金。ふつう、家賃の1～2ヵ月分で、返金されません。

■仲介手数料

部屋を仲介してくれた不動産屋に支払う手数料。ふつう、家賃の1ヵ月分を支払います。

■損害保険料

契約をするときに、家財などの損害保険に加入する必要がある場合に支払います。保険の種類によって、火災や水漏れなどの損害が補償されます。

■契約更新料

住宅を借りる契約期間は、ふつう2年です。2年経ってまた契約をするときには、家主から家賃約1ヵ月分の更新料を請求されることがあります。

■連帯保証人

借りた人が家賃などを支払えなくなったときに、代わりに責任を負ってくれる人のこと。多くの場合、入居申込時に必要です。保証人がいないときは、保証人代行会社を利用できる場合もあります。

■町内会・自治会

その地域に住む住民の組織。役所などからのお知らせを回す回覧板や防災訓練などのほか、お祭りなど住民同士の交流活動をしています。会費(月 300 円程度など)を請求されることもあります。

■同居者

借りる住宅に同居する人がいる場合は契約時に家主に届けることになっています。届出のない人を同居させると、退去させられる場合があります。

5 生活

近隣とのつきあい

日本の社会で円滑に生活していくために、隣近所の人達と仲良く交際し協力し合っていくことも必要です。

都市部はまだしも、地方にいくほど近隣のつきあいも重視されます。時には干渉が多くわずらわしさを感じる時があるかもしれませんが、日頃の親しいつきあいが無用のトラブルや誤解をなくすコツでもあります。

ただし、「地域の慣習」と称して個人の意思に反する行為を半ば強要された場合は、毅然として断ることも必要です。



自治会 (町内会)

どの地域にも住民相互の親睦や生活環境の改善を目的とした住民の自治組織「自治会」があります。(通称「町内会」とよばれます。)自治会は半面、「行政区」(行政の便宜を図るため市町村が定めた地域割りの)役割を担い、市町村から住民に対する広報活動なども自治会を通じて行われる例がしばしばあります。

自治会は原則的には任意加入ですが、毎日の生活の円滑化のため、入会の方がよいでしょう。自治会は親睦行事などのほか、町内の生活環境の維持(清掃、ごみ集積場の管理、街灯や自治会所有の公民館管理)も行っており、その恩恵を受ける住民としてはやむを得ないことかもしれません。

会費は自治会によって様々ですが、月額数百円程度のところが多いようです。このほか寄附金の集金や交代で役員を務めなければならない場合もあります。

子ども会

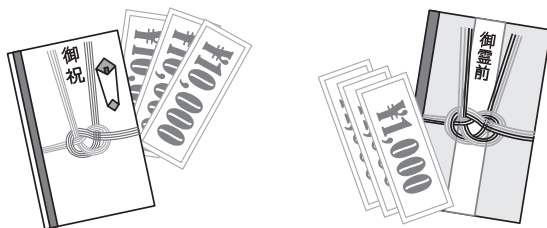
自治会には子どもどうしの親睦を図り健全な育成を目的とした「子ども会」があります。おおむね奨学生を対象とし、夏休み、冬休みの行事や廃品回収などを行っています。

慶弔

人生の大事な儀式を「冠婚葬祭」と称しますが、その中でも結婚式、葬式には友人、知人のみでなく、隣人も出席する場合があります。

結婚式などの「お祝い事」では、お祝いとして現金を贈る習慣があり、祝儀袋に入れて当日持参するなどします。

お葬式の形式で一番多いのは、仏教式です。人が亡くなった日、または翌日の夜に「お通夜」があり、近親者や隣人などが集まります。その後、「お葬式」があり出席する場合は「香典」（亡くなった人に供えるお金）を白と黒の「不祝儀袋」にお金を入れて持参します。服装は、「お通夜」の際は平服でかまいませんが、「お葬式」のときには男性は黒または濃紺のダークスーツでネクタイ、靴下も黒です。女性は黒の喪服で、アクセサリも金や銀がついているものは使いません。



除雪

公道の除雪作業は原則道路管理者である国、県、市町村が行いますが、除雪車が遅い(来ない)地域もあり、隣近所との協力で除雪作業を行わなければならない場合もあります。

ごみ

一般の家庭から出すごみは市町村が行政サービスとして無料で収集します。事業所から排出されるごみ(廃棄物)は、事業者が廃棄物処理業者に有料で処分を依頼しなければなりません。

一般の家庭のごみは、「燃えるごみ」、「燃えないごみ」、「資源ごみ」、「粗大ごみ」など市町村が定めた日(曜日)、時間に指定された方法で出してください。

ごみ集積所は、小屋型のものや室外の場所のみを指定したものなど地域によって異なります。また、市町村によって、ごみを入れる袋まで指定している場合がありますので注意してください。

燃えるごみ

- 紙くず、衣類、木くずなど

※「残飯」を「燃えるごみ」に含めず「生ごみ」として収集する市町村もあります。

燃えないごみ

- 金属類、プラスチック、陶器など

資源ごみ

- ビン、空き缶、紙パック、ペットボトル、古新聞、古雑誌など

粗大ごみ

- ごみ袋に入らない大きな廃品

※ごみの区分や出し方は市町村によって異なります。詳しくは大家や隣近所、あるいは自治会の役員、市町村担当課に確認してください。

ごみの分別

資源ごみのリサイクル効率をよくするため、分別して出します。分別の方法や出し方は、市町村それぞれ異なります。その地域のルールに従って出しましょう。

- 缶やリターナブルびん、新聞、雑誌、段ボール、紙パックの資源ごみは、それぞれの地域の集団回収に出しましょう。
- 市町村の収集する資源ごみは、ごみカレンダーを見て、定められた日にごみステーションに出しましょう。
- 廃家電製品は、買い換えのときに小売店や量販店などに引き取ってもらいましょう。
- 針などの危険なごみは、厚紙に包んで「危険」と書いてから出しましょう。

缶

缶にはアルミ缶とスチール缶の2種類があります。

● 空き缶の出し方 (⇒ 集団回収などへ)

- ① 中身を取り除きます。
- ② 中を軽く水洗いし、水を切ります。
(中身が少量でも残ると悪臭の原因になります。)

ガラスびん

● ガラスびんの出し方 (⇒ リターナブルびんは集団回収などへ)

- ① キャップや栓をはずします。
- ② 中を、軽く水洗いし、水を切ります。
(中身が少量でも残ると悪臭の原因になります。)

紙類

●**紙類の出し方**(⇒新聞、雑誌類、段ボールは集団回収などへ)

①種類別に分けます。

- 新聞(新聞紙、折込広告など)
- 雑誌類(週刊誌、単行本など)
- 段ボール(金具や粘着テープなどを取り除き、たたんで出します)
- その他紙類(紙箱、紙袋、包装紙などの紙製容器包装)
(箱類は大きさをそろえてたたみます)

②紙ひもで十文字に束ねます。

ビニールひもやビニール袋で出すのはやめましょう。

*混ぜてはいけないものは取り除きましょう。

紙でも混ぜてはいけないもの

- 窓のついた封筒
- 感熱紙
- ビニールコート紙
- ノーカーボン紙
- 防水加工紙
- 油紙
- 写真
- 合成紙(プラスチック製の紙など)
- 紙パック(別によりサイクルされます)
- ワックス加工紙(紙コップや紙皿など)

紙以外の混じりやすいもの

- 粘着テープ
- 金属類(クリップやホチキスの針など)
- セロハン
- プラスチック類
- アルミホイル
- ビニール袋

紙パック

●**紙パックの出し方**(⇒集団回収などへ)

①中をきれいに洗います。

②切り開き、プラスチックの注ぎ口などは取り除きます。

③日光に当てるなどよく乾かし、カビの発生を防ぎます。

*内側にアルミ箔が貼ってある酒などの紙パックはリサイクルできません。

プラスチック類

●ペットボトルの出し方

- ①マークのついているものだけを分別します。
(材質の違うものが混じると、リサイクルの工程でトラブルが発生します。)
- ②キャップをはずし、中身を取り除きます。
- ③中を軽く水洗いし、水を切ります。

●プラスチックの出し方

ペットボトル以外のプラスチック製容器包装は「プラスチック類」として分別の対象となっています。
ペットボトルと同様水洗いするなどしていますが、汚れのひどいものは焼却します。

- ①中身を取り除きます。
- ②中をきれいに洗って出します。

プラスチック製容器包装の例

- | | |
|---------------|--------------|
| ●レジ袋 | ●ペットボトルのキャップ |
| ●菓子・パンの袋 | ●プリンやゼリーの容器 |
| ●カップラーメンの容器 | ●卵パック |
| ●洗剤の容器 | ●豆腐パック |
| ●ソースやマヨネーズの容器 | など |

●トレイの出し方

容器包装リサイクル法の運用で、白色トレイだけは分別収集しています。

- ①軽くて簡単に割ることができる白色トレイだけを出しましょう。
- ②セロテープやラップなどの異物を取り除きます。
- ③洗って乾かします
(発泡スチロールトレイの多くは、生ものをのせて使用しています。洗わないと悪臭がします。)

家電リサイクル法の仕組み

家電リサイクル法に基づき、使用済みのテレビ、冷蔵庫、洗濯機・衣類乾燥機、エアコンが再商品化の対象となります。

再商品化対象家電製品(再商品化料金)

●消費者

使わない家電製品を小売店に引き渡します。消費者は、再商品化料金のほか運搬料金を負担します。

具体的な金額はメーカーによって異なりますので、確認してください。

●小売店

廃家電製品の運搬料金を設定し、次の場合に廃家電製品を引き取り、家電メーカーに引き渡します。

- ・自ら販売した家電製品の引き取りを求められたとき
- ・家電製品の販売に際し、同種の廃家電製品の引き取りを求められたとき

●家電メーカー

廃家電製品の引取場所の設置とともに、廃家電製品を再商品化します。

生活騒音、ペット

生活騒音

日常生活によって家の中やその周辺で発生する様々な騒音を「生活騒音」といいます。特にアパートやマンション等の集合住宅では、上下階の物音に関する騒音トラブルが多く発生しています。夜はまわりが静かになるため、小さな音でも大きく感じますので気をつけるようにしましょう。

ペット

アパートなどではペットを飼うことを禁止している場合が多いので確認が必要です。

犬を放し飼いにすることはできません。散歩を含め常に繋いでおくことが必要ですし、散歩中の糞の始末は飼い主の責任です。犬が吠えすぎるとか、隣家との距離が近い日本ではとかくペットをめぐるトラブルもおこりますので十分気を配ってください。

生後 91 日以上の犬は役所への登録と年に 1 回予防接種が必要です。

7 金融機関

金融機関の種類

日本には、次のような金融機関があります。

- **中央銀行** 日本銀行
- **政府金融機関** 住宅金融公庫など
- **民間金融機関** 銀行(普通銀行、信託銀行、長期信用銀行、ゆうちょ銀行など)
地域金融機関(信用金庫、信用組合など)
その他(農業協同組合(JA)、保険会社、証券会社など)

それぞれ目的が異なりますので、単に預金口座を開き、口座振込や口座振替に利用するのであれば、県内各地に支店がある普通銀行、信用金庫、ゆうちょ銀行、JA などが便利でしょう。

■預金口座

預金口座の主なものには、「普通預金口座」と「当座預金口座」がありますが、当座預金口座は小切手・手形支払いのため主に企業が利用する預金ですので、一般には普通預金口座を開設します。

普通預金口座は1円でも開設ができます。次の書類等を持参のうえ、金融機関の窓口で手続きを行ってください。

持参書類等

- 身分を証明できるもの(在留カードなど)
- 印鑑

■預金通帳

金融機関に預金すると、預金通帳を渡されます。預金通帳には、預金額、払出金額、利息などが記入されます。預金口座開設の際、届出した印鑑と通帳があれば誰でも払出しが可能となりますので、大切に保管しましょう。

■キャッシュカード

預金口座の開設に合わせて、キャッシュカードの発行も申し込みましょう。銀行の窓口は、通常、土曜日、日曜日、祝日を除く朝9時から午後3時までしか営業していません。キャッシュカードで預金の払出しができるの現金自動預払機(ATM)又は現金自動支払機(CD)を利用すれば、平日は午後9時まで、土曜日、日曜日でも午後5時まで払出しが可能ですし、他銀行の預入自動払出機などを利用した払出しも可能です。(取扱銀行によって営業時間が異なります。他銀行間の払出しや時間外の払出しには手数料がかかります)

なお、キャッシュカードを利用する場合、印鑑に代えて「暗証番号」を利用します。

■口座振込

他人に送金する方法には、現金書留郵便、郵便為替、小切手の送付などでも可能ですが、他人の預金口座に送金できる口座振替が便利です。

口座振替は、振込用紙に相手方の銀行名、支店名、預金種目、口座番号、氏名、振込金額と自分の住所、電話番号などを記入し、預金口座に振込む現金を添えて銀行窓口へ提出します。また、現金自動預払機(ATM)でも振込ができます。

なお、振込先金融機関、振込金額によって異なりますが振込手数料がかかります。(同一銀行でも手数料がかかります)

■口座振替

口座振替とは、本人と契約者が金融機関を介して定期的に口座間の預金を移動させることです。例えば、電気料金の口座振替を金融機関に申し込めば、定期的に電気料金の請求金額が電力会社の口座に振り込まれるため、逐一支払いの手続きをおこなう手間が省けます。

電気、ガス、水道、電話料金などの公共料金ばかりではなく、様々な定期的な支払いに活用されています。

公共料金の口座振替を行うためには、金融機関に備えている「口座振替依頼書」に必要事項を記入し、預金口座用の印鑑を押印し、提出します。(コンビニエンスストアなどにも口座振替依頼書が置かれている場合もあります。この場合、郵送で金融機関に申し込むことができます)

■換金

日本円と海外通貨との換金は、「外国為替取扱店」、「外貨両替取扱店」の表示がある銀行で行っています。

なお、換金には、手数料がかかります。

■借入れ

金融機関は、さまざまな手数料収入のほか、預金で貯蓄した資金を活用した融資の利息収入で経営されており、貸付は金融機関の主要な業務です。

日本では金融機関から借入を行う際、担保(借金を返済できない場合代わって差し押さえることができる物件)がない場合、その人の返済能力を考慮した貸付が行われます。したがって、学生や定職を持たないなどは借入が困難です。

外国人の場合は、不動産などの担保や固定した職業がない場合、日本人以外に借入が困難かもしれません。具体的には個々の事情により判断する必要があるため、金融機関に相談する必要があります。

■クレジットカード

クレジットカードは銀行系カード会社や信販会社などが取り扱っていますが、銀行などでも加入申し込みができます。欧米に比べればまだまだクレジットカードが利用できない店舗もありますが、日本でもクレジットカードが普及してきています。

外国人がクレジットカードを申し込む場合、上記の借入れほど厳格ではありませんが、やはりその人の返済能力や信用度が考慮されます。外国人の場合は国際的に通用するクレジットカード(VISAカード、マスターカードなど)を本国で作られることをお勧めします。



8 国内郵便・宅配便

国内郵便

郵便には主に、「はがき」「封書」「小筒」があり、郵便物の種類や大きさ重さ等により、郵便料金が異なります。

このほかにも、付加できる特殊取扱いがあります。例えば、現金や貴重品を郵送する時に付加する「書留」。これを付加すると、万一紛失等の事故が発生した場合は、損害が賠償されます。(普通郵便では、損害が賠償されません。)また、早く郵便物を相手に届けたい場合は「速達」、差し出した郵便物の内容を証明する「内容証明」、郵便物の配達を証明する「配達証明」、希望した日に配達する「配達日指定」等様々な特殊取扱いがあります。(特殊取扱を付加すると、郵便料金に特殊取扱料金が加算されます。)

■国内郵便料金(基本料金)

種類	内容		重量	料金
手紙	定型郵便物		25gまで	82円
			50gまで	92円
	定型外郵便物	規格内 長辺34cm以内、 短辺25cm以内、 厚さ3cm以内 および重量1kg以内	50gまで	120円
			100gまで	140円
			150gまで	205円
			250gまで	250円
			500gまで	380円
			1kgまで	570円
			規格外	50gまで
		100gまで		220円
		150gまで		290円
		250gまで		340円
		500gまで		500円
		1kgまで		700円
		2kgまで		1,020円
		4kgまで	1,330円	
ミニレター		25 gまで	62円	
レターバックライト 厚さ3cm以内		4kgまで	360円	
レターバックプラス 厚さ3cm以内		4kgまで	510円	
はがき	通常はがき			62円
	往復はがき			124円

宅配便

専門業者が、コンビニエンスストアなど取扱店として小口荷物(30kgまで)国内で配達するサービスが「宅配便」(宅急便)です。業者により、重量区分や大きさの取扱いが異なり、料金も様々です。

配達日指定、配達時間指定、生ものの配達など様々なサービスがあります。

空港カウンターに送ることができる「空港宅急便」は、海外へ出国する場合、よく利用されています。



9

県内の交通

県内の交通

県内の主な公共交通機関は鉄道とバスですが、運行本数や路線が限られ、必ずしも首都圏のように便利ではありません。

このほか、各市町村にはタクシー会社やその事務所があり、航空旅客機は花巻空港から発着しています。

■鉄道

県内の鉄道は、**JR**(東日本旅客鉄道)、**IGR いわて銀河鉄道**、**三陸鉄道**があります。

- **JR** は、東北新幹線(東京～盛岡～新青森)、秋田新幹線(東京～盛岡～秋田)、東北本線(盛岡～上野)、田沢湖線(盛岡～大曲)、北上線(北上～横手)、山田線(盛岡～宮古)、釜石線(釜石～遠野～花巻)、大船渡線(盛～陸前高田～一関)、八戸線(久慈～八戸)及び花輪線(好摩～大館)を運行しています。
- **IGR いわて銀河鉄道**は、いわて銀河鉄道線(盛岡～目時)を運行しています。
- **三陸鉄道**は、リアス線(久慈～盛)を運行しています。
一部区間ではBRT(バス高速輸送システム)で運行しています。

■バス

県内の定期路線バスは、盛岡以南の地域が岩手県交通、盛岡以北の地域を岩手県北バスが運行しており、その他一部の地域を JR バスや南部バスなどが運行しています。

■タクシー

タクシーは、都市部であれば駅前に待機している場合もありますが、電話で呼ばなければならない場所もあります。

■飛行機

県内唯一の飛行場であるいわて花巻空港は花巻市にあり、盛岡駅、花巻駅、北上駅などから路線バスが定期的に運行されています。盛岡駅からは 45 分程度かかります。

■バスの乗り方

- バスの停留所でバスを待ちます。通貨時刻が停留所の案内板に掲載されています。



- 岩手県内ではバスの乗車口が中央のものと前方のものがあります。整理券は忘れずにとります。



- 降車したいバスの停留所が近づいたら降車ボタンを押します。



- 料金は出口上方に整理券番号に合わせ表示されますので、整理券と一緒に投入します。
(両替もできます。)



■バスカード

バスカード(プリペイドカードの一種)を使って料金を支払うことができるバスもあります。(岩手県交通と岩手県北バスは、それぞれのカードが必要です。)

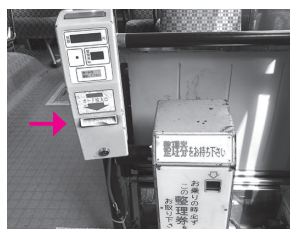
これを使えば、小銭を用意する必要がないうえ、料金の割引もあります。バスカードはバス案内所などで販売していますが、バスの運転手からも購入できます。



カード投入口よりカードを差し込みください

カード残高と整理番号が表示されます。ご確認ください。

カード取出口よりカードをお取りください。



※カード残高が不足している場合は、カードが支払機内にとまります。不足額は新しいカードまたは現金でお支払いいただけますので、乗務員にお申し出ください。

■タクシー

タクシーに乗りたい時は、空車に手をあげて合図するとその場で乗車することができます。また、タクシー会社に電話をかければ自宅などまで迎えに来てもらうこともできます。(自宅などまでは無料)

タクシーには4人乗りの小型車と4人乗りの中型・9人乗りのジャンボタクシーなどがあり、屋根に「TAXI」の表示があります。

目的地についたら、運転席横のメーターに表示された料金を支払って下車します。チップは必要ありませんが、深夜早朝割増し料金がかかる場合があります。

交通ルール

交通ルールは、主に交通の安全と交通のスムーズな流れを確保するためにつくられたきまりです。

日本の道路の特徴として、高速道路を除き、すべての道路が、人々が住み、生活している場所内にあることから、交差する道路が多く、自動車と歩行者・自転車が混在した道路環境になっています。

そのため、交通秩序の維持や交通事故の防止のため、交通ルールの違反に対しては、厳しく取締りを行っています。

違反の種類によって罰金や運転免許の取消などの罰則があり、スピードの出し過ぎや飲酒運転などの悪質・危険な行為には特に厳しい罰則が加えられます。

自動車の運転者だけでなく、歩行者や自転車に乗る人も交通ルールを守り、交通信号機や道路標識に従って、他人に迷惑をかけない行動をすることが交通ルールの基本です。

■運転免許

日本国内で自動車を運転するには、運転免許証が必要です。運転免許証なしで運転した場合、無免許運転として厳しく罰せられます。

外国人が日本国内で運転するには、次に該当しなければなりません。

- (1) 日本と相互協定を締結している国又は地域の運転免許証及び翻訳証明書を所持していること。(エストニア、スイス、ドイツ、フランス、ベルギー、モナコ及び台湾)
- (2) ジュネーブ条約加盟国が発行した国際運転免許証を所持していること。(入国又は発給日から1年間有効。ただし、国際免許証の有効期限が切れて再発行を受ける場合には、再発行を受けてから発給国に3か月以上の滞在が必要となります。)
- (3) 外国の運転免許証を日本の運転免許証に変更する。
- (4) 日本の運転免許証を取得する。

■運転免許証の変更手続き

自国の運転免許証を日本の免許証に変更するためには、運転免許センターなどに申請する必要があります。

〔申請条件〕

- (1) 第一種免許に限ること。
- (2) 岩手県内に住所があること。
- (3) 外国で取得した免許証の期限が切れていないこと。
- (4) 免許証を取得した国で取得後 3 か月以上居住していたことが証明できること。

〔必要書類〕

- (1) 外国で取得した運転免許証
- (2) パスポート、在留カード
- (3) 滞在日数の確認がとれる証明書類
- (4) 住民票
- (5) 外国免許証の日本語による翻訳文
(大使館、領事館又は日本自動車連盟(JAF)が発行したものに限る。)
- (6) 写真 1 枚(知識・技能の確認を伴う場合は 2 枚)
縦 3 センチ×横 2.4 センチ(無背景、無帽、正面、上三分身、6 か月以内に撮影したもの)

〔申請窓口〕

●月曜日から金曜日(要予約 祝日、振替休日、年末年始は受付を行いません)

○知識・技能の確認を伴わない申請

盛岡運転免許センター ☎ 019-606-1251

県南運転免許センター ☎ 0197-44-3511

沿岸運転免許センター ☎ 0193-23-1515

県北運転免許センター ☎ 0194-52-0613

○自動車運転免許試験場 ☎ 019-683-1251

・書類の確認 午後 3 時

・知識・技能の確認 午前 9 時

〔費用〕

免許の種別により異なりますので各運転免許センターなどへお問い合わせください。

■日本の運転免許証の取得

日本の運転免許証を取得するためには、日本の自動車教習所に通い運転免許センターなどの筆記試験に合格する方法と、交通規則などを自習したうえで同じく運転免許試験所での筆記と運転技術の実技試験に合格する方法があります。

自動車教習所に通うのは時間的にも費用的にも大きな負担(30 時間以上、30 万円以上が必要)がかかりますが、日本人でも自習の方法で合格することは非常に難しのが実情です。

ただし、外国の運転免許証を持っていなければ、上記の方法によらざるを得ませんが、日本語を理解できることがあくまでも前提です。

■交通事故

交通事故を起こしたときは、次のように対応してください。

- 路肩、空き地など安全な場所に車をとめる。
- 負傷者がいるときは応急の救護を行う。
- 救急車(☎ 119 番)、警察(☎ 110 番)に連絡する。

(事故を起こして負傷者を救護せず逃走すると「ひき逃げ」の罪、警察に申告しないと「不申告」の罪を問われます。)

- 警察官の指示に従うこと。

特に死亡事故を起こした場合は、日本の業務過失致死傷罪として厳しく罰せられ、免許証の取消又は停止だけでなく、刑法上の処罰が責任に応じて加えられます。さらに相手に与えた経済的な損害はもちろん、精神的な損害賠償もしなければなりません。

また、交通事故による損害賠償などの事後処理は、複雑で多岐にわたっています。万一、交通事故の被害者あるいは加害者となったときは岩手県民生活センター(☎ 019-624-2244)で相談に応じています。

■自動車損害賠償責任保険

オートバイや自動車を所有する場合、自動車損害賠償責任保険(強制保険)に加入しなければなりません。自動車及び 25lcc 以上のオートバイは、継続検査(車検)を受けることが法律で義務づけられており、この手続きのときに自動的に保険加入の手続きが行われることになっています。

しかし、250cc 以下のオートバイには、検査の義務がないため、保険の有効期限が切れている場合があります。特に、250cc 以下の中古オートバイを購入した場合は、保険の有効期限をよく確かめてください。保険加入の手続きは販売店で取り扱ってくれます。

自動車損害賠償責任保険の保障限度額

- 傷害損害保障 120 万円
- 後遺傷害損害保障 75 万円～ 4,000 万円
- 死亡損害保障 3,000 万円

■任意保険

自賠責保険は保障限度額が限られているため、相手方に対する損害賠償費用を負担するには不足することが多く、また、自分の治療費用等は対象となりません。オートバイや自動車を所有する人は、必ず任意保険も加入することをお勧めします。

 10 救急

警察

交通事故、盗難などにあったときは、局番なしの「110」に電話をかけると警察につながります。

- 警察が出たらあわてずに「交通事故です」「ドロボウです」「助けてください」などと用件を伝えます。
(外国語が通じないことを想定して、簡単な日本語は覚えましょう。)
- 事故などが発生した場所をしっかりと伝えましょう。
(住所がわからないときは目印となる建物を伝えます。)

■消防車・救急車

火事を発見したとき、急病、けがのときは、いずれも「119」(局番なし)のダイヤルで消防署に電話をします。(消防車、救急車とも消防署に配置しています。)

- 消防署が出たらあわてずに、「火事です」「事故です」「急病です」などと用件を伝えます。
- 消防車又は救急車に来てほしい場所をしっかりと伝えましょう。どのような状況、内容なのかも伝えられると良いでしょう。

公衆電話からの緊急電話

公衆電話からも無料で110番、119番をかけることができます。

携帯電話からの緊急電話

携帯電話からも無料で110番、119番をかけることができます。

11 災害

地震

日本は地震の多い国ですが、岩手県は中でも地震が多い地域といって良いでしょう。
日頃からの心構えと対策をしましょう。

●あらかじめ地震に備えた対策を考えておきましょう。

- 自分が住んでいる地域の避難場所を確認しておきましょう。
- 避難にあたって家族の集合場所をあらかじめ決めておきましょう。
- 家の中に倒れやすい家具はありませんか。家の周囲に危険な場所はありませんか。確認しておきましょう。
- 家族や近所にお年寄りや体の不自由な人はいませんか。地震のとき助け合うよう心がけましょう。

●非常時に持ち出す品と保管場所を前もって決めておきましょう。

(非常食品、救急医療品、衣類、通帳、印鑑、ラジオ、懐中電灯など)

●地震がきたらあわてずに行動することが大切です。

- 建物の中に閉じ込められないように、窓や戸を開けましょう。
- 大地震でも揺れは1分程度。揺れがおさまってからでも間に合います。落ちついてテーブルの下などに伏せましょう。
- 火の始末をしましょう。

●避難は冷静に行動しましょう。

- 車は使わず徒歩で避難しましょう。荷物は最小限にし、身軽な行動を心がけましょう。
- 落下物、倒壊物などに十分注意しましょう。
- テレビ、ラジオなどで正しい情報を聞き、うわさやデマに振り回されないようにしましょう。

■気象庁震度階級

地震の階級	地震の状況
1	室内でわずかな揺れを感じる。
2	電灯などのつり下げた物がわずかに揺れる。
3	室内にいる人のほとんどが揺れを感じる。
4	電灯などのつり下げた物は大きく揺れ、座りの悪い置物は倒れることがある。
5 弱	棚にある食器類や本が落ちることがある。固定していない家具が移動することなどがあり、不安定なものは倒れることがある。
5 強	固定していない家具が倒れることがある、補強されていないブロック塀が倒れることがある。
6 弱	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがあり、耐震性の低い木造建物は傾いたりするものもある。
6 強	大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山林の崩壊が発生することがある。
7	耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがあり、耐震性の低い鉄筋コンクリート造り建物では、倒れるものが多くなる。

津波

沿岸部では、地震が発生したときは常に津波に注意する必要があります。岩手県の沿岸部は、太平洋に張り出しており、しかも入り江や湾が多いため、高い津波が押し寄せ予想以上の被害をもたらします。県内では過去に何度も津波による災害が発生しています。

- 沿岸部の低い場所で地震を感じたら、すぐ高台に避難しましょう。1 分の遅れが生死を分けることも有ります。特に津波が迫っている場合、車などでの避難はさけ、徒歩で避難しましょう。
- 津波は何度も繰り返しやって来ます。警報や注意報が解除されるまでは、絶対に海に近づいてはいけません。
- あらかじめ、地震が来たらどういった経路で避難場所へ逃れるかなどを決めて、いざというときに備えておきましょう。
- ラジオやテレビなどにより正しい情報を把握し対処しましょう。

12 警察

警察

日本では、各地域に「交番」を設け、警察官が巡回するなど地域の治安維持に努めています。

最近では、外国人がからんだ事件も増加していることから、警察官が外国人に対し職務質問をするなどの場合も予想されます。その際は、お互い不愉快な思いをしないためにも、在留カードなどを提示し、誠実に質問に答えるなど協力的な態度で臨むべきでしょう。

警察とは、日頃から協力関係を維持し、外国人自身が事件やトラブルに巻き込まれたときは、警察に相談してください。

逮捕・拘束

刑事事件の被疑者として警察官に逮捕された場合、次のような手続きに従って勾留されることになっています。

- ①警察官は、被疑者を取り調べた後、身体を拘束したときから 48 時間以内に釈放するか、あるいは検察官に送致します。
- ②検察官は、被疑者に 24 時間以内に尋問を行い、身体を拘束したときから 72 時間以内に釈放するか、あるいは裁判官に勾留を請求します。
- ③裁判官は、検察官から勾留の請求を受けたときは速やか勾留状を発します。ただし、勾留の必要がないと認めるときは、直ちに被疑者の釈放を命じなければなりません。勾留期間は 10 日以内です。(刑事訴訟法 208 条 1 項)

なお、やむを得ないと認めるときは、検察官の請求により 10 日間を越えない範囲で勾留期間を延長することができます。

- ④検察官は最長 20 日間以内(逮捕から 23 日以内)の捜査を基に被疑者を釈放するか、あるいは起訴するかの判断をします。拘留されたまま起訴された場合は、被疑者は被告人とされ拘留が継続されますが、保釈請求は可能です。
- ⑤弁護士を呼ぶことができる旨は、逮捕の際、被疑者に対して告げられなければならないことになっています。「当番弁護士制度」という当番制で 24 時間受け付ける制度があり、警察官、検察官、裁判官を通じて弁護士会に弁護士を依頼することができます。1 回目の接見は無料ですが、引き続き弁護を依頼する場合は有料となります。弁護士費用の支払いが経済的に困難な人に対しては、弁護士費用を援助する制度として「法律扶助協会刑事被疑者弁護人援助事業」があります。



13 消費者トラブル

消費者トラブル

甘い言葉でインチキまがいの商品を高い値段で買わせる詐欺商法が後を絶ちません。日本人も多く
の被害者が出ています。言葉や習慣に慣れていない外国人は一層の注意が必要です。親切
な態度が善良なのか悪意なのか見極め、「うまい話には裏がある。」と気を引き締めてくだ
さい。

また、意思疎通がうまくいかないためのトラブルもあります。商習慣が違うことを念頭に、十分相手
方と売買条件などを確認しましょう。

なお、こうした消費者トラブルを防ぐため、一定の期間内であれば消費者が一方的に売買の契約を
解除できる「クーリング・オフ制度」があります。

- 消費者トラブルやクーリング・オフの相談は、岩手県民生活センター(☎ 019-624-2209)又は
市などの消費生活センターへお問い合わせください。

for Foreign Residents

Iwate

Living Information Handbook





1

Status of residence

Period of stay

The following 11 periods of stay are possible: 15 days, 30 days, 90 days, 3 months, 6 months, 1 year, 1 year and 3 months, 2 years, 2 years and 3 months, 3 years and 5 years, and permission can also be granted monthly for the necessary period of time to leave the country. In the event that the stay exceeds this period, extension of period of stay is necessary.

Extension of period of stay

If you want to extend your period of stay continuing the same activities, you must carry out the procedures for extension of period of stay. Applications can be made prior to the expiry of your period of stay (from about 3 months prior to expiry for people whose period of stay is 6 months or more).

If the result of your application for an extension is not given within your allowed period of stay, it is possible to stay in the country for a maximum of 2 months after the expiry of your period of stay. (If the result of your application is given within the 2 months, the expiry is from the day of the result.)

The necessary documents required for applications vary depending on your status of residence and period of stay, so please enquire at the regional immigration bureau in the area where you live.

Necessary documents	1 Application for extension of period of stay 2 Photograph 3 Documents required for content of activities and living circumstances in Japan 4 Passport or residence status certification 5 Residence Card 6 Permission to engage in an activity other than that permitted by the status of residence previously granted (if permission to engage in an activity other than that permitted by the status has been granted) 7 Letter of guarantee, etc.
Where to submit application/enquiries	Where to submit application: Regional immigration bureau in the area where you live Enquiries: Regional immigration bureau in the area where you live, or a foreign residence general information center
From when/until when	Applications can be made prior to the expiry of your period of stay (from about 3 months prior to expiry for people whose period of stay is 6 months or more.)
Fee	4,000 yen (stamp) when permission is given

Illegal stay

If you overstay your period of stay by as little as one day, this will be considered “Illegal stay (overstaying).” As a general principle, you will not be admitted to Japan again for a certain period. For illegal overstayers to return to their countries, the following procedures are carried out.

Return to own country in normal manner	In the event of unavoidable circumstances or a very brief illegal overstay, it may be possible for the procedures for extension of period of stay to be carried out, and if this is recognized, you can leave Japan in the normal fashion. In such cases, please notify your nearest regional as quickly as possible.
Return to own country under a departure order	Out of persons in breach of immigration law, for those for those illegal overstayers who fit certain stated requirements, the system for return home to one's own country in which the person can return home via straightforward procedures without the person being taken into custody is the “departure order system” Persons applicable for the departure order are overstayers meeting all of the following criteria: (1)Are willing to leave Japan and return to their own country promptly, and have appeared before their regional immigration bureau (2)Do not correspond to reasons for forced repatriation from Japan apart from the illegal overstaying (3)Following entry into Japan, have never served prison time or penal servitude for any crime corresponding to property crime (4)Have never been forcibly repatriated or returned to their own country under orders in the past (5)Where it is believed that the person is sure to leave Japan promptly
Forced repatriation (deportation)	In the event that the illegal overstay is arrested, the person will be taken into custody at a detention center etc. Following this, in the event that the person is handed over to their regional immigration bureau and the procedures for forced repatriation are carried out, the person may be prosecuted and taken to court. Persons who leave Japan through forced repatriation are not admitted to Japan for the next five years. In the event that the person has already been forcibly repatriated in the past, this is increased to 10 years, and there are cases where people have been permanently forbidden from entering Japan again. NB: Special permission for residence: It is possible even for people who meet the criteria for forced repatriation to be granted permission to stay in Japan by the Minister of Justice in the light of special circumstances. In this special permission for residence, the Minister of Justice decides whether the person will be allowed to stay. The person can continue to live in Japan having received status of residence only in cases where this permission is given.

Change of status of residence

Persons whose status of residence is “Spouse or Child of Japanese National” “Long-Term Resident” “Permanent Resident” or “Spouse or Child of Permanent Resident” have no restrictions on their activities. There is therefore no need for them to change their status of residence according to their occupation. However, persons with other types of status of residence need to change their status of residence, in the event of changing occupation or starting to work, to a status which fits their occupational activities. They must put in an “Application for changing status of residence” at their regional immigration bureau. The necessary documents vary depending on your status of residence and period of stay, so please enquire at the regional immigration bureau in the area where you live.

Necessary documents	1 Application for extension of period of stay 2 Photograph 3 Documents required for content of activities and living circumstances in Japan 4 Passport or residence status certification 5 Residence Card 6 Permission to engage in an activity other than that permitted by the status of residence previously granted (if permission to engage in an activity other than that permitted by the status has been granted) 7 Letter of guarantee, etc.
Where to submit application/enquiries	Where to submit application: Regional immigration bureau in the area where you live Enquiries: Regional immigration bureau in the area where you live, or a foreign residence general information center
From when/until when	From the time when the reason for change in status arises, and before the expiry of the period of stay
Fee	4,000 yen (stamp) when permission is given

Application for permission for permanent residence

People who wish to stay permanently in Japan must apply for permission for permanent residence. You can apply for permission for permanent residence at your regional immigration bureau. If you are granted permission for permanent residence, you will become a permanent resident and can stay in Japan for your entire life while keeping your nationality. Procedures for extension of period of stay and procedures for change of status of residence are not necessary, but when you leave Japan (for example for a vacation) you must have a re-entry permit. (However, if you possess a valid passport and Residence Card, and return to Japan within 1 year after leaving the country, a re-entry permit is not required.) There are a number of conditions necessary for permission for permanent residence, so for details please contact your nearest regional immigration bureau.

Fee

8,000 yen (stamp) when permission is given

Permission to engage in an activity other than that permitted by the status of residence previously granted

If, for example, a foreign college student wishes to take a part-time job, he or she must get permission to do this. (However, foreign students [4th year, 5th year or post-graduate students only] do not need to get permission to do work as a teacher assistant, or research assistant in the university or college they are enrolled in.)

If a person whose status does not allow him or her to work wishes to undertake activities to earn an income, such as a part-time job, he or she must acquire permission to engage in an activity other than that permitted by the status of residence previously granted from his or her regional immigration bureau. If you are a student or dependent and working part-time, there are limitations on work content. If you engage in employment which is not within the scope of activities permitted by your status of residence, this will constitute "illegal work" and you will be subject to penalties. For details please contact your nearest regional immigration bureau.

Necessary documents	1 Application for permission to engage in activity other than that permitted under the status of residence previously granted 2 Document which clarifies the contents of the activities relating to the permission to engage in an activity other than that permitted by the status of residence previously granted 3 Passport or residence status certification 4 Residence Card, etc. 5 Documents, etc. proving personal identification (when an application is being made by a proxy)
Where to submit application/enquiries	Where to submit application: Regional immigration bureau in the area where you live Enquiries: Regional immigration bureau in the area where you live, or a foreign residence general information center
When	When you want to receive remuneration for activities other than those in the status of residence currently acquired
Fee	Free

Acquisition of status of residence

For a child who has been born in Japan and does not have Japanese nationality to reside in Japan, an application must be made at the immigration bureau whose jurisdiction they are under, and procedures carried out for the acquisition of status of residence within 30 days of the child's birth. However, there is no need to do this in the event that the child will leave the country within 60 days.

Necessary documents	1 Application for permission to acquire status of residence 2 Birth certificate, Maternal and Child Health Handbook etc. 3 Both parents' passports, or both parents' Residence Cards 4 Letter of guarantee, etc.
Where to submit application/enquiries	Where to submit application: Regional immigration bureau in the area where you live Enquiries: Regional immigration bureau in the area where you live, or a foreign residence general information center (please refer to "4 Inquiries concerning status of residence")
When	Within 30 days of the child's birth; however, there is no need to do this in the event that the child will leave the country within 60 days
Fee	Free



Here, we will describe marriage and divorce of foreigners according to Japanese law. The major difference from Japanese nationals is that in addition to providing a notification in Japan, a notification must be sent to the foreigner's own country as well. It is also necessary to undertake other kinds of notification for the marriage or divorce.

Marriage

An international marriage must confirm to the law of each country of the two persons who are marrying. It is important to undertake the procedures for marriage in both countries. Specifically, the various notifications in addition to marriage notification (refer to 3 Notifications for marriage/divorce) are stipulated in the relevant laws; please remember to undertake these procedures. In these cases, there are many instances where notifications where notifications are issued through places of work or schools, so please inform your place of work or school.

Marriage in Japan

The following conditions for marriage are stipulated under Japanese law. All of these conditions must be fulfilled.

- The minimum age for marriage is 18 in the case of men, 16 in the case of women (Article 731 of the Civil Law)
- In the case of persons under 20, parental consent is necessary (Article 737 of the Civil Law)
- Polygamy is prohibited (Article 732 of the Civil Law)
- In the case of a woman remarrying, legally six months or more must have elapsed since the day of her divorce (Article 733 of the Civil Law)
- A person cannot marry a close relative (a direct blood relative or close blood relative to the third degree) (Article 734 of the Civil Law)

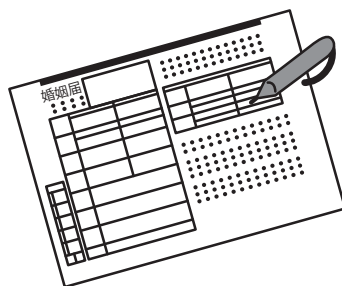
Marriage notification

Marriage notification means the notification which is submitted to the administrative office of the persons' municipality when they marry. The factors necessary for a marriage to be brought about vary from country to country, so it is necessary for the Japanese person to fulfill the Japanese requirements (condition) for marriage, and for the foreigner to fulfill those for his or her own country. Therefore, when a foreigner marries, they must submit a certificate of legal capacity to contract marriage which proves that he or she fulfills the factors for marriage.

The certificate of legal capacity to contract marriage for the foreigner is issued by the embassy or consulate of his or her country in Japan. If it is printed in a foreign language, a translation signed by and impressed with the seal of the translator is attached to the certificate. In the case of a country which does not issue certificates of legal capacity to contract marriage, alternative documentation must be prepared; for details, please enquire at the administrative office in your municipality.

Necessary documents	1 Marriage notification (This application form is available at the administrative office of your municipality. It requires signatures and seals from 2 witnesses over 20 years old.) 2 Family register (of the Japanese national) 3 Certificate of legal capacity to contract marriage, or substitute document (of the foreigner) 4 Passport, etc. (to prove nationality)
Where to submit application/enquiries	The administrative office of the municipality of either one of the two persons, or at the administrative office of the municipality which is the registered domicile of the Japanese national
From when/until when	At your discretion
Person(s) who must submit the notification	The two persons who are getting married

* If the acceptance of marriage notification is necessary, you can have this issued after the acceptance of the documents



Between a foreign national and a Japanese national

When a Japanese national and a foreigner marry in Japan, hand in the marriage notification according to the regulations of the family register. With this, the preparations on the Japanese side are completed, and the foreigner should notify his or her own country. The acceptance of marriage notification is necessary for this, so you should ask for the acceptance of marriage notification to be issued to you when you submit the marriage notification. The method of procedures varies from country to country, so confirm with the embassy or consulate of your country in Japan. Persons wishing to change their status of residence to that of a spouse of a Japanese national should consult their local immigration bureau.

How to fill in the marriage notification

The marriage notification is to be filled in the same manner as Japanese nationals, except for the points given below.

- **The name, date of birth and address of the person**

Fill these in katakana, in surname-first name order. Please put a pause mark • between the surname and first name. The date of birth may be in Western style.

The address should be the place given in the resident registration.

- **Registered domicile**

The nationality of the person alone should be put.

- **Signature/seal**

The signature alone will suffice.

Between foreign nationals

In cases where two foreigners wish to marry in Japan, the method of procedures varies from country to country, so confirm with the embassy or consulate of your country in Japan. In the event that you undertake the procedures for marriage at the administrative office of your municipality, confirm with this office as to what documents are necessary (you should ask for the acceptance of marriage notification to be issued to you when the documents have been accepted). In addition, you will need to notify your respective countries.

Nationality after marriage

When a foreigner marries a Japanese national, this does not mean that he or she automatically acquires Japanese nationality. In order to acquire Japanese nationality, you must obtain permission for naturalization from the Minister of Justice.

Various Notifications on one's marriage/divorce

When a marriage notification or divorce notification is submitted, the following notifications need to be submitted in line with this. In these cases, there are many notifications which need to be submitted not only at the administrative office of your municipality, but at places of work, schools etc.; so you will need to inform your place of work or school.

Necessary documents	Where to submit application/enquiries
Notification of separation from spouse due to divorce or death	Regional immigration bureau office
Change in residence status	Regional immigration bureau office
Notification of change of address	Administrative office of your municipality
Notification of moving in	Administrative office of your municipality which is your new place of residence
Change in address/name for national health insurance/national pension	Administrative office of your municipality
Change in address/name for driver's license	Police station/driver's license center
Changes in transfer of personal information	Place of work
Change in address/name for financial deposits	Financial institution
Change of contracts for telephone, gas and water	Electricity company, gas company, water company
Relocation/setting up of telephone	Telephone company
Notification of address to post office to forward items to	Post offices

Process of international marriage procedures

Marriage between a Japanese national and a foreigner

The Japanese national fulfills the conditions for marriage as stipulated under Japan law. The foreigner fulfills the conditions for marriage in his or her own country.

Documents
you need
to prepare

- 1 Marriage notification (This application form is available at the administrative office of your municipality. It requires signatures and seals from 2 witnesses over 20 years old.)
- 2 Family register (of the Japanese national)
- 3 Certificate of legal capacity to contract marriage, or substitute document (of the foreigner)
- 4 Passport, etc. (to prove nationality)

Submit at the administrative office of the municipality that is the address of either one of the two people concerned who intend to marry, or the registered domicile of the Japanese national

Once these are received, the marriage will be brought about in Japan

At this point, you will be issued with the acceptance of marriage notification

The foreigner undertakes the procedures for marriage in his or her own country

The method of procedures varies from country to country, so confirm with the embassy or consulate of your country in Japan

When this is received, the marriage will be brought about in the foreigners own country

Persons wishing to change their of residence to that of a spouse of a Japanese national should consult their local immigration bureau

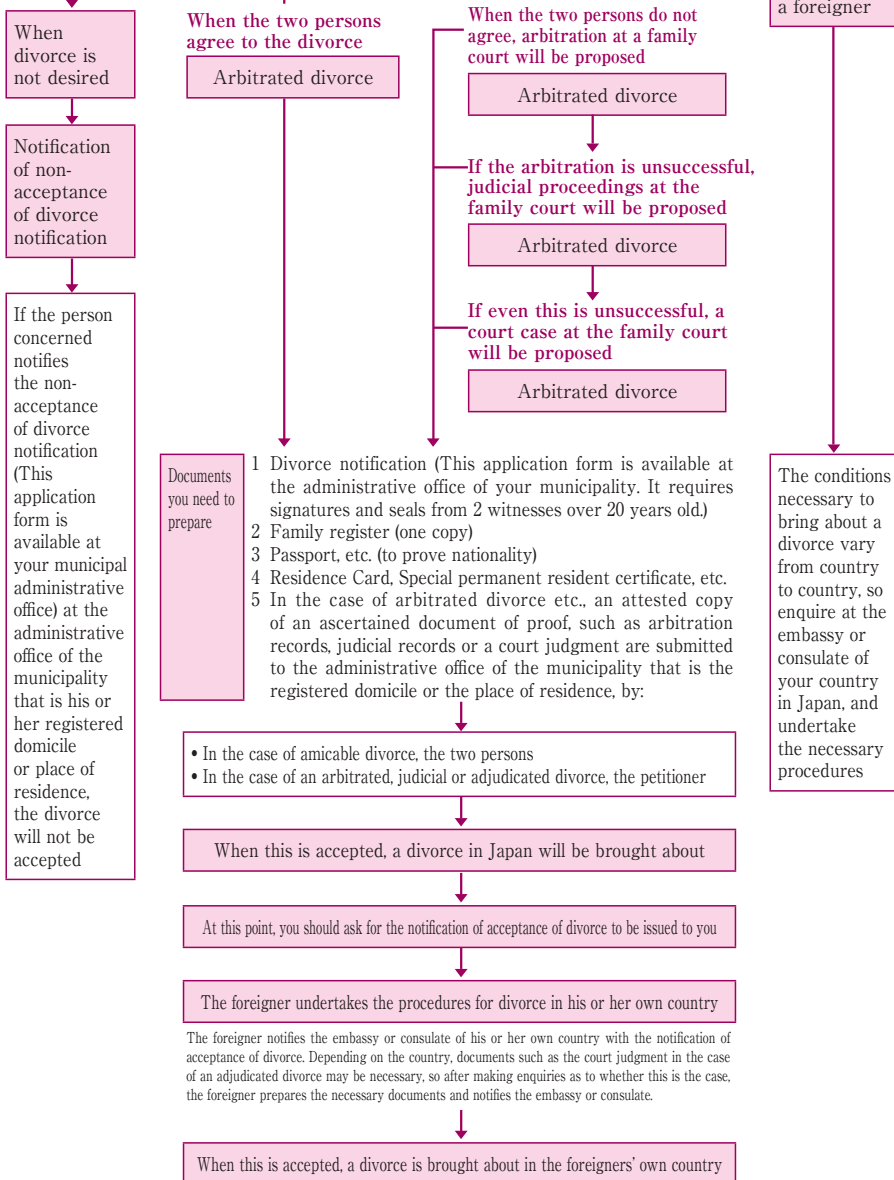
Marriage between a foreigner and a foreigner

The conditions necessary for a marriage to be brought about vary from country to country, so please enquire at the embassy of the countries in Japan, and undertake the procedures.

In the event that the procedures for marriage are to be undertaken at the administrative office of a municipality in Japan, please enquire at your municipality's administrative office

Process of international divorce procedures

Divorce between a Japanese national and a foreigner

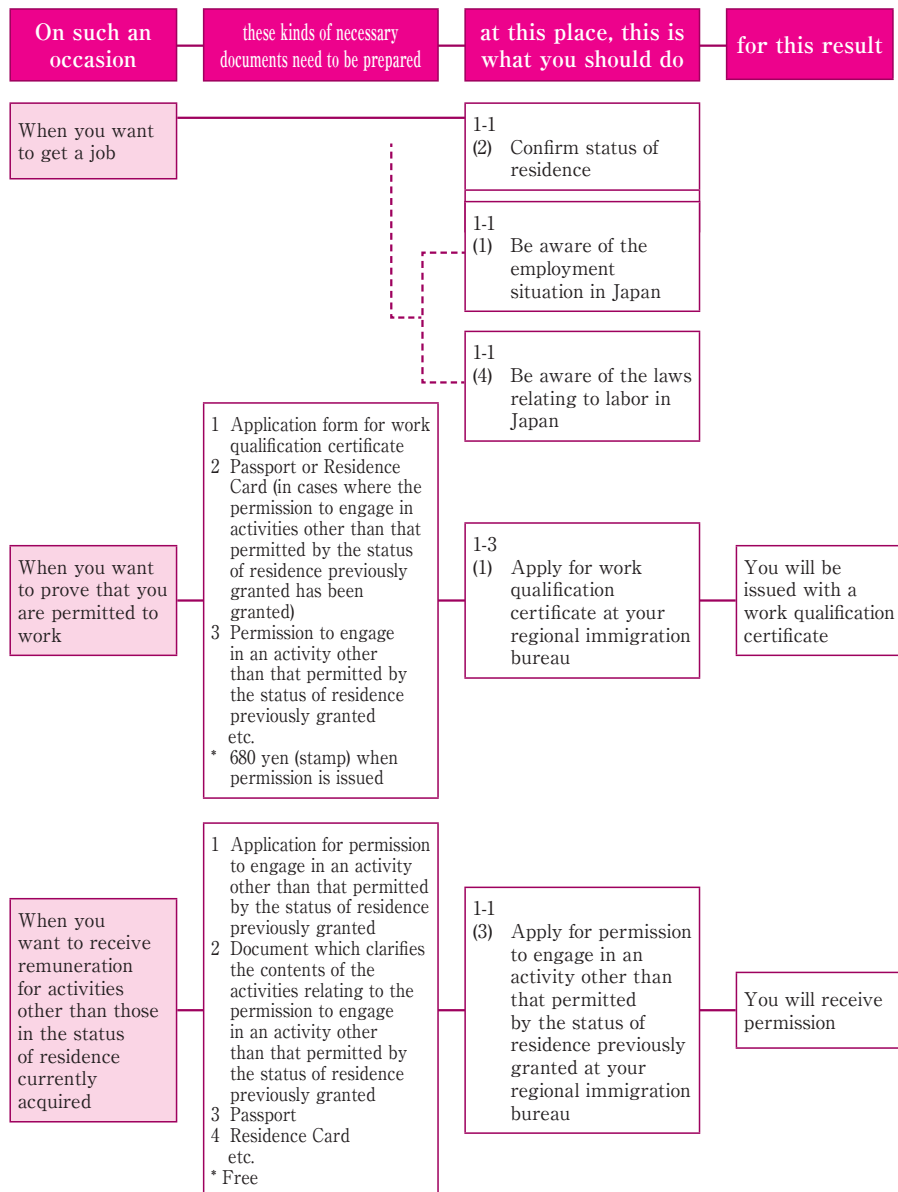


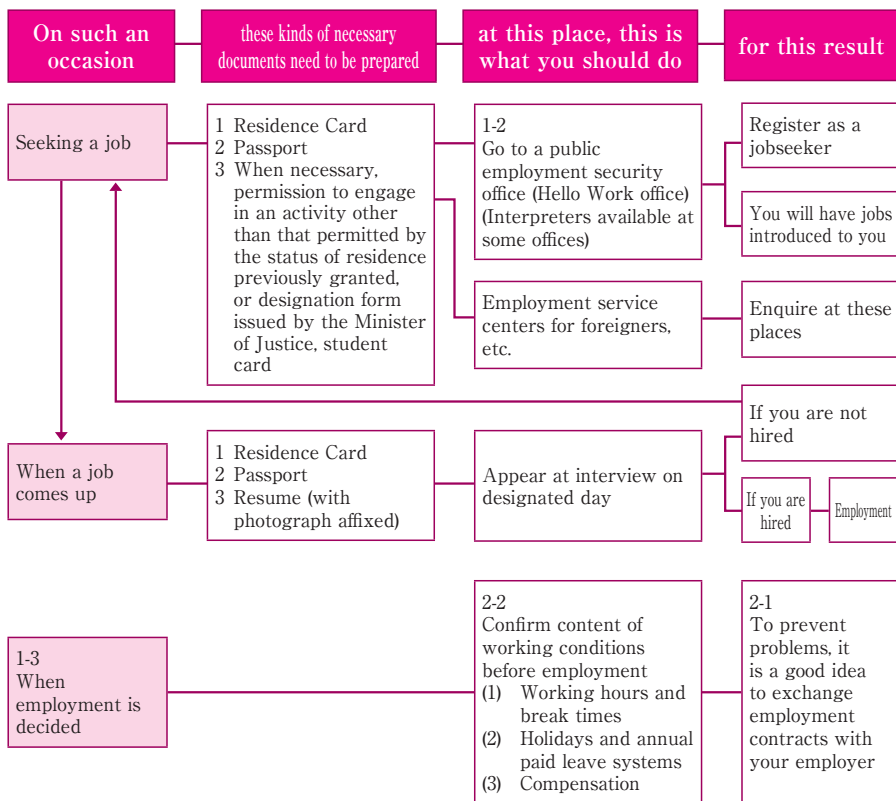


3

Work, technical intern training and training

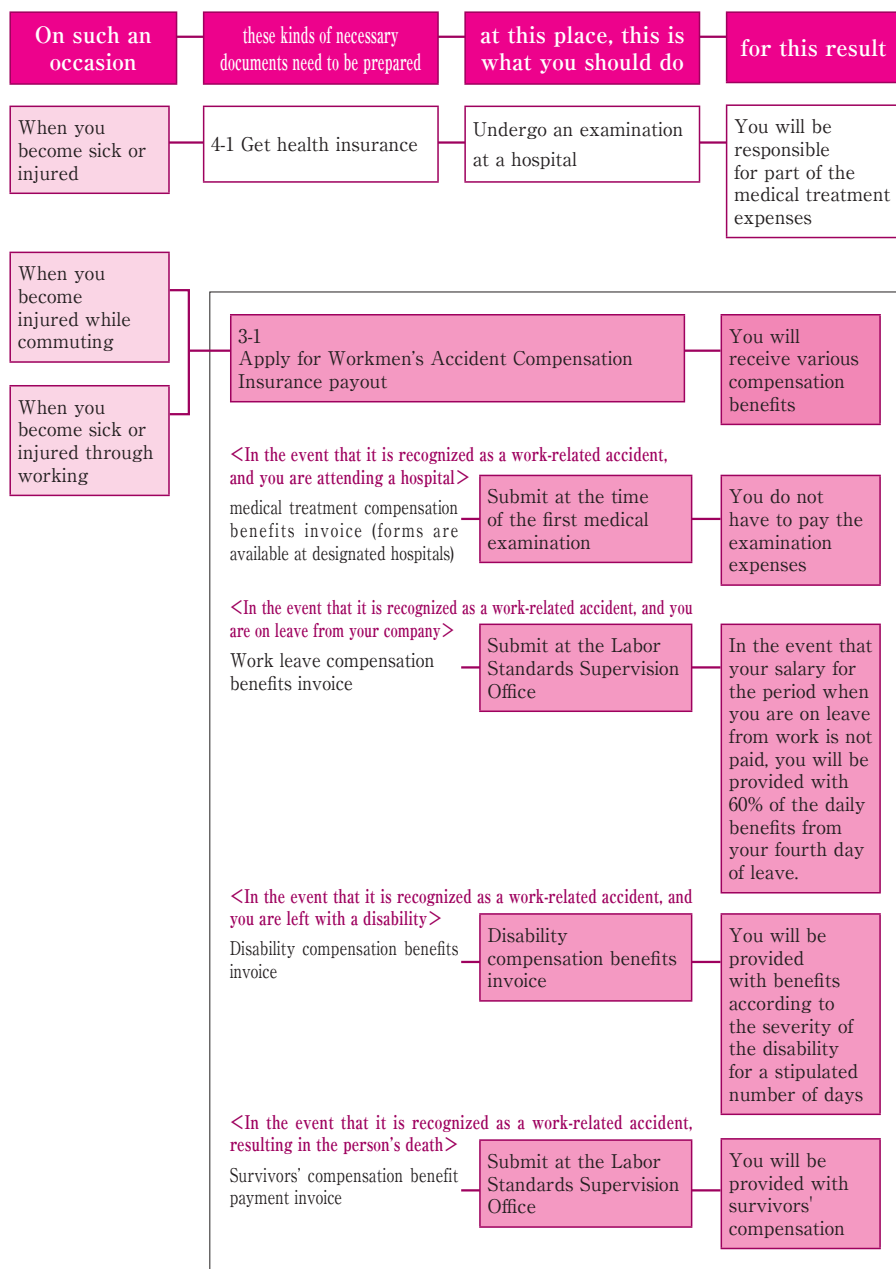
When you get a job, after you get a job, when you leave a job

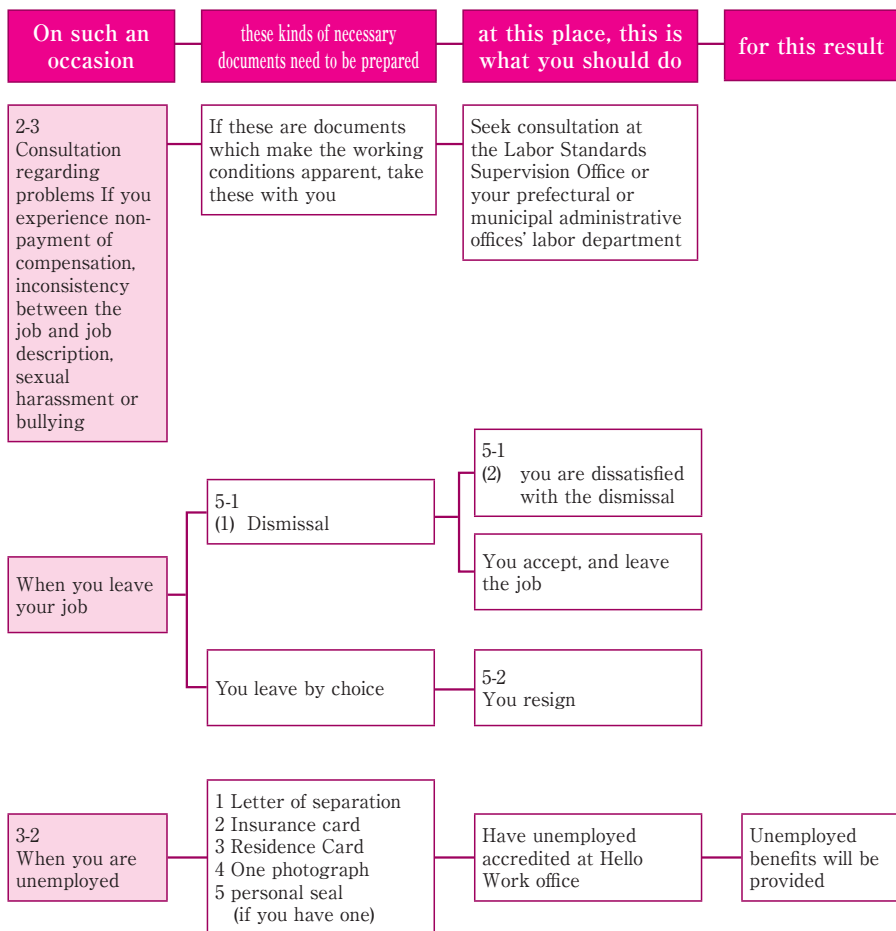




Procedures to be entered into by employers for workers

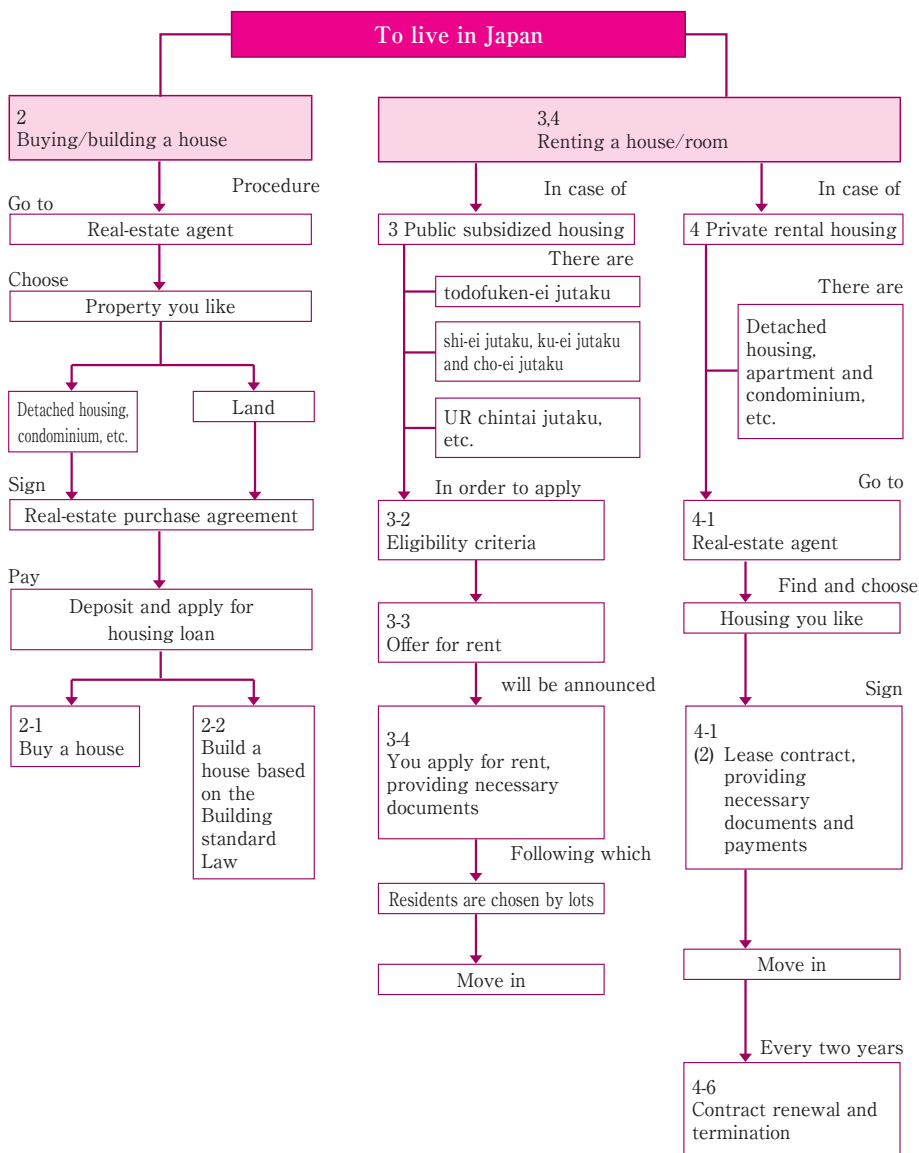
- | | | |
|-----|---|---|
| 3-1 | Workmen's Accident Compensation Insurance | Necessary when you become sick or injured through work or while commuting |
| 3-2 | Employment insurance | Necessary when you are unemployed |
| 4-1 | Medical insurance | Necessary when you become sick or injured |
| 4-2 | Pension insurance | For society as a whole to support elderly persons |
| | When you leave Japan | Lump-sum withdrawal refund (upon leaving Japan) |



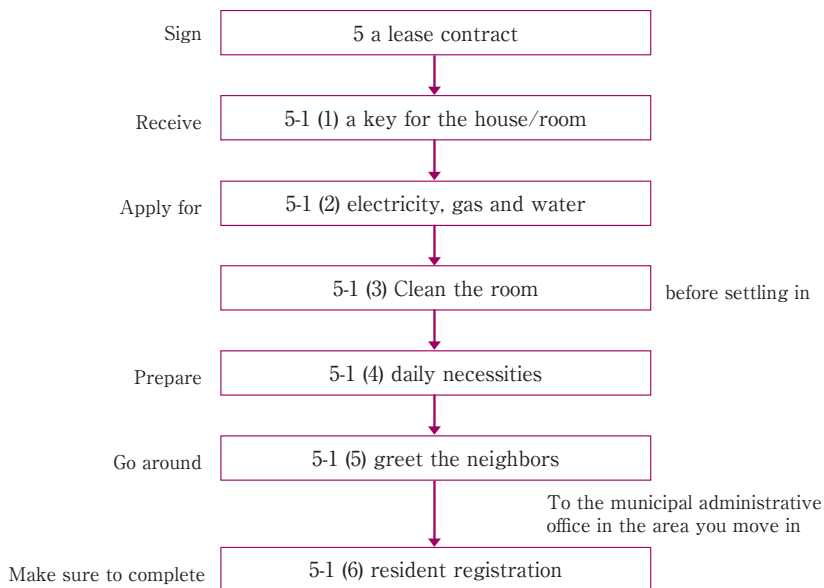




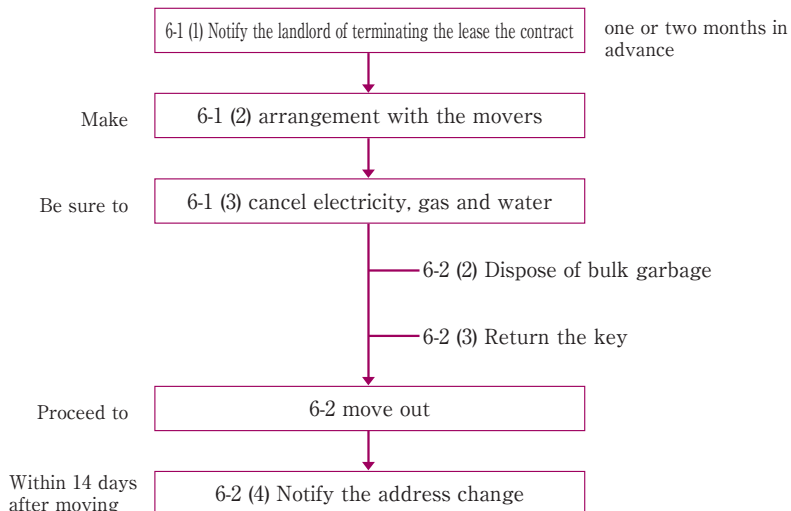
4 Housing/Moving



Moving into rental housing for the first time



Moving out



Housing

Broadly speaking, there are three types of Japanese housing: "owned housing," "public subsidized housing," and "private rental housing." This section explains the features of each type of housing, size and layout of Japanese housing, description of floors, and community associations, as well as other details.

About Japanese housing

Owned housing

House with ownership is called mochi-ie (literally, owned housing) in Japan. There are various kinds of building such as stand-alone housing and apartment. In order to own a house, you need to undergo a series of procedures and sign various contracts concerning purchase. When building your own house, there are various requirements that need to be kept.



Public subsidized housing

Public subsidized housing (koteiki jutaku) is provided by the local authorities (metropolitan or prefectural government, municipal government, etc.) and public corporations. They are rented at lower rent for people who have difficulty finding a house, and include todofuken-ei jutaku (administered by the metropolitan or prefectural government), kumin jutaku (administered by the ward), shi-ei jutaku (administered by the city), cho-ei jutaku (administered by the town), UR chintai jutaku (rental housing administered by the Urban Renaissance Agency). Each of them has specific eligibility rules for residency, and only those meeting these requirements can move in.

Private rental housing

Private rental housing (chintai jutaku) refers to houses, apartments and other condominium units for rent. Rent is prepaid every month. Some housing requires extra fees such as maintenance fees and common area fees in addition to rent, which are paid together with the rent.



Size and layout of the housing

The size of the housing is indicated as "senyu menseki (footprint) Xm2," which includes the toilet, bathroom and kitchen besides various rooms. The size of each room is measured by the number of tatami mats used, with the unit called jo for every tatami mat. One jo is basically about 1.6m² (180cm x 90cm, approximately), but there are some variations including apartment-adjusted size (170cm x 85cm) and the one in between (176cm x 88cm). The number of rooms and types of room are shown by a combination of numbers and alphabets.

Rooms fitted with tatami mats are called "washitsu" (Japanese-style room) and those with floorings and carpets are called "yoshitsu" (Western-style room).

Examples:

- 2DK Housing consisting of two separate rooms and one large space combining the functions of a living room, dining room and kitchen
- 2 number of bedrooms
- L living room
- D dining room
- LDK a space combining living room, dining room and kitchen
- DK a space combining dining room and kitchen

Description of floors

In Japan, the ground floor is described as "1F" and first basement level as "B1."

Examples:]

- 1F ~ 5F ground floor to the 5th floor
- 2B second basement level

Owned housing

Mochi-ie (owned housing) means a house that you own or have inherited, not one that you pay rent for. This section explains what procedures are needed to buy a house and what requirements need to be kept when building a house.

How to purchase/procedures

When buying a house to become its owner, you usually do that through a real-estate agent. When you choose a house you want and make a decision to buy, you sign a real-estate purchase agreement (fudosan baibai-keiyaku) after receiving explanation on important matters. Then you pay a deposit and in most cases apply for a housing loan. Then you undergo a series of procedures including transfer of home ownership to the buyer and real-estate tax (kotei shisan-zei) payment. In most cases, the real-estate agent takes care of the necessary procedures for a fee, so it is better to ask.

Requirements for building houses

■ When building a house in Japan, you need to have it planned and built in accordance with the Building Standard Law (kenchiku kijun-ho). There are various regulations including those concerning the building-to-land ratio (i.e., size of the building relative to the land area) and the limit on height. Houses can only be built after receiving permission from the municipal administrative office. For details, please consult the building guidance division or any responsible section of the municipal administrative office.

Public subsidized housing

Koteki jutaku (public subsidized housing) are housing provided by local authorities and public corporations. This section explains the types of public subsidized housing, eligibility, offer for rent and application procedure, among other details.

Types of housing

Public subsidized housing is distinguished by whether it is provided by the local authorities or public corporations. Housings provided by the local authorities include todofuken-ei jutaku, shi-ei jutaku, ku-ei jutaku and cho-ei jutaku, administered by the metropolitan or prefectural government, city, ward and town, respectively. Housing provided by the public corporations include UR chintai jutaku (sometimes called toshikiko jutaku) rented out by the Urban Renaissance Agency (UR).

Eligibility

Any type of public subsidized housing has precise eligibility rules concerning whether a residence status for those whom resident registration applies or “Diplomat,” etc. has been obtained, earnings standard and other requirements. For details, please contact the municipality in charge of administering the housing or UR.

Offering for rent

Public subsidized housing is offered for rent on a regular basis or as needed. Todofuken-ei jutaku is usually offered for rent four times a year (January, April, July and October). Announcement of offers is distributed at the municipal administrative office and other relevant locations.

For shi-ei jutaku, ku-ei jutaku and cho-ei jutaku, announcement of offer is placed in the newsletters issued by the municipality. Newsletters can be obtained at the municipal administrative office or other convenient locations such as nearby stations. They are also distributed through community associations like jichi-kai or chonai-kai. For UR chintai jutaku, you can access the UR website to find the house you want, and then apply for rent.

Application procedures

After confirming the eligibility and other necessities, you submit an application for residence to the section in charge of the housing you want, using a designated form and attaching necessary documents.

Since there are many applicants to public subsidized housing, residents are chosen by lot.

Rents are adjusted depending on your income. Besides rents, additional fees including common area fees and parking fees will be required.

Documents required	1 Application for residence 2 Resident Record (juminhyo), etc. of all those who intend to move in 3 Proof of earnings, etc. 4 Others, as needed
Where to apply	Section in charge of the housing offered for rent.
When to apply	Housing rent by the city, ward, town or UR: on Section in charge a regular basis or as needed. Housing rent by the metropolitan or prefectural government: usually four times a year (Jan., Apr., Jul., Oct.).
Remarks	For details, contact the administrator (municipal administrative office or UR).

Private rental housing

When renting private rental housing, you need to contact a real-estate agent. It is a good idea to sort out your preference in advance. In many cases, you will need to have money equivalent to five to six months rent ready when signing a lease contract.

How to find/rent a house (a room)

How to find

Go to a real-estate agency (fudosan-ya, an agency that introduces houses and apartments for rent) in the area you want to move in. Tell them your preferences, including size, limits on rent and distance from the nearest station, and they will present available properties that meet the requirements.

You can begin just by taking a look at property ads posted at the front of the agent, or looking magazines and the internet to search for average rent and properties currently offered in the area you want. If you are an exchange student, you may also consult the student affairs office at the university.

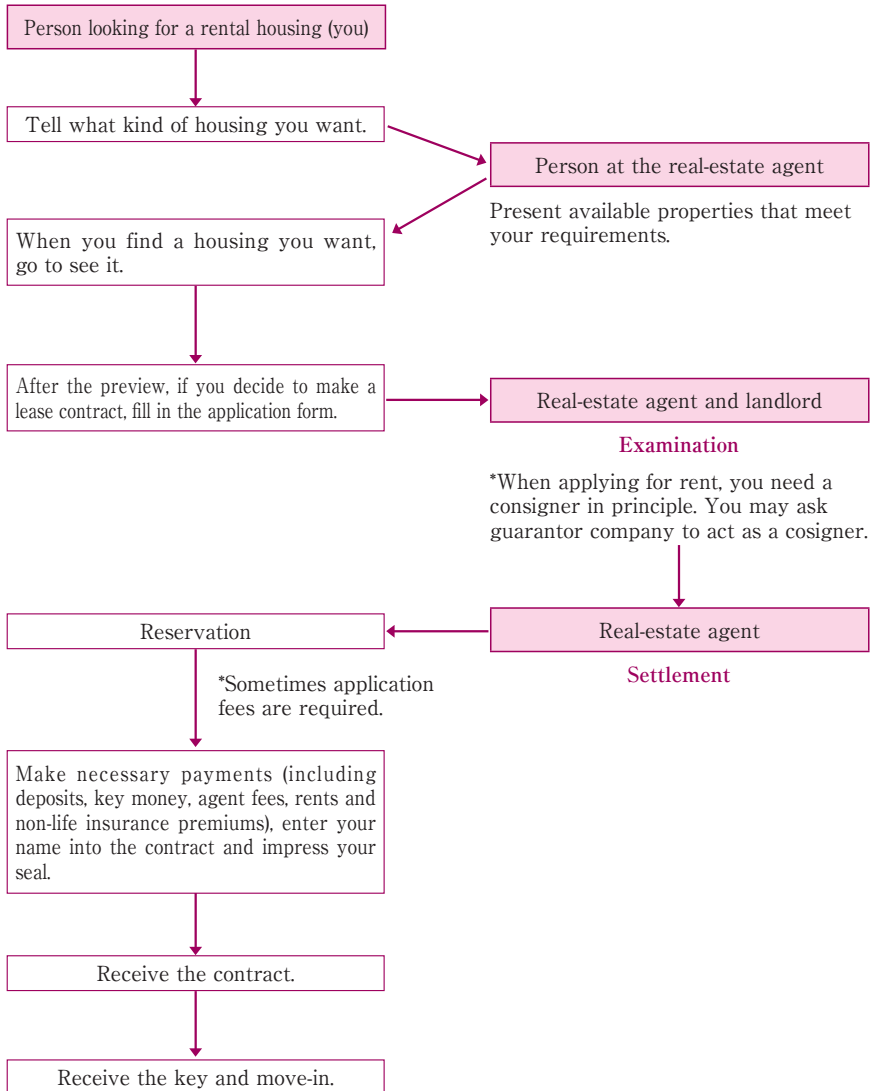
How to rent

When renting a house or apartment, you sign a lease contract called chintai keiyaku. Contract period is usually two years.

When signing the contract, you need to have the following documents and payments ready.

Documents required	1 Resident Record (juminhyo), etc. of all those moving in 2 Proof of earnings, etc. 3 Cosigner (see "7. Terminology") or written pledge 4 Seal registration certificate, etc.
Payments to be made	1 Rent of the current and following months 2 Deposits 3 Key money 4 Agent fees In total, you need money worth 5-6 months rent in applying for rent.

Process of renting housing



Do's and don'ts for renting

■ Access to Transportation

Access to transportation is described as "X minutes to the nearby station," under an assumption that a person walks 80 meters every minute, which is equivalent to a speed of 4.8km/h and does not count other factors such as slopes, stairs and waiting time at signals. It may be a good idea to try walking to the station before signing a contract.

■ Pets

In many cases landlords prohibit pets. So if you want to keep your pets, you need to confirm the matter with the real-estate agent.



Pets

■ Conversion and Remodeling

You may not convert or remodel the housing, or let people other than your family live together, without permission of the landlord. You may not rent the part or the whole of the housing to other people, either.



Nailing of paintings

■ What is already provided and what is not?

Rental housing in Japan is provided with certain facilities. Other equipment must be brought in by the resident. The following list indicates what is already provided and what is not.

- Provided: electricity, gas, waterworks
 - Not provided: lighting, cooking gas stoves, oven, furniture, etc.
- Any other necessary items you must bring in.



Subletting to other people

Advice for renting

You may encounter some problems when renting a housing. Here are some tips in case problem arises. You may also consult a regional Association for International Communications and Exchanges.

- Cannot speak Japanese: Ask someone who can speak Japanese to go with you. You may give a much better impression if you speak some Japanese, be it just a greeting.
- Does not accept foreigners: Find a real-estate agent through an acquaintance or one that takes orders over the Internet. That may be the quickest way around this.
- Cannot find a cosigner: You may ask a guarantor company. Please consult the real-estate agent.

At a real-estate agent

At a real-estate agent, in most cases you will be asked the following:

1. Name	()
2. Occupation	()
3. Employment status	☐ Regular employee ☐ Contract employee ☐ Part-time ☐ Student → With scholarship... ☐ Yes ☐ No
4. Expected housemates	() Persons ☐ Family ☐ Friend ☐ Other:()
5. Constant earning • Self	☐ Salary ☐ Allowance ☐ Other: Per month: • Less than ¥100,000 • ¥100,000~¥150,000 • ¥150,000 ~ ¥200,000 • ¥200,000~250,000 • ¥250,000~¥300,000 • More than ¥300,000
• Housemate	☐ Salary ☐ Allowance ☐ Other: Per month: • Less than ¥100,000 • ¥100,000~¥150,000 • ¥150,000 ~ ¥200,000 • ¥200,000~250,000 • ¥250,000~¥300,000 • More than ¥300,000
6. Japanese proficiency	
Speaking	☐ Can speak ☐ Daily-conversation level ☐ Cannot speak
Reading	☐ Can read ☐ Simple text only ☐ Hiragana only ☐ Cannot read
7. Presence of cosigner	☐ Yes → Relationship:() ☐ No → Desire to use guarantor company: ☐ Yes ☐ No
8. Emergency contact info (other than yourself)	()
9. Identification (ID)	☐ Passport ☐ Residence Card or special permanent resident certificate ☐ Other:()
10. Plan for leaving Japan	☐ Yes() years from now ☐ No ☐ Don't know
11. Reason for finding housing	()

Checklist for desirable property

Clarify your preference in advance.

■ Preference

1. Rent	From ¥() to ¥()
2. Area/location	(1) Nearby station:() (2) Less than() min walk from the station
3. Kind of building	☐ Apartment ☐ Condominium ☐ Stand-alone housing
4. Floor in the building	() Floor
5. Layout	
(1) Number of rooms	() rooms
(2) Kind of kitchen	☐ K ☐ D K ☐ L D K ※ K: kitchen only DK: dining-kitchen LDK: living-dining-kitchen
(3) Room type	☐ Western style ☐ Japanese style ☐ No preference
6. Toilet	☐ Western style ☐ Japanese style ☐ Must have private toilet ☐ OK with shared toilet
7. Bath	☐ Must have bathroom ☐ OK without bathroom
8. Air conditioner	☐ With ☐ Without
9. Room orientation	☐ Facing south ☐ Facing southeast ☐ Facing any directions other than north ☐ No preference
10. Surrounding environment	☐ Public bath ☐ Coin washers ☐ School ☐ Other:()
11. Desired date of move-in	From mm / yy

Items to confirm on the contract

Contract in writing is concluded as an arrangement to clarify rights and duties of the lender and the tenant. Signing a contract (i.e., writing your name) means you have agreed with the content and promised to observe it. So you should read the content thoroughly and get enough explanation on it. It is important that you sign the contract after understanding what is written there. Make sure to confirm the following to prevent troubles.

Rent, maintenance fee	Amount, due date, method of payment
Prohibited matters	Prohibition on pets, etc.
Whether the contract can be renewed	Contract term is usually two years. When renewing the contract after two years, you may be charged the renewal fee from the landlord as well as the real-estate agent.
Conditions for terminating the contract	When terminating the contract, you may not get the deposits back or may be charged exorbitant cleaning fee. To prevent this, agree on the payment to be made upon termination in advance before signing the contract.

Contract renewal/termination

For rental housing in Japan, lease contracts are renewed every two years. This is called *keiyaku koshin* (contract renewal). When you want to renew the contract, you need to go to the real-estate agent and submit renewal fees and other items as requested.

On the other hand, if you want to terminate the contract for leaving Japan or moving to other places, you need to notify the real-estate agent and the landlord, at least one or two months in advance.

Contract renewal (renewal procedure)

When you want to renew the contract, you need to apply to the real-estate agent and the landlord. In many cases, rents are raised upon renewal and the landlord may ask for a renewal fee (equivalent to one month's worth of the new rent). You may be also charged renewal fee from the real-estate agent.

For the renewed contract, in most cases the same document signed in the previous contract will be carried over. Sometimes the real-estate agent contacts you before expiration to ask whether you want the renewal. Also, there are cases that rents are not raised and renewal fees are not charged from either landlord or real-estate agent.

Upon termination (termination notice)

When you want to terminate the contract, you need to notify the landlord either directly or through the real-estate agent of the intention to move out. It is important that you make an early notice. As may be stipulated in the contract, you must notify at least one or two months in advance.

If you move out without notifying the landlord or notify just few days before moving out, you may not get the deposits back. So be sure not to postpone termination notice.

Moving in

After deciding what house or room to rent and signing the contract, you can then proceed to prepare for moving in. Preparation may include cleaning, application for using electricity, gas and water, and resident registration (jumin toroku) and notification of change in address, etc..You may also want to have daily necessities ready for use in the new home. Also, it is important to greet the nearby residents to get to know each other.

Moving in for the first time

■ Receiving a key

After signing a contract, you will be given a key for your house. Make sure to not lose it as you need to return it when moving out. In case you lose it, you must promptly notify the landlord and the real-estate agent. Sometimes you may be asked to pay for replacing the key. Such measures are essential for preventing crimes.

■ Applying for electricity, gas, water

For lifeline utilities (electricity, gas, water), make sure you complete applications to use them before moving in. You can undertake the following procedures, although the details may vary slightly according to region.

	Electricity	Gas	Water
When to start service	Upon moving in, or after receiving the key	Upon moving in, or after receiving the key	Upon moving in, or after receiving the key
Where to contact	Electricity company in the region	Gas company in the region	Municipal waterworks department
Procedure	Pull up circuit breaker switch to turn on the electricity. Send the form attached to the breaker after filling in your name, address, and the starting date. If there is no form attached, call the electricity company directly.	Call the gas company to have the valve opened on the day you want to start using it. The company will send a person to open the valve on the day and time you specify.	Contact the municipal waterworks department, etc., and have a person come to open the valve on the day you want to start using it. In some case, you open the valve by yourself and send a specific form after filling in your name, address, and the starting date.
Remarks		Most rental housing are not provided with gas stoves for cooking. You may need to purchase it beforehand.	Upon visit or contract, make sure to ask whether water can be used right after moving in.

■ Room cleaning

Rooms for rent are mostly kept well. Nevertheless, you may want to clean up before moving in to start a new life comfortably. To make the process easier, it is important to apply for using electricity, gas and water beforehand.

■ Providing daily necessities

In general, rental housing in Japan is not provided with furniture and curtains. Daily necessities such as furniture, appliances, bedding, kitchenware, toiletries must be prepared by the residents.

■ Greetings after moving in

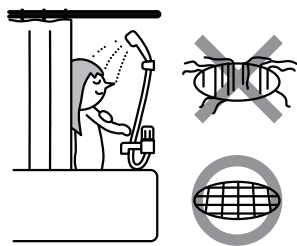
In Japan, there is a custom for the new residents to greet the neighbors. It is important to acquaint yourself with the nearby residents who may become an important information source on the region. Introduce yourself briefly by clarifying your name and occupation.

■ Resident registration (jumin toroku) and notification of change in address (jusho henko no todokede)

Resister at the municipal administrative office of the area you live in. For details, please refer to A New Residency Management System for Foreign Residents, 4-1 Change in address.

■ How to use bathrooms/toilets

When the drain clogs while using toilet or bathroom, water overflows which causes a great mess. If the water is spilled downstairs, you may sometimes have to pay for repair. Make sure you keep hair out of the drain. When using the toilet, do not dispose of anything other than toilet paper that dissolves in water. (Tissue paper that does not dissolve in water and sanitary napkins must go into a garbage bin since they can clog the drain).

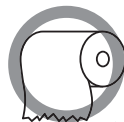


Drain clogs, causing water overflow.

Toilet: do not dispose of anything other than toilet paper.



● Toilet paper



● Tissue paper

■ How to use balconies

If the balcony is used for an emergency escape route, be careful not to block the exit with boxes and other items. Also, keep items off the walls or partitions separating the adjacent balconies.

When hanging beddings and clothes outside to dry or growing potted plants, make sure they are not likely to fall off the balcony.

Be careful to not let futons and pots fall off the balcony.

■ How to use common spaces

In condominium buildings, halls, corridors and staircases outside your room are considered common spaces to be used by everyone. They will also serve as an emergency escape route in case of earthquake and fire, so do not leave your personal belongings there.

■ How to use parking lots for bicycles/cars

If you live in a condominium building, bicycles must be parked in line at a set place such as bicycle shed.

You need to rent a parking space for automobile. Roadside parking is not permitted. Parking space is rent by paying monthly fee, so you should only park at your own space even if there are extra spaces.

Moving out

When moving out, notify the landlord as soon as the moving-out date is decided. Usually, people ask the movers do the actual moving-out tasks. Make sure to cancel utilities such as electricity and gas. Clean the room; do not leave the garbage behind.

Preparation for moving

(1) Notification to the landlord

You need to notify the landlord of terminating the lease contract within the period stipulated in the contract (usually one or two months in advance).

(2) Different options for moving

There are many movers in Japan. Besides professional movers, cargo distributors also offer moving-out services. The rate varies according to the cargo volume, distance, and service contents. You may be advised to have estimates from several movers and confirm the rate and service contents in order to choose the mover that meets your need. Estimates can be compared by using the Internet and other means.

There is also an option of not using the mover, by renting a car from a friend or lease company.

(3) Cancellation of electricity, gas, water

Make sure to notify the company at least two or three days prior to moving out.

	Electricity	Gas	Water
When	Two or three days prior to moving out	Two or three days prior to moving out	Two or three days prior to moving out
Where to contact	Nearby electricity company outlet	Nearby gas company outlet	Municipal waterworks department or nearby water provider
Procedure	A person in charge will come on the day of moving out to stop the power and settle the outstanding fees.	A person in charge will come on the day of moving out to stop the gas and settle the outstanding fees.	A person in charge will come on the day of moving out to close the main valve and settle the outstanding fees.

Moving

(1) Removal of belongings

You must remove all personal belongings from the house. Rooms must be cleaned and left without garbage.

(2) Bulk garbage

If you need to dispose of bulk garbage such as furniture or a large amount of garbage at once, you must contact the municipal administrative office to confirm on the disposal method with a person in charge.

(3) Returning the key

Make sure to return the key and have the standing deposits settled. You need to follow the "restitution rule" stipulated in the contract, and have the room inspected by the landlord and real-estate agent.

*When leaving the room, the deposits are settled based on a principle called "genjo-kaifuku (restitution)." What is meant by "restitution" may vary depending on the landlord and the contract. The rule may sometimes become a source of trouble, so it is advisable to confirm the extent of responsibility for restitution when signing the contract and to confirm the original state of the room before moving in. In some cases, it may be useful to take photographs of the room. When moving out (i.e., terminating the contract), what remains of the deposit after subtracting the restitution fees will be returned.

(4) Address change

When changing residence, you need to take the following procedure. Make sure to not leave anything out.

■ Procedure

	Procedure
Address change to the resident registration	Within 14 days after moving, bring your Residence Card or special permanent resident certificate, etc. and have the new address registered. When you are moving to an address outside the municipality you live in (moving out), you will need to have the municipal office you live in issue a certificate of moving out (tenshutsu shomeisho) between 14 days before your move and the day of your move, and present it to the municipal office of your new address within 14 days after moving.
National health insurance and national pension system	In case of tenshutsu (moving to a different municipality), complete the procedures for a change of address (jusho henko) to the municipal administrative office of the area you move into. When you do this, inform the office if you subscribe to the national health insurance and national pension systems.
Driver's license	Go to the police station in the area you have moved in and submit an address change notice.
Telephone	For cell phone, notify the address change to the provider. For home phone, call "116" (NTT enquiries) to have the phone line moved to the new place.
Financial institutions	Notify the address change. For details, contact the banks, etc., where you have accounts.
Postal service	Submit an address change notice to the postal office in the area you moved in. Mails sent to the old address will be transferred to the new address for a year after moving.

* Tenkyo means moving to a new residence. In municipal administrative office, tenkyo refers to a change of residence within the same municipality, which is distinguished from tenshutsu, a change of residence to a different municipality.

Terminology for Housing

■ Real-estate agent (fudosan-ya)

Outlet that act as intermediary for buying or selling real estates and for leasing or renting private rental housings.

■ Housing rent (yachin)

One month fee for the house or room being rent. Every month, the tenant prepay the rent for the next month. So when moving in, the tenant first pay two months' rent: one for that month and another for the following month. Rents are usually debited from the bank account. In some cases, the tenant will be asked to pay by transferring money to the specified bank account.

■ Management fees/common area fees (kanri-hi, kyoeki-hi)

Fees associated with the common spaces (staircases, halls, etc.) and facilities, including maintenance, electricity, and cleaning. They are paid separately from the rent.

■ Deposits (shikikin)

Money that the tenant gives as a deposit to the landlord (yanushi, literally a person who owns the house) when signing the lease contract. Usually the tenant deposits one to three months' rent. If the tenant has not paid some of the rents, or has damaged or contaminated the room, the deposits will be used to settle standing payments and to pay for necessary repairs. When moving out, what has left of the deposits after subtracting these fees will be returned.

■ Key money (reikin)

Money the tenant pays to the landlord as a payback when signing the contract. Usually one or two months' rent is paid, which will not be returned.

■ Agent fees (chukai tesu-ryo)

Fees the tenant pays to the real-estate agent for introducing the room. Usually one month's rent is paid.

■ Non-life insurance premiums (songai hoken-ryo)

When signing the lease contract, the tenant pays insurance premiums if furniture and other assets need to be insured. Depending on the kind of insurance, damage from fire and water leakage will also be covered.

■ Contract renewal fees (keiyaku koshin-ryo)

Contract period for rental housing is usually two years. When renewing the contract after two years, the landlord may charge renewal fees equivalent to about one month rent.

■ Joint guarantor or cosigner (rentai hoshō-nin)

A person who takes liability in case the tenant become unable to pay the rent and other fees. In many cases, a tenant need to have a cosigner when applying for rent. If you cannot find a cosigner, you may use a guarantor company instead.

■ Town associations/neighborhood associations (chōnai-kai, jichi-kai)

Community associations organized by the residents. Their function includes passing a bulletin (kairanban) of notices from the municipal administrative office, etc., and holding disaster drills. They also host neighborhood social events such as festivals. Some of them require membership fees (around 300 yen per month).

■ Housemates (dōkyō-sha)

To live with a housemate in the rental housing, the tenant needs to notify the landlord when signing the contract. Without notice, in some cases they may risk eviction.

Getting on with neighbors

In order to integrate smoothly into Japanese society, it is crucial to get along well with the people in your neighborhood and cooperate with them.

Your relationships with your neighbors are even more important in rural areas than urban ones. Although you may find the interference a burden, close everyday relationships are also the key to eliminating unnecessary troubles and misunderstandings.

However, if you are coerced to act against your will in the name of “local customs,” it is necessary to decline firmly.



Residents' Associations (Neighborhood Associations)

Every local area has its own self-governing “residents’ association”, which aims to promote friendship between residents and improve their living environment. (There are commonly referred to as chonakai, or “neighborhood associations.”) Residents’ associations also play the role of administrative districts (area boundaries designated by the local authority for ease of administration), and there are many examples of local authorities’ carrying out publicity campaigns for residents via the residents’ associations.

Although joining the residents’ association is essentially voluntary, it would be best to join in order to ensure the smooth running of everyday life. In addition to social events, the association also maintains the living environment of the neighborhood (cleaning, maintenance of garbage collection points, maintenance of street lights and the residents’ association’s public hall). Consequently, as a resident who benefits from those activities, joining may be inevitable.

The membership fees vary depending on the association, but it seems that most are in the order of several hundred yen per month. In addition, it may be required that you collect donations or serve in turn as one of the association’s officers.

Children's Groups

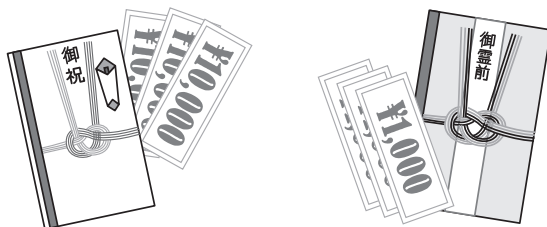
The residents' associations have children's groups aimed at promoting friendship between local children and ensuring their healthy upbringing. These are mainly aimed at elementary school students, and they hold events during the summer and winter holidays, and also organize the collection of unwanted goods.

Celebrations and Condolences

Important life ceremonies are known as kankan sosai, and for weddings and funerals, it is sometimes the case that neighbors will attend as well as friends and acquaintances.

For celebratory occasions such as weddings, there is a custom of giving money as a gift. This is placed into a special envelope called shugi bukuro and taken with you on the day.

The most common type of funeral is a Buddhist ceremony. There is an overnight vigil on the day that the person died or the following day, where relatives and neighbors gather together. Following that the funeral is held, and if attending, you should bring condolence money placed in a black and white condolence money envelope called fu-shugi bukuro. Everyday clothes are permitted at the vigil, but at the funeral, men should wear a dark suit of black or navy blue with a black necktie and a pair of black socks. Women should wear a black mourning dress, and their accessories should not use any gold or silver.



Snow Removal

Snow removal work on public roads is generally carried out by the national government, prefecture, or local authority, but there are some areas where snow removal vehicles come late or not at all, and so snow removal must be performed cooperatively by the local community.

Garbage

Household garbage is collected for free by the local authority as a public service. For commercial garbage (waste), the business owner must pay to have a waste service company perform collection.

Household garbage is divided into categories such as “burnable waste”, “non-burnable waste”, “recyclable waste” and “large-size refuse,” each of which should be put out on the day and time designated by the local authority.

Garbage collection points may be small huts or simply designated outdoor spaces, depending on the area.

Also, depending on the local authority, there may be specific bags used for putting garbage in.

Burnable waste

- Waste paper, clothing, wood scraps, etc.
- * Some local authorities collect waste food separately from burnable waste.

Non-burnable waste

- Metal, plastic, ceramics, etc.

Recyclable waste

- Bottles, cans, paper cartons, plastic (PET) bottles, old newspapers, old magazines, etc.

Large-size refuse

- Large items which do not fit in a garbage bag.

* The classification of garbage and the way it should be disposed of vary by area. For details, please check with owners of your houses/apartments, neighbors, an officer of the residents' association, or the relevant department of the local authority.

Sorting Garbage

Recyclable waste is sorted into categories in order to improve recycling efficiency. The way it is sorted and disposed of varies by area. Please abide by the rules of your local area.

- Please put recyclable waste such as cans, returnable bottles, newspapers, magazines, corrugated cardboard and paper cartons into their respective collection areas.
- For recyclable waste collected by the local authority, please check the collection schedule and put it out on the designated day.
- Please arrange to have waste household appliances collected by the retailer when buying new ones.
- Please wrap dangerous waste such as needles in thick paper and write “危険” (kiken, “dangerous”) on the outside.

Cans

There are two types of cans: aluminum and steel.

● How to dispose of empty cans (⇒ for group collection, etc.)

- ① Remove the contents.
- ② Lightly wash out with water and drain it off.

(leaving even a little bit of the contents inside can lead to unpleasant smells)

Glass bottles

● How to dispose of glass bottles

(⇒ Returnable bottles should be put out for group collection)

- ① Remove the cap or plug.
- ② Lightly wash out with water and drain it off.

(leaving even a little bit of the contents inside can lead to unpleasant smells)

Paper waste

● How to dispose of paper

(⇒ Newspapers, magazines, cardboard boxes should be put out for group collection)

① Sort according to type.

- Newspaper (Newspapers, fliers, etc.)
- Magazines (Weekly magazines, books, etc.)
- Cardboard boxes (Remove any staples or adhesive tape and fold them up)
- Other paper waste (Paper containers or packaging material such as paper boxes, paper bags, wrapping paper, etc.) (Boxes should be folded to size)

② Tie lengthwise and widthwise with paper string.

Please do not put out paper waste in plastic bags or tied in plastic string.

* Please remove anything that should not be mixed in with paper waste.

Things that should not be mixed in with paper waste

- Envelopes with plastic windows
- heat sensitive paper
- Plastic-coated paper
- non-carbon copy paper
- waterproofed paper
- oiled paper
- photographs
- composite paper
(paper made from plastic, etc.)
- Paper cartons
(these should be recycled separately)
- Waxed paper (paper cups, plates, etc.)

Things other than paper that may get mixed in easily

- Adhesive tape
- metal (clips, staples, etc.)
- cellophane
- plastics
- aluminum foil
- plastic bags

Paper cartons

● How to dispose of paper cartons (⇒ for group collection, etc.)

① Wash the inside clean.

② Cut the carton open and remove any plastic spouts.

③ Dry well, such as by leaving it in the sun, to prevent mold.

* Cartons with aluminum foil on the inside, such as those for sake, cannot be recycled.

Plastics

● How to dispose of plastic (PET) bottles.

- ① Only sort bottles with a recycling mark.

(if bottles made from a different material are mixed in, this will cause problems in the recycling process.)

- ② Take off the cap and remove the contents.
- ③ Lightly wash out with water and drain it off.

● How to dispose of plastics

Plastic containers and packaging other than PET bottles are classified as “plastics.” These are washed in a similar manner to PET bottles, but heavily soiled waste is incinerated.

- ① Remove the contents.
- ② Wash the inside clean.

Examples of plastic containers and packaging

- | | |
|-----------------------------------|--------------------------------|
| ● Grocery bags | ● plastic bottle caps |
| ● Confectionery/bread bags | ● pudding and jelly containers |
| ● Cup noodle containers | ● egg packs |
| ● Detergent container | ● tofu packs |
| ● Sauce and mayonnaise containers | etc. |

● How to dispose of polystyrene trays

Under the Act on the Promotion of Sorted Collection and Recycling of Containers and Packaging, white polystyrene trays are collected separately.

- ① Please only put out white polystyrene trays that are light and easily snapped.
- ② Remove any foreign matter such as sellotape or plastic wrap.
- ③ Wash and leave to dry.

(Most expanded polystyrene trays are used to hold raw food. They will smell if not washed.)

The Home Appliance Recycling Law

Under the Home Appliance Recycling Law, used televisions, refrigerators, washing machines, clothes dryers, and air conditioning units are to be recycled.

Home appliances for recycling (recycling fees)

● Consumers

Deliver unused appliances to retail stores. Consumers are responsible for the cost of transportation as well as the recycling fee.

The specific amount depends on the manufacturer, so please check beforehand.

● Retailers

Retailers set a transportation fee for waste household appliances, and in the following circumstances, pick up the waste appliances and deliver them to the manufacturer.

- When they are asked to pick up appliances that they originally sold
- When, on selling an electrical appliance, they are asked to pick up a waste appliance of the same type

● Appliance Manufacturers

As well as setting up a location to take in waste appliances, manufacturers must also recycle them.

Daily Life Noise/Pets

Daily Life Noise

“Daily life noise” refers to noise produced in and around the home by the activities of everyday life. Particularly in the case of multiple-dwelling complexes like apartments, many difficulties arise as a result of noises from upper and lower floors. Because at night the surrounding area is quiet, even small noises can be clearly heard, so please take care accordingly.

Pets

Many apartments prohibit pets, so be sure to check beforehand.

Dogs are not allowed to run freely. Dogs must be kept on a leash when walking, and disposal of feces is the owner's responsibility. Excessive barking by dogs has also led to problems in Japan, where the distances between neighboring houses are small, so please keep this in mind.

Dogs aged 91 days and older must be registered with the local government office, and yearly vaccinations are required.



7

Financial institutions

Types of financial institutions

Japan has the following financial institutions

- **Central Bank** The Bank of Japan
- **Government Financial Institutions** Japan Housing Finance Agency, etc.
- **Private Financial Institutions** Banks (ordinary banks, trust banks, the Long-Term Credit Bank of Japan, Japan Post Bank, etc.)
Regional financial institutions (Shinkin banks, credit unions, etc.)
Others (Japan Agricultural Cooperatives (JA), insurance companies, securities companies, etc.)

Each of these has a different purpose, so if you just want to open a savings account and use it for bank transfers and direct debits, then a normal bank with branches throughout the prefecture, a shinkin bank, Japan Post Bank, or the JA will be convenient.

■ Savings accounts

The main types of savings account are “ordinary savings accounts” and “checking accounts.” Checking accounts are mainly used by company to pay checks and bills, so most people will open an ordinary savings account.

An ordinary savings account can be opened with just ¥1. Bring the following documents and complete the procedures at the counter of the financial institution.

Documents, etc. to bring

- Proof of status (residence card, etc.)
- Personal seal

■ Passbooks

When you make a deposit at a financial institution, you will be given a passbook. A passbook records amounts deposited, amounts withdrawn, interest, etc. When you open a savings account, anyone can make a withdrawal if they have your passbook and the personal seal you used to open the account, so please store them safely.

■ Cash cards

When you open a savings account, be sure to apply for a cash card too. Bank counters are normally only open from 9 AM to 3 PM, excluding Saturdays, Sundays, and public holidays. If you use your cash card at an ATM or cash machine that can pay out your deposits, you can take money out until 9 PM on a weekday or 5 PM on Saturday and Sunday, and you can also make withdrawals from other banks' ATMs. (Opening hours vary depending on the bank. Withdrawals from other banks or withdrawals made outside opening hours will incur a handling fee.)

If using a cash card, you will need a PIN number rather than your personal seal.

■ Bank transfers

If you want to send money to someone else, you can use registered mail for cash, postal money orders, or checks, but direct bank transfers are convenient for transferring money directly into someone else's savings account.

To make a bank transfer, fill in a bank transfer form with the recipient's bank, branch, account type, account number, name, the amount to be paid, and your own address and phone number. Present this at the counter with the cash to be transferred. You can also make bank transfers from ATMs.

A handling fee will be charged, but the amount varies depending on the receiving financial institution and the amount being transferred. (A handling fee will be charged even if the transfer is made between accounts at the same bank.)

■ Direct Debits

A direct debit transfers money on a regular basis, via a financial institution, between an individual's account and a person or organization they have made an agreement with. For example, if you apply to a financial institution for a direct debit for your electricity bill, the billed amount will be transferred to the power company's account on a regular basis, saving you the bother of doing the payment procedures each time.

This can be used not just for utilities like electricity, gas, water, and phone bills, but all kinds of regular payments.

To set up a direct debit for your utility bills, fill in the direct debit application form that your financial institution provides with the necessary information, affix it with the seal you use for your bank account, and submit it. (Direct debit application forms are also sometimes provided at convenience stores and the like. In that case, you can apply by sending it to your financial institution.)

■ Exchanging cash

Exchange between Japanese Yen and foreign currencies may be done at banks with signs reading “外国為替取扱店” (“foreign exchange handled”) or “外貨両替取扱店” (“foreign currency handled”).

A fee will be charged to exchange money.

■ Borrowing

As well as income from fees for various services, financial institutions operate on interest income from loans that use the funds deposited with them. Lending, then, is the main business of financial institutions.

When borrowing from a financial institution in Japan, if there is no collateral (property which can be seized if the loan is not paid), then a loan will be made that takes into account the individual's ability to repay. Therefore, students and people without a regular job will find it difficult to borrow.

For foreign nationals, unless they have a fixed occupation or own something like real estate for collateral, they may find it even harder than Japanese nationals to borrow money. Because a decision needs to be made according to each individual's circumstances, you will need to consult with the financial institution concerned.

■ Credit Cards

Credit cards are handled by card and consumer finance companies, but you can apply for one at a normal bank. Relative to western countries, there are still many stores in Japan that do not accept credit cards, but their use is spreading.

The checks for foreign nationals when applying for credit cards are not as strict as those described for loans above, but they will take into account the individual's creditworthiness and ability to repay. We recommend that foreign nationals make an internationally accepted credit card (Visa Card, MasterCard, etc.) in their home country.



8

Domestic Mail/Package delivery services

Domestic Mail

The main types of mail are postcards, envelopes, and packages, and the postage fee will vary depending on the type of item, size, and weight.

There are also various types of special handling that can be requested, such as registered mail for sending cash and valuables. This allows for compensation for damages in the event that the item is lost. (compensation is not payable for regular mail.) Other types of special handling include express delivery, for when you want to get the item to its recipient as fast as possible, certification of contents, for verifying the contents of a posted item, recorded delivery, for verifying delivery of the items, and delivery date designation, for ensuring the item is delivered on a specific day. (A special handling fee will be added to the postage fee for these services.)

■ Domestic Postage Fees (Basic fees)

Type	Contents		Weight	Fee
Letter	Standard-size mail		Up to 25 g	¥82
			Up to 50 g	¥92
	Non-standard sized mail	Specified size: Up to 34cm long, up to 25cm wide, up to 3cm thick, weighing less than 1kg.	Up to 50 g	¥120
			Up to 100 g	¥140
			Up to 150 g	¥205
			Up to 250 g	¥250
			Up to 500 g	¥380
			Up to 1 kg	¥570
			Over the specified size	Up to 50 g
		Up to 100 g		¥220
		Up to 150 g		¥290
		Up to 250 g		¥340
		Up to 500 g		¥500
		Up to 1 kg		¥700
		Up to 2 kg		¥1,020
		Up to 4 kg	¥1,330	
	Mini-letter		Up to 25 g	¥62
Letter pack light: Up to 3cm thick		Up to 4 kg	¥360	
Letter pack plus: Over 3cm thick		Up to 4 kg	¥510	
Postcard	Regular postcard			¥62
	Return postcard			¥124

Package delivery services

These are services that specialist providers operate through convenience stores and similar to deliver packages (up to 30 kg) nationwide. Size and weight classifications depend on the company, as do the fees.

A variety of additional services such as specifying the date and time of delivery, and the delivery of fresh produce, are also offered.

There are also airport delivery services that allow you to send packages to the airport counter, which are often used when leaving the country.



9

Transportation in the Prefecture

Transportation in the Prefecture

The main public transportation services in the prefecture are railways and buses, but the number of routes, and the number of trains/buses per day is limited, so these are not necessarily as convenient as they are in the Tokyo area.

In addition, there are taxi companies and their offices in each municipality, while airplanes depart from Hanamaki airport.

■ Railways

The three railway operators in the prefecture are **JR** (East Japan Railway), the **Iwate Galaxy Railway**, and the **Sanriku Railway**.

- **JR** operates the Tohoku Shinkansen (Tokyo - Morioka - Shin-Aomori), Akita Shinkansen (Tokyo - Morioka - Akita), Tohoku Main Line (Morioka - Ueno), Tazawako Line (Morioka - Omagari), Kitakami Line (Kitakami - Yokote), Yamada Line (Morioka - Miyako), Kamaishi Line (Kamaishi - Tono - Hanamaki), Ofunato Line (Sakari - Rikuzentakata - Ichinoseki), Hachinohe Line (Kuji - Hachinohe) and Hanawa Line (Koma - Odate).
- **Iwate Galaxy Railway** operates the Iwate Galaxy Railway Line (Morioka - Metoki).
- **While the Sanriku Railway** operates the Kita-Rias Line (Miyako - Kuji) and the Minami-Rias Line (Kamaishi - Sakari).

Bus rapid transit systems also operate in some sections.

■ Buses

The prefecture's regular route buses are operated by Iwateken Kotsu south of Morioka, and Northern Iwate Transportation north of Morioka, with JR Bus and Nanbu Bus also operating in some areas.

■ Taxis

In urban areas taxis will be waiting in front of railway stations, but in some areas, you will need to call them by phone.

■ Air Travel

The only airport in the prefecture is Iwate Hanamaki Airport in Hanamaki City, which is served by regular buses from Morioka station, Hanamaki station, and Kitakami station. The journey takes about 45 minutes from Morioka station.

How to Ride Buses

- Wait for the bus at the bus stop. Times are listed on the notice board at the stop.
- In Iwate Prefecture, there are buses that board from the front and those that board from the middle. Make sure to take a numbered ticket when you get on.
(See next page for bus cards)
- When you get near to the stop you want to get off at, press the stop button.
- The fare will be displayed above the exit in accordance with the number of your ticket, so please put the ticket in the box together with your fare. (Change is available.)



Bus Cards

On some buses, a bus card (a kind of prepaid card) can be used to pay the fare. (Different cards are required for Iwateken Kotsu buses and Northern Iwate Transportation buses.)

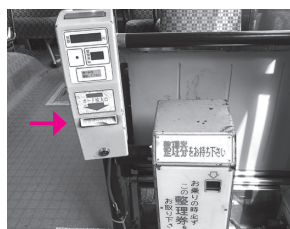
If you use these, there is no need to prepare the correct change, and a discount will be applied to the fare. Bus cards are sold at bus information offices, but you can also buy them from the bus driver.



Insert the card into the card slot.

The card balance and the ticket number will be displayed. Please make sure to check them.

Remove the card from the card slot.



* If there is insufficient balance on the card, the card will remain inside the payment machine. You can pay the remaining amount with a new card or cash, so please ask the driver.

Taxis

When you want to take a taxi, signal to a free car by putting your hand in the air, and you can get in right away. You can also call a taxi company to pick you up at home (no fare is chargeable for the drive to your house, etc.)

There are small four-seater taxis, medium four-seater taxis, and nine-seater jumbo taxis. All have "Taxi" displayed on the roof.

When you reach your destination, pay the fare displayed on the meter next to the driver's seat. There is no need for a tip, but there may be surcharges late at night or early in the morning.

Traffic rules

Traffic rules are principally designed to ensure the safety and smooth flow of traffic.

The main characteristic of Japanese roads is that, with the exception of expressways, they are all located in areas where people live and work, so it is a road environment with many intersections where pedestrians, cyclists and cars mix together.

Therefore, in order to maintain traffic order and prevent accidents, violations of traffic rules are dealt with strictly.

Depending on the violation, penalties include fines and the revocation of driving licenses, with particularly severe punishments for malicious and dangerous behavior such as speeding or drink-driving.

The basis of traffic rules is that not only car drivers, but also pedestrians and cyclists should abide by the rules, signals and signs, and act so as not to cause trouble to others.

■ Driving Licenses

A driver's license is required to drive a car in Japan. Driving without a license is punished severely.

Foreign nationals driving in Japan must fulfill one of the following requirements.

- (1) Hold a driver's license and a translated certificate from a country or region that has concluded a bilateral agreement with Japan. (Estonia, Switzerland, Germany, France, Belgium, Monaco, Taiwan)
- (2) Hold an international driver's license issued by a signatory state to the Geneva Convention. (This is valid for one year from the day of entry. However, if your international driver's license expires and you have it re-issued, you will be required to stay in the issuing country for more than three months after the reissue.)
- (3) Convert a foreign driver's license into a Japanese driver's license.
- (4) Obtain a Japanese driver's license.

■ Procedure for converting a driver's license

In order to convert a driver's license from your home country into a Japanese driver's license, you must apply to the driver's license center.

[Application conditions]

- (1) First-class license only.
- (2) You are resident in Iwate Prefecture.
- (3) The license you obtained in a foreign country has not expired.
- (4) You can prove that you were resident in the country where you obtain your license for more than three months after acquiring your license.

[Required documents]

- (1) A driver's license obtained in a foreign country
- (2) Passport and residence card
- (3) Documents that can confirm the length of your stay
- (4) Resident's certificate
- (5) A translation of your foreign driver's license into Japanese (only those issued by an embassy, consulate, or the Japan Automobile Federation (JAF).)
- (6) 1 photograph (two photos if a check of knowledge and skills is also conducted) 3 cm x 2.4 cm (no background, no hats, facing forwards, showing top 30% of the body, taken within the last 6 months)

[Application counter]

- Monday to Friday (reservation required, closed on public holidays, compensatory holidays, and the New Year holiday)

○ Application without knowledge/skills check

Morioka Driver's License Center ☎ 019-606-1251

Kennan (South Prefectural) Driver's License Center ☎ 0197-44-3511

Engan (Coastal) Driver's License Center ☎ 0193-23-1515

Kenpoku (North Prefectural) Driver's License Center ☎ 0194-52-0613

○ Driver's License Test Center ☎ 019-683-1251

- ・ Document check 3:00 PM
- ・ Knowledge / skills check 9:00 AM

[Fees]

Fees chargeable depend on the type of license, so please ask a driver's license center for details.

■ Acquiring a Japanese Driver's License

There are two methods of obtaining a Japanese driver's license: attending a driving school and passing a written examination at the driver's license center, or studying traffic rules oneself and passing the written examination as well as a practical examination of driving skills.

Attending a driving school costs a large amount of time and money (over 30 hours and ¥300,000), but it is very difficult even for Japanese people to pass the examination through self-study.

If you do not have a driver's license from a foreign country, then you will need to obtain a Japanese one through the above methods. However, it is a basic prerequisite to be able to understand Japanese.

■ Traffic Accidents

If you have a traffic accident, please take the following action.

- Stop the car in a safe place, such as the road shoulder or vacant land.
- If anyone is injured, provide emergency assistance.
- Call an ambulance (☎ 119) and the police (☎ 110).

(If you cause an accident and flee without providing assistance to the wounded, you will be charged with a hit-and-run. If you do not notify the police, you will be charged with failure to report an accident.)

- Follow police officers' instructions.

For fatal accidents in particular, you may be punished for professional negligence resulting in injury or death, resulting not only in the revocation or suspension of your driver's license, but also criminal penalties in accordance with your responsibility. You will also have to pay the other party compensation for financial and emotional damages incurred.

The ways in which compensation for damages incurred in traffic accidents is handled are complex and diverse. In the unfortunate event that you have caused or are the victim of a traffic accident, the Iwate Citizen's Support Center will respond to your queries (☎ 019-624-2244).

■ Automobile Liability Insurance

If you own a motorcycle or car, you must have automobile liability insurance (compulsory insurance). Automobiles and motorcycles with an engine size of 251cc or over are legally required to undergo regular inspections, and the procedures for obtaining insurance will be conducted automatically when the procedures for the test are performed.

However, motorcycles under 250cc are not required to be inspected, so there are cases in which their insurance is found to be expired. For motorcycles under 250cc in particular, please check the expiration date of your insurance. The procedures for obtaining insurance are handled by the car or motorcycle dealer.

Maximum Amounts Covered under Automobile Liability Insurance

- Injury ¥1,200,000
- Ongoing injury ¥750,000 - ¥40,000,000
- Death ¥30,000,000

■ Optional Insurance

Because the amount covered under automobile liability insurance is limited, there are many cases in which it does not fully cover the damages payable the other party. In addition, it does not cover your own medical expenses. If you own a motorcycle or a car, we strongly recommend also obtaining optional insurance.



10

Emergencies

Police

If you have a traffic accident or are a victim of theft, please call “110” without an area code to be connected to the police.

- When the police answer, please calmly state your business: “There was a traffic accident”, “I’ve been robbed”, “Please help”, etc.
(Please assume that foreign languages will not be understood and remember some simple Japanese.)
- Inform them of where the accident, etc. took place. (If you do not know the address, tell them about any landmarks nearby.)

■ Fire/Ambulance

In the case of fire, illness, or injury, dial “119” (without an area code) and speak to the fire station. (both fire trucks and ambulances are stationed there.)

- When the fire station answers, please calmly state your business: “There’s a fire”, “There’s been an accident”, “I’ve been taken ill”, etc.
- Inform them of where you want the fire truck or ambulance to come. You should also describe the situation and any relevant details.

Emergency calls from public telephones

You can call 110 and 119 free of charge from public telephones.

Emergency phone calls from cellphones

You can call 110 and 119 free of charge from cellphones.



11

Earthquakes/Tsunamis

Earthquakes

Japan is a country prone to earthquakes, and Iwate Prefecture in particular is an area that experiences many earthquakes.

Please be prepared at all times.

● Take measures to prepare for an earthquake beforehand.

- Check the evacuation site of the area where you live.
- Decide on a meeting place for your family in advance in the event that you are evacuated.
- Check if there is any furniture prone to falling over in your house, or any dangerous areas near the house.
- Are there any elderly or disabled people among your family or neighbors? Be sure to help each other in the event of an earthquake.

● Decide in advance what items to take with you in the event of evacuation, and a place to store them.

(Emergency food, medical supplies, clothing, bank passbooks, personal seals, radio, flashlight, etc.)

● In the event of an earthquake, it is important to act without panicking.

- Open windows and doors to ensure to be not trapped in the building.
- Even in large earthquakes, the shaking lasts for about one minute. You will have time even after the shaking has subsided. Calmly take cover under a table or similar.
- Extinguish any sources of fire.

● Evacuate calmly.

- Evacuate on foot, rather than using a car. Keep your luggage to a minimum and try to move lightly.
- Be careful of any fallen or collapsed objects.
- Listen to correct information from the TV, radio, etc., and avoid being swayed by rumors and hoaxes.

■ Japan Meteorological Agency (JMA) Seismic Intensity Scale

Earthquake intensity	Earthquake situation
1	Slight shaking may be felt indoors.
2	Hanging objects such as lamps may sway gently.
3	Most people inside will feel shaking.
4	Hanging objects such as lamps swing significantly, and unstable ornaments may topple over.
5 Lower	Dishes in cupboards and items on bookshelves may fall. Unsecured furniture may move, and unstable furniture may topple over.
5 Upper	Unsecured furniture may topple over, unreinforced block walls may topple over.
6 Lower	Wall tiles and window panes may be damaged and fall, wooden houses with low earthquake resistance may tilt.
6 Upper	Large cracks in the ground may appear, and large-scale landslips and landslides may occur.
7	Even wooden buildings with high earthquake resistance may tilt in rare cases, and concrete buildings with low earthquake resistance are more likely to collapse.

Tsunamis

In coastal areas, you must always be careful of tsunamis when an earthquake occurs. The coastal areas of Iwate prefecture face the Pacific Ocean, with many bays and inlets, so high waves will rush down these and cause more damage than anticipated.

The prefecture has experienced tsunami damage many times in the past.

- If you feel an earthquake when in a low-lying coastal area, please evacuate to high ground immediately. Just one minute can be the difference between life and death. In cases where a tsunami is imminent in particular, avoid evacuating by car, and escape on foot.
- Tsunami waves arrive repeatedly. Never approach the sea until the alarm or warning is lifted.
- Prepare for the worst by deciding what route you will take to an evacuation site in the event of an earthquake.
- Please act based on correct information from the radio and television.

12 Police

Police

In Japan, efforts are made to ensure the security of the neighborhood, such as by setting up koban (“police boxes”) in each area and conducting police patrols.

In recent years, there has been an increase in incidents involving foreign nationals, so there may be situations in which police officers will ask questions. In such a situation, avoid any unpleasant interactions by presenting your residence card and answering questions sincerely with a cooperative attitude.

Please maintain a cooperative relationship with the police and consult with them if you are involved in any kind of trouble or incident.

Arrest and Custody

If someone is arrested by a police officer as a suspect in a criminal case, they will be detained in accordance with the following procedures.

- ① A suspect will be released or referred to a public prosecutor within 48 hours of being questioned and detained by a police officer.
- ② The public prosecutor will interrogate the suspect within 24 hours, and either release them within 72 hours of their detention, or apply to a judge to have them further detained.
- ③ When a judge receives a request for detention from a public prosecutor, they will promptly issue a detention warrant. However, if it is found that there is no need for detention, they must immediately order the release of the suspect. The detention period is 10 days or less. (Article 208, paragraph 1 of the Code of Criminal Procedure)

When deemed unavoidable, the detention period can be extended at the public prosecutor’s request, so long the extension does not exceed 10 days.

- ④ Within 20 days (23 days from the suspect’s arrest), the prosecutor will decide whether to release or charge the suspect. If charged while still detained, the suspect will be regarded as defendant and their detention will continue, but they can apply to be released on bail.
- ⑤ A suspect must be informed that they can call a lawyer when they are arrested. Lawyers are available 24 hours a day through the duty lawyer system, and a suspect can request a lawyer from the Bar Association through the police officer, prosecutor, and judge. The initial interview is free, but a fee will be payable for any subsequent defense. For those whose financial circumstances make it difficult to pay a lawyer, the “Legal Aid Society Criminal Suspect Defense Assistance Project” exists as a system to help with lawyers’ fees.



13 Consumer Problems

Consumer Problems

Fraudulent selling that cajoles people to buy imitation products at high prices continues to occur. There are also many Japanese victims, but foreign nationals who are not used to the language or customs must be extra vigilant. Determine whether or not the other party's pleasant attitude is genuine and remember that if it seems too good to be true, it probably is.

There is also trouble that arises from failures of communication. Keep in mind that business practices may be different and check the terms of sale with the other party.

In order to prevent these kinds of consumer issues, there is a "cooling-off system" in which consumers can unilaterally dissolve a sale agreement within a certain period of time.

- For consultations on consumer problems or the cooling-off system, please contact the Iwate Citizen's Support Center (☎ 019-624-2209) or the Consumer Affairs Center of your local municipality.

外国人用

岩手 生活信息手册





居留期限

居留期限有 15 日、30 日、90 日、3 个月、6 个月、1 年、1 年零 3 个月、2 年、2 年零 3 个月、3 年、5 年等 11 种以及作为出境准备期限而以月单位许可的期限。当超过该居留期限时，必须获取有关许可。

居留期限的更新

当希望延长居留期限并继续从事同样活动时，必须办理居留期限更新手续。申请可从居留期限到期（拥有 6 个月以上居留期间的人为到期前大约 3 个月）以前开始。

在居留期间之内如果申请结果还没有出来的话，即使是现在的居留期到期以后，也可以用申请前的居留资格继续居留——最长 2 个月。（2 个月之内结果出来的话，该日期为居留期的到期日。）

申请所需资料因居留资格与居留期限的不同而有所不同，请咨询居住地的地方入国管理机构。

所需资料	1 居留期限更新许可申请书 2 照片 3 在日本活动内容的相应资料 4 护照或居留资格证明书 5 在留卡 6 居留资格外活动许可书（已获得居留资格外活动许可时） 7 身份保证书等
提交处/问讯处	提交处：居住地的地方入国管理机构 问讯处：居住地的地方入国管理机构或者外国人居留综合信息中心
开始与截止时间	居留期限到期前（拥有 6 个月的居留资格者在居留期到期日的大约 3 个月以前）
手续费	在获得批准时需缴纳 4,000 日元（收入印纸）

非法滞留

居留期限即使只超过 1 日也将构成“非法滞留”，在规定的期间内，将被禁止入境日本。非法滞留者回国时办理手续如下。

以通常方式回国	对于因病等不得已的事由以及非常短期的非法滞留的情形，可办理期限更新手续，如获得认可有可能以通常方式回国，因此请尽快向就近的地方入国管理机关提出申报。
出境命令回国	出境命令，是指对在入管法违反者中满足一定条件的非法滞留者，并不进行拘留而直接通过简易手续让其出境的制度。出境命令的对象为符合下列所有情形的非法滞留者。 (1) 具有迅速从日本出境的意识并亲自到地方入国管理机关自首 (2) 不符合除了超过居留期限以外的强制遣送事由 (3) 入境后没有因被判为盗窃罪等而服刑或监禁 (4) 以前没有被强制遣送回国或者出境命令回国 (5) 可预见其确实能够迅速从日本出境回国
强制遣送回国	如被逮捕，将被拘禁在拘留所。之后可能将被引渡给地方入管管理机关而处以强制遣送回国、或者被起诉而接受审判。被强制遣送回国者在 5 年内禁止其再入境日本。 以前也曾有过被强制遣送回国的记录者可能在 10 年内或者永远禁止其再入境日本。 ※ 居留特别许可：即使是被强制遣送回国者，法务大臣经考虑实际情况可对其做出居留许可。由于这是居留特别许可，是否批准居留由法务大臣决定。仅限于被许可的情况下，可取得居留资格而继续在日本生活。

居留资格的变更

居留资格为“日本人的配偶者等”、“定住者”、“永住者”、“永住者的配偶者等”的人士,由于没有活动限制,因此没有必要因工作关系而对居留资格进行变更。但是,对于上述以外的居留资格者,在转职或者就职时,有必要把居留资格变更为与其活动相符的种类,因此必须到地方入国管理机构办理“居留资格变更”的登记手续。所需的资料因居留资格与居留期限不同而不同,详情请就近咨询居住地的地方入国管理机构。

所需资料	1 居留资格变更许可申请书 2 照片 3 在日本活动内容的相应资料 4 护照或居留资格证明书 5 在留卡 6 居留资格外活动许可书(已获得居留资格外活动许可时) 7 身份保证书 等
提交处/问讯处	提交处: 居住地的地方入国管理机构问讯处: 居住地的地方入国管理机构或者外国人居留综合信息中心
开始与截止时间	从发生资格变更事由时起至居留期限到期日之前
手续费	在获得批准时需缴纳 4,000 日元(收入印纸)

永住(定居)许可的申请

希望在日本永住(定居)者必须获得永住许可。到地方入国管理机构办理永住(定居)许可的申请手续。获得永住(定居)许可后居留资格即变成永住者,可在保留外国国籍不变的情况下,一直在日本居住。尽管没有必要办理居留期限的更新以及居留资格的变更手续,但因旅游等从日本出境时,必须办理再入境许可申请手续(但是,持有效护照与在留卡,出境1年以内再入境时,不需要取得再入境许可)。由于永住(定居)许可有一些条件,详情请就近咨询居住地的地方入国管理机构。

手续费

在获得批准时需缴纳 8,000 日元(收入印纸)

居留资格外活动许可

比如留学生希望打短工时需要获得许可。(留学生在就读的大学或高等专门学校(仅限于第4年级、第5年级、专科)从事于教育辅助(TA)或研究辅助(RA)者除外)。

对于持不可劳动就业的居留资格者希望进行通过打短工等获得收入的活动时,必须到地方入国管理机构申请并获得居留资格外活动许可。以留学·家属等居留资格打短工时,劳动就业时间或劳动就业内容上有限制。如从事自己居留资格活动范围之外的工作,则构成“非法劳动就业”而受到处罚。详情请就近咨询居住地的地方入国管理机构。

所需资料	1 居留资格外活动许可申请书 2 可明确与居留资格外活动许可相关的活动内容的书面资料 3 护照或居留资格证明书 4 在留卡等 5 要出示可证明身份的文件等 (申请代理人申请时)
提交处/问讯处	提交处: 居住地的地方入国管理机构 问讯处: 居住地的地方入国管理机构或者外国人居留综合信息中心
何时	希望通过现在持有
手续费	免费的居留资格之外的活动获得收入时

居留资格的取得

在日本出生但不拥有日本国籍的孩子在日本居留时，必须在出生后 30 日以内到居住地的地方入国管理机构申请并获取居留资格手续。但对于在出生后 60 日以内出境的情况没有必要进行申请。

所需资料	1 居留资格取得许可申请书 2 出生证明、母子健康手册等 3 双亲的护照与在留卡 4 身份保证书 等
提交处/问讯处	提交处：居住地的地方入国管理机构 问讯处：居住地的地方入国管理机构或者外国人居留综合信息中心（请参照“4 有关居留的 各种咨询”）
截止时间	在出生后 30 日以内 （但对于在出生后 60 日以内出境的情况没有必要进行申请）
手续费	免费

有关特别永住者的孩子，请在出生后 60 日以内到居住地的市町村役所（政府）办理特别永住许可申请。



2

结婚与离婚

以下将遵照日本的法律，对有关外国人的结婚和离婚进行解说。与日本人相比的不同之处在于除了向日本政府外还必须向其本国提交申报。此外，请不要忘记办理伴随结婚、离婚的各种必要申报。

结婚

国際結婚では結婚する二人の、それぞれの国の法律に従わなければなりません。また、両方の国で跨国结婚的双方当事人必须遵守各自国家的法律。此外，重要的是需在双方的国家办理结婚手续。具体来说，除了婚姻申报外，请不要忘记办理如外国人登记等相关法律所规定的各项申报（请参照 3 结婚或离婚时的各种申报）。在这种情形下，较多通过工作单位或学校提交申报，因此也请通知工作单位或学校。

日本的婚姻

日本法律规定的婚姻（结婚）条件有如下事项，必须满足所有条件。

- 结婚年龄，男方必须满 18 周岁、女方必须满 16 周岁（民法 731 条）
- 对于未满 20 周岁的情形，需经父母同意（民法 737 条）
- 非重婚（民法 732 条）
- 对于女性再婚的情形，需在法定离婚日算起 6 个月之后（民法 733 条）
- 非近亲者（直系亲属或三代以内的旁系亲属）（民法 734 条）

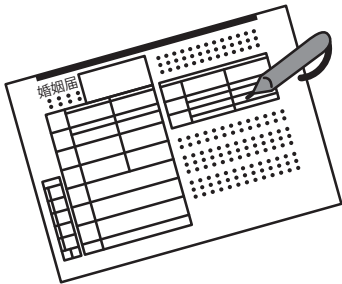
结婚申报

结婚申报是指在结婚时向市区町村役所（政府）提交申报资料。不同的国家其婚姻成立的条件也不一样，日本人、外国人都必须满足其各自国家的婚姻条件。因此，对于外国人结婚的情形，必须提交可证明满足婚姻条件的婚姻条件证明书。

外国人的婚姻条件具备证明书可从在日大使馆、领事馆取得。如是外语记载，需同时提交附有翻译者签名与盖章的译文。如其国家不发行婚姻条件具备证明书，必须准备可替代此证明书的资料，详情请咨询所在地的市区町村役所（政府）。

所需资料	1 婚姻申报（表格可从市区町村役取得） 2 户口本誊本 1 份（日本人 ※） 3 婚姻条件具备证明书或者可替代证明的资料（外国人） 4 护照等（可证明国籍的资料）
提交处/问讯处	结婚双方之一的居住地，或者日本人的本籍所在地的市区町村役所（政府）
提交时间	无限制
提交人	结婚的双方

※ 如需要，可在受理后领取婚姻受理证明书。



当事人一方为外国人时

对于日本人和外国人在日本结婚的情形，依据户籍法的规定需提交婚姻申报。在办理完日本方面的手续后，请向外国人的本国提交婚姻申报。此时因需婚姻受理证明书，所以当向日本方面提交婚姻申报时，请同时申请并领取受理证明书。此外，不同的国家手续办理方法也不一样，请咨询在日大使馆或领事馆等。希望在与日本人结婚后把居留资格变更为日本人的配偶者时，请咨询所在地的入国管理局。

婚姻申报的填写方法

婚姻申报的填写方法除了以下几点，其他各项与日本人相同。

●当事者的姓名、出生年月、住所

按姓、名的顺序用片假名进行填写。姓与名字之间用句点隔开。出生年月可用公历。住所为住民登记证明书上所记载的住所。

●本籍地

只需填写当事人的国籍

●签名、盖章

仅签名亦可。

当事人双方均为外国人时

对于外国人希望在日本结婚的情形，根据国家不同，其办理手续的方法也有所不同。请咨询各自国家的在日大使馆、领事馆。在日本的市区町村役所（政府）办理结婚手续时，请事先确认市区町村役所（政府）所需的资料（受理后即可领取婚姻申报受理证明书）。然后，也必须向各自国家提交申报。

结婚后的国籍

外国人并不因与日本人结婚而自动取得日本国籍。如希望取得日本国籍，必须获得法务大臣的归化（加入日本国籍）许可。

结婚或离婚时的各种申报

伴随结婚申报、离婚申报的提交,必须办理如下各种申报。提交申报不仅在市区町村役所(政府)进行,通过工作单位或学校提交申报的情形也很多,因此也必须通知工作单位或学校。

必要的申报	提交处
与配偶离婚·死别的申报	地方入国管理机关
居留资格的变更	地方入国管理机关
搬迁转居申报	市区町村役所(政府)
迁入申报	新居住地的市区町村役所(政府)
国民健康保险、国民年金(国民养老金)的住所与名义变更	市区町村役所(政府)
驾驶执照的住所与名义的变更	警察局、驾驶执照考场
个人情况变动申报	工作单位
银行账户的住所与名义变更	金融机构
电、煤气、水道的合同变更	电力公司、煤气公司、水道局
电话的转移及新设	电话公司
邮件转送的变更申报	邮局

跨国结婚的手续流程

日本人与外国人的结婚

日本人必须满足日本国家法律所规定的婚姻条件。
外国人必须满足自己国家法律所规定的婚姻条件。

所需准备 资料

- 1 结婚申报书(可从市区町村役所(政府)获取, 并需两名成年证人署名与盖章)
- 2 户口誊本(日本人)
- 3 婚姻条件具备证明书或者可替代证明书的资料(外国人)
- 4 护照等(可证明国籍的资料)

在结婚双方之一的居住地, 或者日本人的本籍所在地的市区町村役所(政府)提出申报

如被受理, 则在日本的结婚成立

当场即可领取结婚受理证明书

外国人需办理在其本国的婚姻手续

由于各国的手续不同, 请咨询在日大使馆或领事馆等

如被受理, 则在其本国的结婚成立

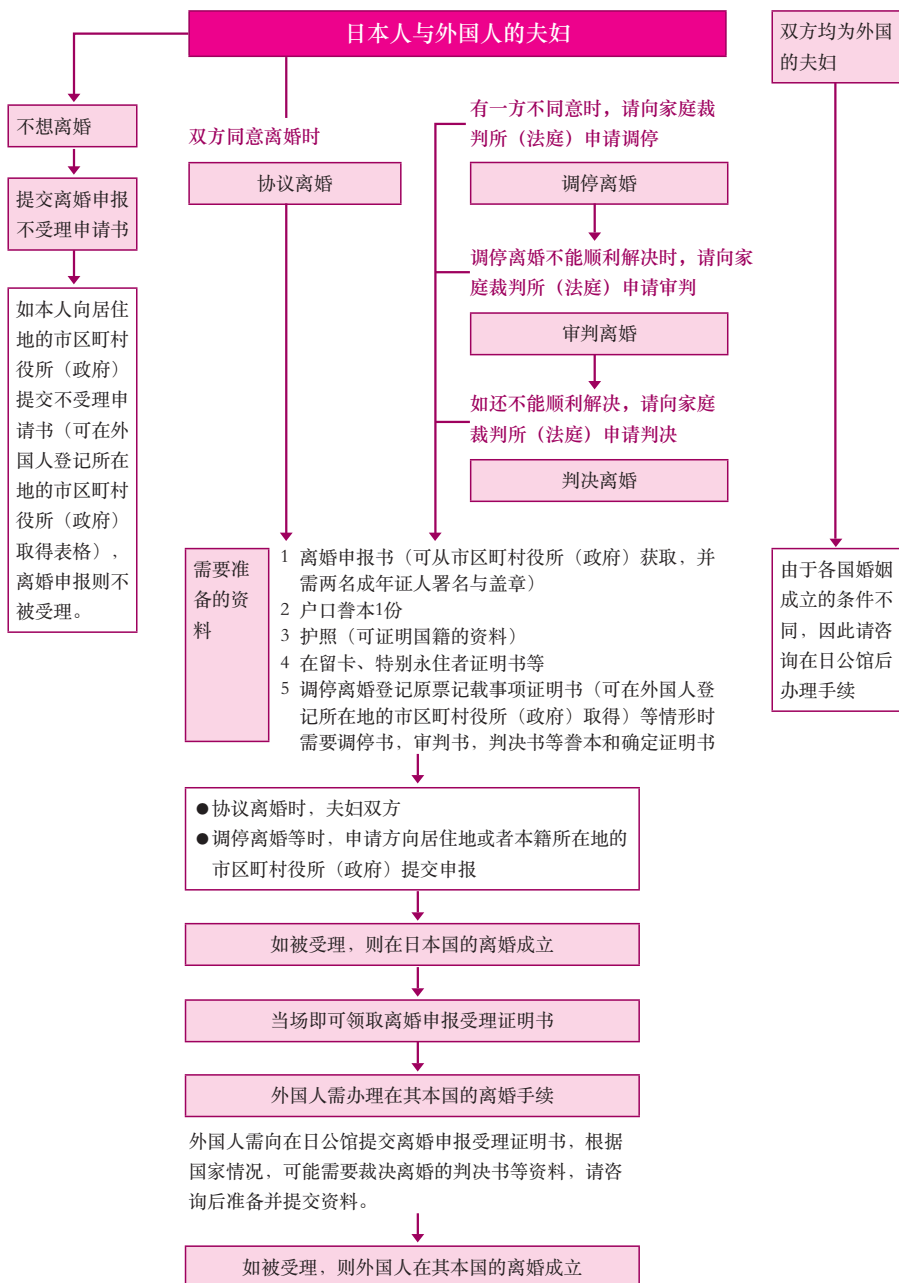
如希望居留资格变更为日本人配偶者, 请咨询所在地的入国管理局。

外国人与外国人的结婚

由于各国婚姻成立的条件不同, 因此请咨询在日公馆并办理手续。

在日本的市区町村役所(政府)申请婚姻手续时, 请咨询市区町村役所(政府)。

跨国离婚的手续流程

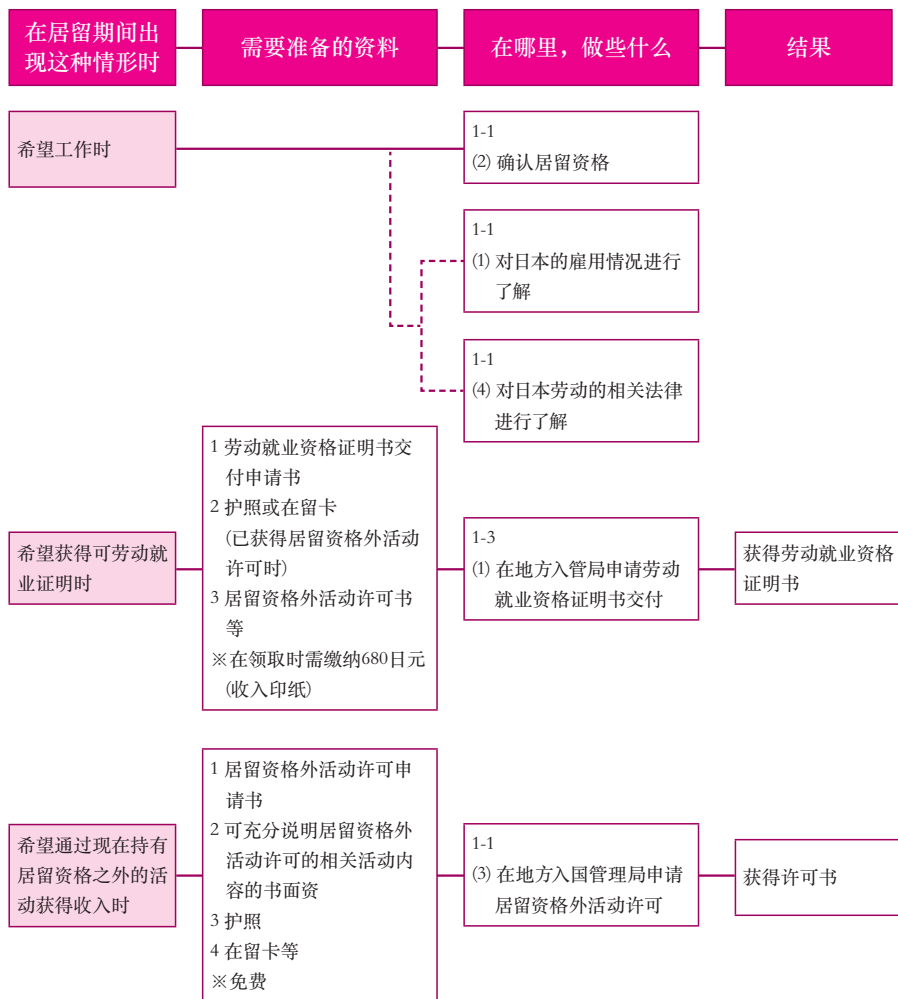


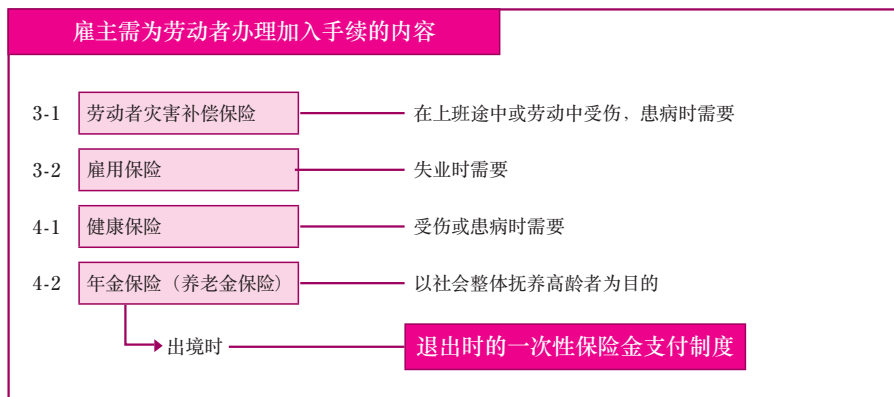
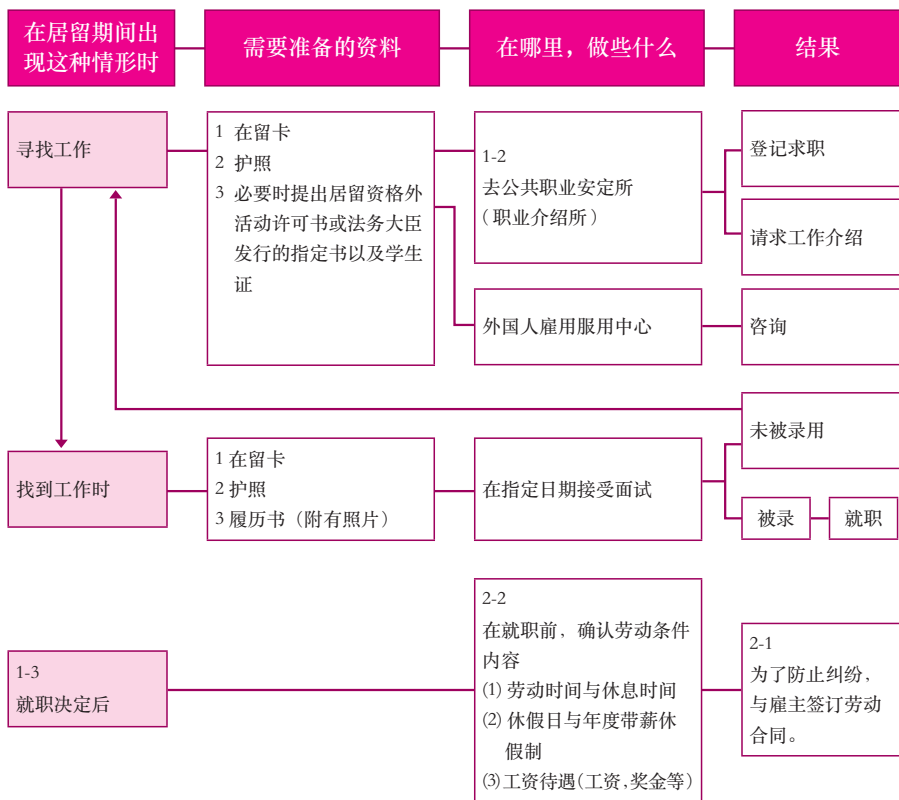


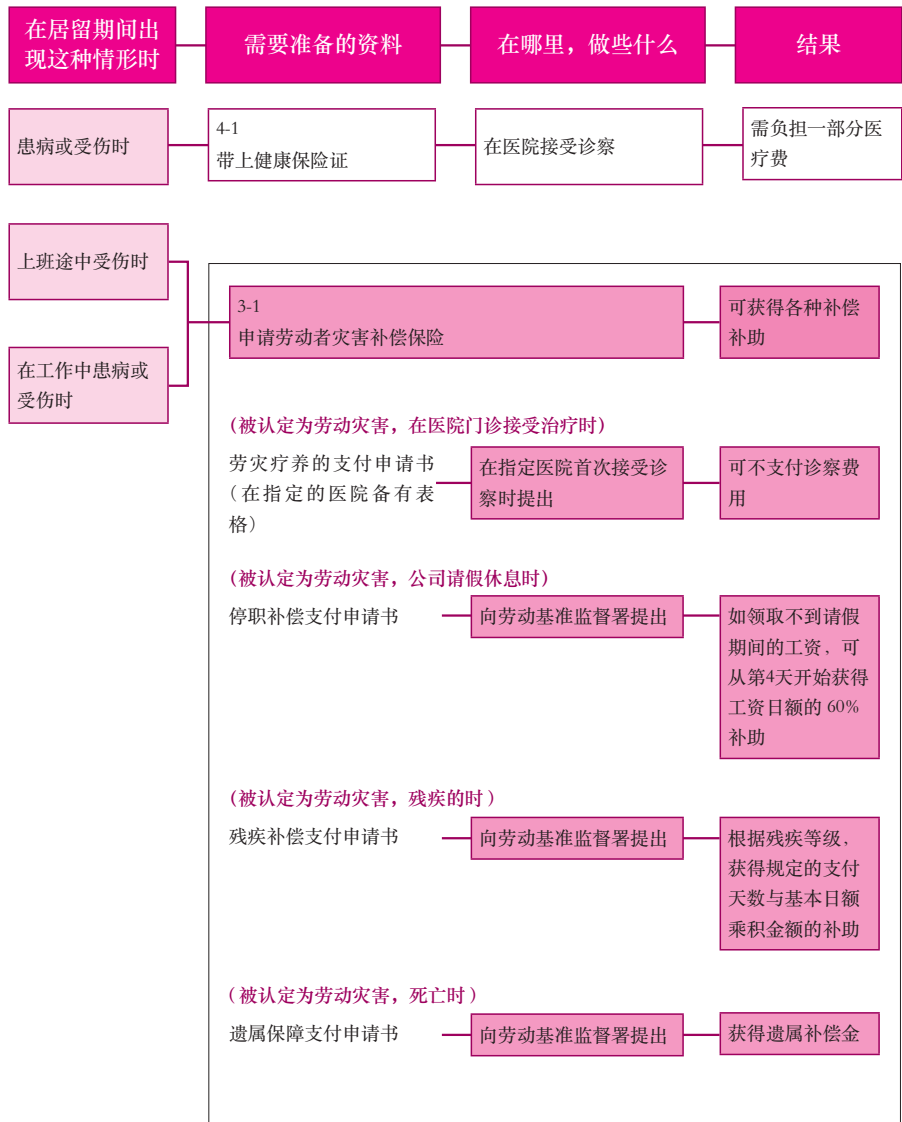
3

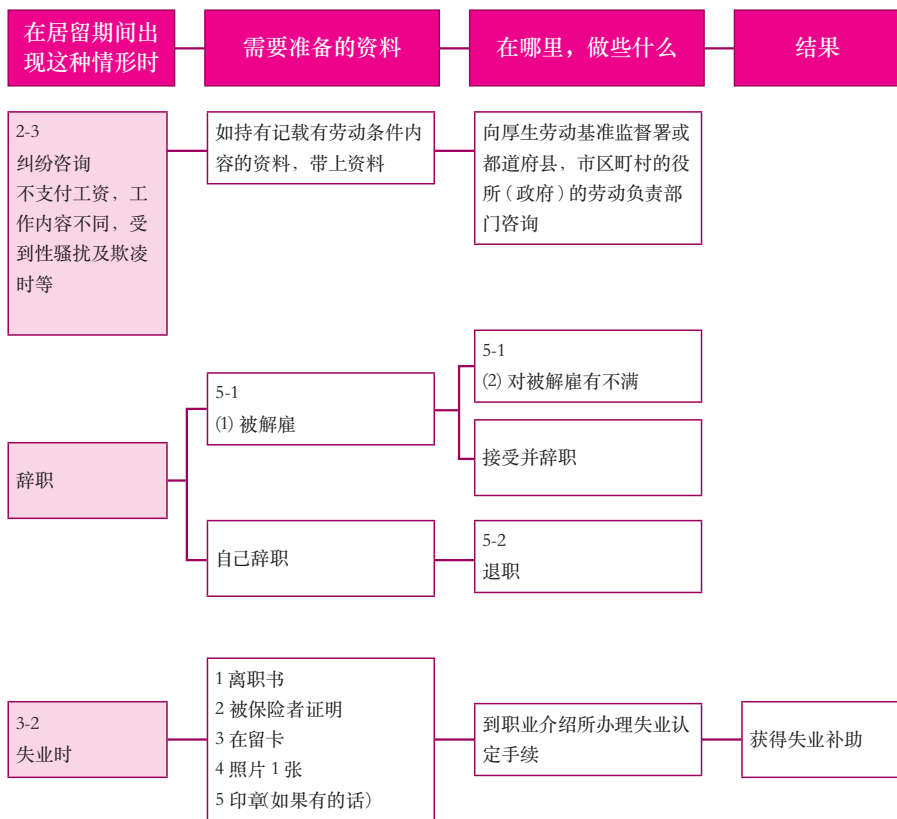
劳动与研修

就职时, 就职后, 辞职时





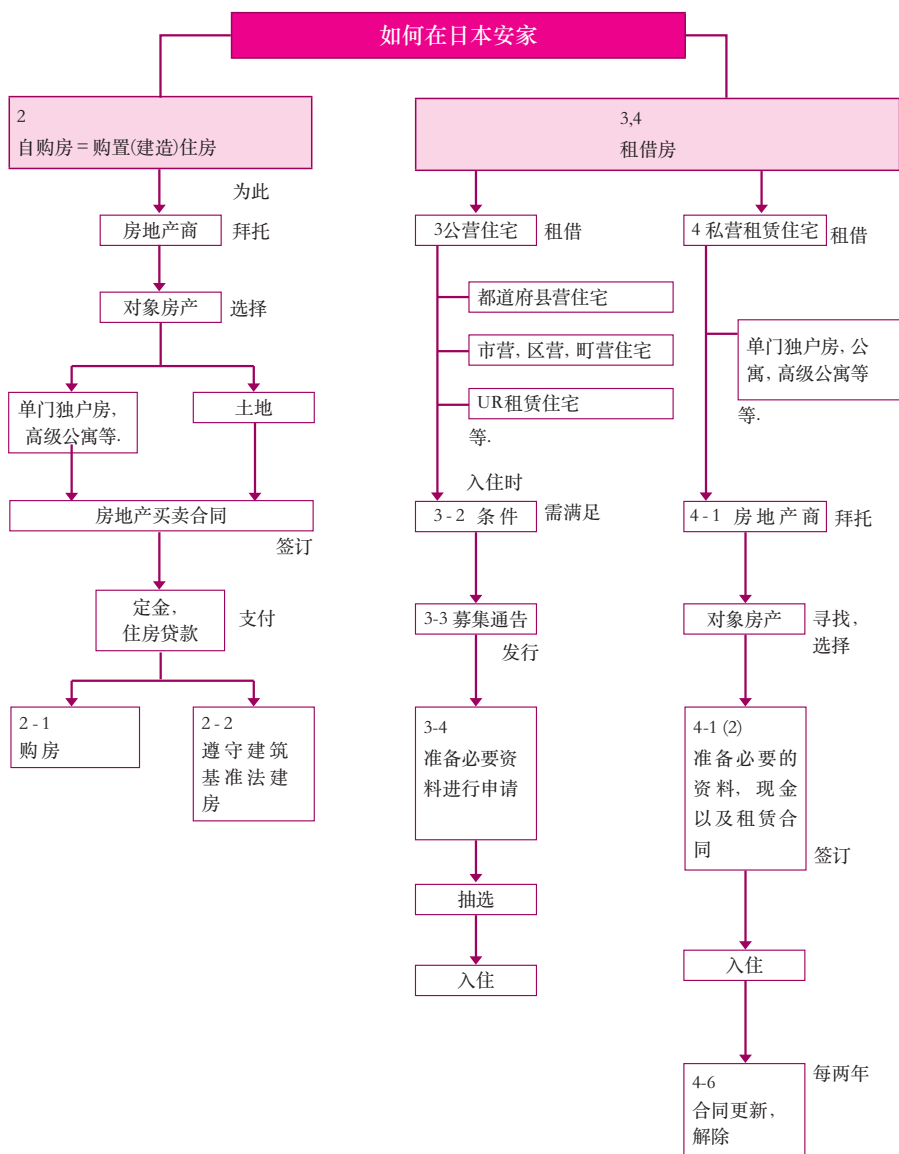




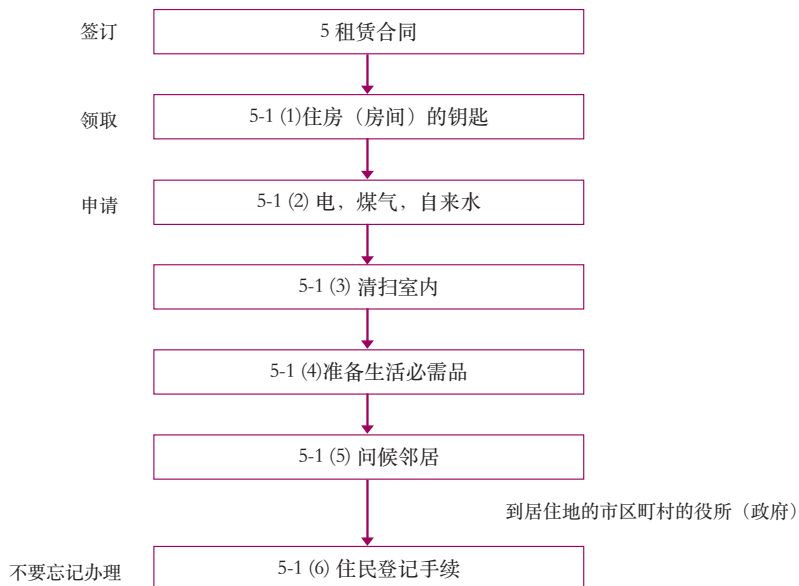


4

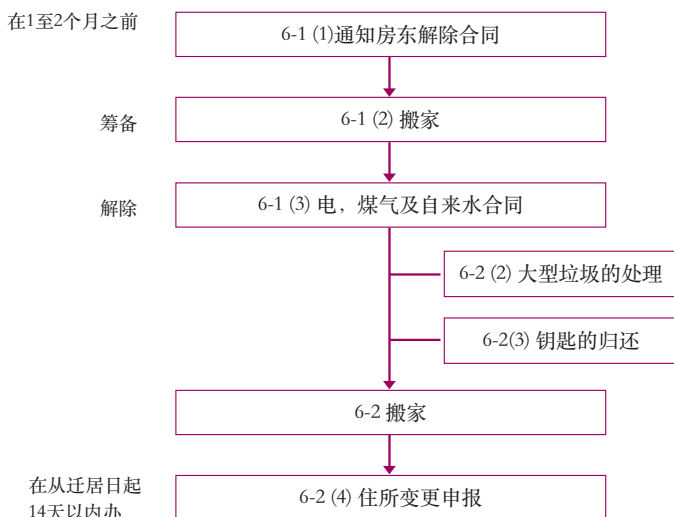
住居与搬家



初次入住租赁住宅时



迁居和退房时



住宅

日本的住宅大体可以分为“自购房”、“公营住宅”、“私营租赁住宅”3种类型。关于各种住宅的特点、日本住宅的面积和房间布局、地上楼层的表示方法、地区居民的居民组织等将在下面进行简要说明。

关于日本的住宅

自购房

在日本拥有所有权的住宅称为“自购房”。住宅形式有单门独户的楼房、高级公寓等。为了购置住宅，需要办理相关的各种各样的手续并签订合同。此外，对于建房的情形，有些注意事项等必须遵守。



公营住宅

公营住宅是指都道府县和市区町村等地方公共团体、公共企业等对住宅有困难者提供的低租金住宅，包括都道府县营住宅、区营住宅、市营住宅、町营住宅、UR租赁住宅等。这些住宅均对入住者条件做出了规定，只有满足条件者才能入住。

私营租赁住宅

私营租赁住宅是指以居住为目的、通过支付房租而租借的房屋、公寓以及高级公寓等。房租按月事先支付。除了房租，有时还需支付管理费、共同利益费等，一般与房租一起支付。



关于住宅的大小与房间布局

住宅的大小是指房间、卫生间、洗澡间、厨房等全部合起来以“专有面积○㎡”表示。房间的大小是以地板上铺设的榻榻米的数目表示，1块榻榻米称为1“畳”。基本上1畳的面积是180 cm × 90 cm，约1.6 ㎡。也有面积为170cm × 85 cm 即所谓的团地尺寸，以及176 cm × 88 cm 大小的种类等。

此外，房间数、房间的形式是以数字和拉丁字母表示，房间的类型以地板铺设榻榻米的“和室”和地板铺设木地板的“洋室”表示。

[例]

- 2 LDK 2间独立的房间和1间起居室与就餐厅及厨房的共用房间
- 2 房间数
- L 起居室 (Living)
- D 就餐厅 (Dining)
- LDK 起居室、就餐厅、厨房的共用房间
- DK 餐厅与厨房的共用房间

地上楼层与地下楼层的表示方法

在日本，地上1层以1F表示，地下1层以B1表示。

- 1 F ~ 5 F 表示从地上1层到5层
- 2 B 表示地下2层

自购房

自购房即不是租借而是自己购买或别人转让的住宅。在这里将对住宅的购置方法、建房时注意事项等进行简单介绍。

购置方法与手续

购置房产时一般是利用房地产商。选择对象房产、决定要购买时,请在听取有关重要事项说明后,签订“房地产买卖合同”并支付定金,而基本上都申请住宅贷款。之后,还需办理住宅房产所有权向购置方移交手续、固定资产税等纳税手续。基本上必要的各种手续将由房地产商为您代办(收费),因此只要与房地产商进行必要商谈即可。

建房时的注意事项

在日本建造房屋时,必须依据“建筑基准法”进行计划、施工。对建筑于一定位置土地上的建筑物大小及高度限制等有各种各样的规定,如未获得市区町村的役所(政府)的许可,就不可进行建造。详细情况请与市区町村役所(政府)的建筑指导课等的负责科员商谈。

公营住宅

地方公共团体及公共企业所提供的住宅称为公营住宅。下面就公营住房的种类、入住条件、募集通告、申请方法等进行介绍。

公营住宅的种类

公营住宅是指地方公共团体和公共企业所提供的住宅。地方公共团体提供的公营住宅有都道府县营住宅、市营住宅、区营住宅、町营住宅等,公共企业提供的公营住宅即通过 UR 都市机构的 UR 租赁住宅(都市机构住宅)等。

入住条件

所有的公营住宅都对是否为住民登记的对象、有无“外交”等的居留资格、收入基准等规定了详细的入住条件。详细情况请咨询管理公营住宅的自治体或 UR 都市机构(Urban Renaissance Agency)。

募集通告

公营住宅定期或随时募集住户。都道府县营住宅一般每年进行4次(1月、4月、7月及10月)募集,“募集向导”可从市区町村的役所(政府)获取。市营住宅、区营住宅和町营住宅等在市、区和町发行的宣传报纸上均刊登有募集通知。在市区町村的役所(政府)和车站等地方都放有宣传报纸。此外,也通过町内会或自治会进行散发。

可从 UR 租赁住宅在 UR 都市机构的官方网站查找您满意的对象住宅,并进行申请。

申请方法

在确认申请条件之后，准备好指定的入住申请书及所需附加资料，向负责募集的公营住宅入住科等提出申请。

但是，由于希望入住公营住宅者人数众多，因此通过抽签决定。

房租是根据收入而定，除房租外还需负担共同利益费、停车场费等。

所需资料	1 入住申请书 2 希望入住之全体人员的住民票等 3 所得证明书等 4 规定所需的其他资料
提交处	负责募集的公营住宅的入住科
提交时间	< 市、区、町营住宅及 UR 租赁住宅 > 定期或者随时募集 < 都道府县营住宅 > 一般每年 4 次 (1 月、4 月、7 月及 10 月)
备注	详细情况请咨询管理公营住宅的政府部门或 UR 都市机构 (Urban Renaissance Agency)。

私营租赁住宅

租借私营租赁住宅时，请到房地产商处。去之前请事先整理好自己所希望的住房条件。签订合同时，大多情况需要相当于 5 ~ 6 个月房租的现金。

住宅（房间）的寻找方法及租借方法

寻找方法

请到希望入住区域的房地产商（介绍单户住宅和公寓的房地产中间商）处，并说明自己希望的房租、房子大小、至车站的距离等条件，请帮助介绍对象房产。

首先您可以参阅房屋租赁商店张贴的房屋介绍，您也可以通过杂志或上网查询您所希望居住的地地区的租房行情。此外，留学生还可以通过利用大学的学生课找房子。

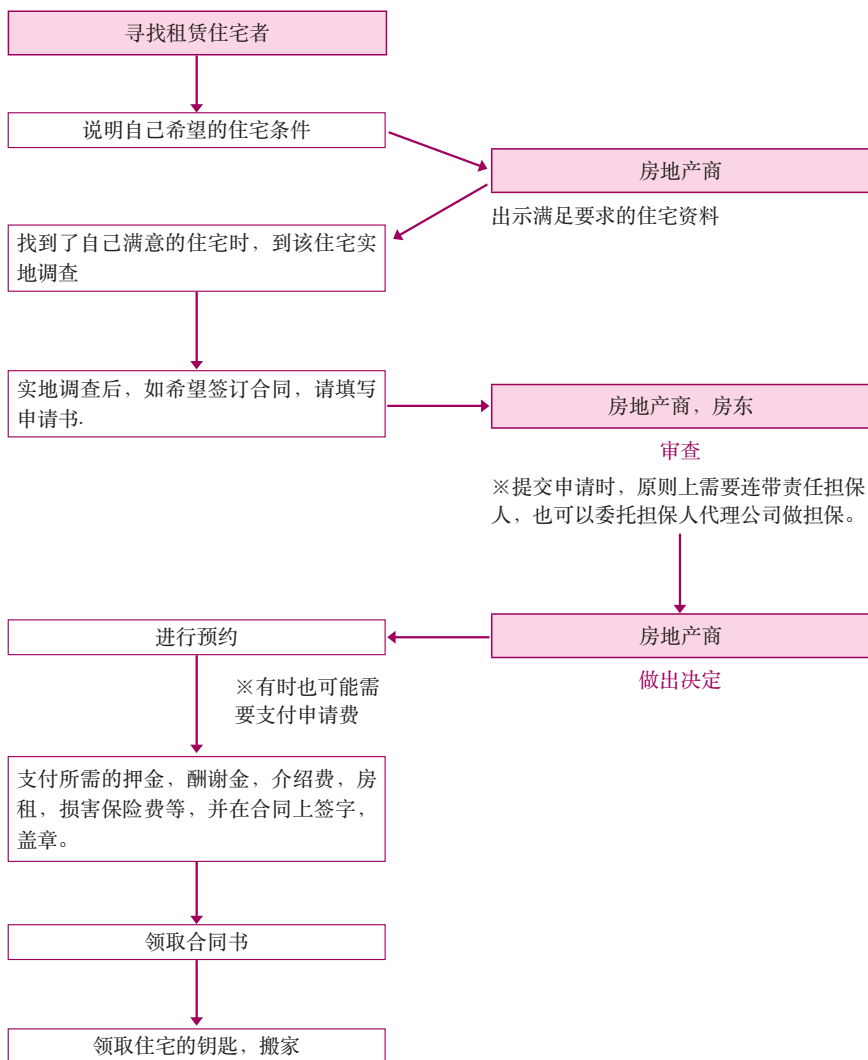
租借方法

租借单户住宅或公寓时需签订合同。该合同称为租赁合同，合同期限一般为 2 年。

签订合同时，需要下列的资料和现金。

签订合同时所需的资料	1 入住者全体人员的住民票等 2 所得证明书 3 连带责任人担保（请参照 7 住宅用语）或誓约书 4 印章登记证明书等
签订合同时所需的现金	1 签订合同当月与下个月的房租 2 押金 3 酬谢金 4 介绍费 合计以上各项，在租借住宅时，大约需要相当于 5 ~ 6 个月房租的现金。

租借住宅时的流程



租借住宅时的注意事项

■关于交通的便利性

从车站到对象房产的交通便利性是指按照1分钟行走80米的假定速度计算,以“距离附近车站○分钟”表示。1分钟步行80米即时速4.8公里,不包含坡路、台阶、等待红绿灯的时间等。在签订合同之前,请实际步行到车站进行确认。

■关于宠物

很多房东禁止饲养宠物,因此,希望饲养宠物时,请务必在签订合同前向房地产商进行确认,这点很重要。



关于宠物

■改造或装修

未经房东许可,是不可以进行改造或装修、以及与家属以外者一起居住。当然也不能把住宅的一部分或全部转租他人。



在房间里钉钉、涂漆

■房间里配备的物品、不配备的物品

日本的租赁住宅在房间里有预先配备的物品和需入住者自己配置的物品2种。房间里配备的物品、不配备的物品如下所示。

- 房间里预先配备物品…电、煤气、自来水等设备
- 房间里不配备的物品…照明器具,煤气灶,烤箱、家具等。
必要的物品请自行准备。



把房间转租他人

租借住宅时的几点建议

租借住宅时,也有可能遇到一些麻烦。针对这些可能发生的情况,提有几点建议以供参考。此外,有时也可以向地区的国家交流协会进行咨询。

- 不会讲日语时…请与会日语者一起去。即使只能说一些问候程度的日语,给对方的印象也完全不一样。
- 不租借给外国人时…通过熟人介绍或者通过互联网等寻找房地产商并进行问讯,这种方法也很有效。
- 找不到担保人时…可以委托保证人公司代理担保。请与房地产商量。

房地产商一般问题

房地产商问及的一般问题如下所示。

1. 姓名	()
2. 职业	()
3. 雇用形式	☐ 正式职员 ☐ 合同工 ☐ 钟点工 ☐ 学生 →奖学金有无… ☐ 有 ☐ 无
4. 预定的同住者	()人 ☐ 家属 ☐ 朋友 ☐ 其他人()
5. 固定收入 · 本人	☐ 工资 ☐ 汇款 ☐ 其他 月額 · 10 万日元以下 · 10 ~ 15 万日元 · 15 ~ 20 万日元 · 20 ~ 25 万日元 · 25 ~ 30 万日元 · 30 万日元以上
· 预定的同住者	☐ 工资 ☐ 汇款 ☐ 其他 月額 · 10 万日元以下 · 10 ~ 15 万日元 · 15 ~ 20 万日元 · 20 ~ 25 万日元 · 25 ~ 30 万日元 · 30 万日元以上
6. 日语能力 会话	☐ 会 ☐ 日对话程度 ☐ 不会
阅读	☐ 会 ☐ 简单的日语 ☐ 只能认平假名 ☐ 不会
7. 连带责任担保人	☐ 有 →与本人的关系() ☐ 无 →是否希望委托保证公司… ☐ 是 ☐ 否
8. 紧急联络处 (本人以外)	()
9. 身份证明书	☐ 护照 ☐ 在留卡 / 特别永住者证明书 ☐ 其他()
10. 回国的预定	☐ 有()年后 ☐ 无 ☐ 不知道
11. 寻找住宅的理由	()

候选住宅清单

请务必说清自己希望的住宅。

■希望住宅的具体内容

1. 房租	()日元~()日元
2. 希望地区	(1) 最近的车站 ()站 (2) 从车站到住宅的时间 (步行)分钟以内
3. 住宅的种类	☐ 一般公寓 ☐ 高级公寓 ☐ 单门独户房
4. 房间的楼层	()层
5. 房间布局	
(1) 房间数	()间
(2) 厨房	☐ K ☐ DK ☐ LDK ※K: 仅厨房 DK: 就餐厅, 厨房共用 LDK: 起居室、就餐厅、厨房共用
(3) 房间的类型	☐ 洋室 ☐ 和室 ☐ 二者均可
6. 卫生间	☐ 洋式 ☐ 日式 ☐ 带厕所 ☐ 公共厕所也可
7. 浴室	☐ 带浴室 ☐ 无浴室也可
8. 空调	☐ 有 ☐ 无
9. 房间的朝向	☐ 朝南 ☐ 东南朝向 ☐ 除朝北外 ☐ 均可
10. 周围环境	☐ 公共浴场 ☐ 投币式洗衣店 ☐ 学校 ☐ 其他:()
11. 希望入住的日期	()年()月起

合同内容的确认

通过合同书的合同清楚地规定了贷方与租方的权利和义务。合同书上的署名(填写自己的姓名)表明同意并严格遵守合同书上的协议。请务必认真阅读内容,并请对方详细说明。在确认合同书上所记载的内容后签名是很重要的。对于下列事项请务必进行确认。这些对防止纠纷极其重要。

房租、管理费	金额、支付日期、支付方法等
禁止事项	禁止饲养宠物等
可否进行合同更新	合同期限一般是2年。2年后再续签合同时,房东一般收取合同更新费。房地产商也收取更新手续费
中止合同的条件	合同到期时,有时可能出现不退还押金、要求支付高额的房间清扫费的情况。应事先决定中止合同时 需支付的费用后,再进行签订合同。

合同的更新与解除

日本的租赁住宅一般每2年更新一次租赁合同。该程序称为合同更新。希望更新合同时,请准备好合同更新费等向房地产商提出申请。

相反,在如回国、迁居等原因希望解除合同时,必须通知房地产商及房东。最迟也要在1~2月前进行通知。

合同更新(更新手续)

希望更新合同时,请向房地产商、房东提出申请。此时,经常有房租上涨、房东收取相当于1个月的新房租的合同更新费、房地产商收取的合同更新手续费。至于合同书,基本上是延续已经签订的合同。此外,在合同即将到期前,房地产商有时可能发来有无更新合同的联络函件,有时也可能房租不涨、也不收取更新费和更新手续费。

合同中止时(合同解除通知)

希望中止合同时,可以通过房地产商或直接向房东提出解除合同。尽早通知对方是极其重要的,依据合同内容,一般必须提前1~2月进行通知。

如在不提前告知房东的情况下进行搬家、在即将搬家之际才说明,有时可能出现不退还押金的情况。请务必尽早进行合同解除通知。

入住

决定要租的房子（房间）并签订租赁合同后，即可准备入住。打扫房间，办理电、煤气、自来水的使用申请以及住民登记・住址变更的申报等。同时必须准备好生活用品。此外，入住后问候邻居也是很重要的工作。

入住之际

■领取钥匙

签订房子（房间）的租赁合同后，即可领取房间钥匙。由于钥匙在中止合同时必须归还，因此请务必妥善保管。在遗失钥匙时，请务必及时联系房东及房地产商。此外，必须自己负担钥匙的更换费用。这在防止犯罪上也是很重要的事项。

■电、煤气及自来水的申请

如不能使用电、煤气及自来水，就不能进行正常生活。这些项目的使用申请应在入住前办理好。办理手续根据您居住的地区不同而有所不同，大致手续如下。

	电	煤气	自来水
何时	入住、领取钥匙后	入住、领取钥匙后	入住后、领取钥匙后
联系处	地区的电力公司	地区的煤气公司	市区町村役所(政府)的自来水科等
该做些什么	合上电源开关，即接通电源。请立即取下在电源开关上的申请用明信片，填上姓名、住所、开始使用日期等并投寄。无明信片时，可直接联系电力公司。	请电话联系煤气公司，并告知煤气公司于希望的开通日期光临。当日，煤气公司的职员将来帮助开通煤气。	请联系市区町村役所(政府)的自来水科等并告知于希望开通的日期光临。有时也可能由自己打开自来水表阀门，然后在已备好的明信片上填上姓名、住所、开始使用日期等并投寄。
备注		但是，因为租赁住宅基本上不配置煤气灶，在煤气公司来临之前请购置好煤气灶。	在实地调查及签订合同时，请向房地产商或房东问清“入住时是否可以立即使用”。

■室内清扫

入住时，房子（房间）基本上保持较好的卫生状态，为了居住更舒适，在入住前请进行室内清扫。为了进行扫除，入住前先办理电、煤气及自来水的申请也是很重要的。

■生活必需品的准备

在日本的租赁住宅一般不予配置家具、窗帘等。生活上必要的家具、家电、床、厨房用品、浴室及卫生间用品等必须自己准备。

■入住后的邻居问候

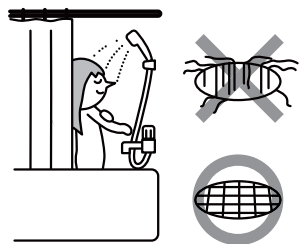
在日本，刚搬来者一般都去问候邻居。与附近的住户相互认识是很重要的，邻居可能会告诉您许多各种各样的地区信息。请对自己的姓名、从事的工作等进行简单的自我介绍。

■住民登记、住址变更的申报

请向居住地的市区町村的役所（政府）申报。详细情况请阅览 A 新居留管理制度・外国人住民基本台帐制度 4-1 居住地（住所）发生变化时。

■浴室与厕所的使用方法

如果洗澡间和厕所的排水管堵塞，水将溢出而很棘手。如果楼下的住户遭受了损害时，有时也可能必须赔偿（自己出钱修复至原样）。请注意不要让头发等流往排水口，不可往厕所里扔卫生纸（可溶于水）以外的物品（面巾纸（不溶于水）、生理卫生巾也不可）。

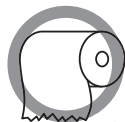


如果卫生间的排水堵塞，水将溢出。

不可往厕所里扔卫生纸以外的物品



●卫生纸



●面巾纸

■阳台的使用方法

阳台可作为紧急情况逃生使用，因此平常请勿堵塞逃出口，同时也不可在与邻居相连的避难用的隔墙前堆放物品。此外，在阳台晒被褥、种植盆栽等时，请务必注意不能让这些物品掉落下去。

注意不要掉落被褥或盆栽。

■共用部分的使用方法

在小区住宅里，自己房间以外的走廊、楼梯是大家共同使用的场所。在发生地震、火灾等紧急情况时，也作为避难通道使用，因此不可在这些地方放置私人物品。

■自行车停放处与停车场的使用方法

在小区住宅里，请将自行车整齐地停放在规定的自行车停放处。此外，汽车必须租借停车场。严禁在路上停车。租借停车场必须付费。每个月必须支付停车场使用费，即使有空位也不可在自己租借的停车位以外的停车位停放汽车。

迁居与退房

当搬迁到新住所、退房时，一旦决定搬家日期，即与房东联系。搬家一般是请搬家公司。请不要忘记办理电、煤气等合同的解除手续，并把退还的房间打扫干净，不可把垃圾残留在房间里。

搬家准备

与房东联系

请在合同上的记载的期限内（通常是提前 1 ~ 2 个月）与房东取得联系并解除合同。

搬家方法的探讨

在日本有很多搬家公司。除了搬家公司，货运公司也承办搬家业务。价格是根据物品的重量、搬家距离等服务内容等而有所变化，请尽量请多家搬家公司估价，并在确定价格和服务内容后选择合乎自己要求的搬家公司。也可互联网上对估价进行比较。此外，也可以租借朋友的汽车或汽车出租公司的汽车，自己进行搬家。

电、煤气及自来水合同的解除

请在搬家前的 2 ~ 3 天进行联系办理。

	电	煤气	自来水
何时	搬家前的 2 ~ 3 天	搬家前的 2 ~ 3 天	搬家前的 2 ~ 3 天
联系处	通知就近的电力公司营业所	通知就近的煤气公司营业所	通知居住地的市区町村役所（政府）的自来水科，或者就近的自来水事业所。
该做些什么	在搬家时，担当者将前来关闭电源，	在搬家时，担当者将前来关闭煤气，结算使用至当天的煤气费。	在搬家时，担当者将前来关闭自来水阀门，结算使用至当天的水费。

搬家

行李的搬出

把行李搬出房间，并把房间打扫干净。不可残留垃圾。

大型垃圾的处理

当扔弃家具等大型垃圾以及一次性大量垃圾时，请咨询市区町村役所（政府）负责部门的服务窗口，并确认处理方法。

钥匙的归还

归还钥匙并结算押金。在房东或房地产商在场的情况下，遵照合同书上的规定恢复原状。

※ 退还房间（搬家）时，有恢复房间原状的规定。不同的房地产商、合同，在恢复房间原状的要求内容也各不相同。由于这些可能成为纠纷的原因，因此在签订合同时，在确认恢复房间原状的责任范围同时，请务必在入住时对房间的状态（原状）进行确认。根据需要，对房间进行拍照可能较好。在退还房间时，将领回扣除了原状恢复所需费用后的押金。

住所变更

在迁居之际，必须办理以下手续。请勿忘记办理这些手续。

■ 迁居手续一览

	手续方法
居住地变更	搬迁日起 14 日之内，带上在留卡或特别永住者证明书等，到迁居后住所的市区町村役所（政府）办理新住所的登记手续。如新住所并非在现住所的市区町村管辖的范围内（迁出）时，自搬迁日的前 14 日至搬迁日之前，请先在现住所的市区町村役所（政府）申请发行“迁出证明书”，并自搬迁日后 14 日以内在新搬迁住所的市区町村役所（政府）提交变更申报时一起提交。
国民健康保险及国民养老金	如新住所并非在现住所的市区町村管辖的范围内（迁出）时，在现在住所的市区町村役所（政府）进行“资格丧失申报”，在新搬迁住所的市区町村役所（政府）进行“居住地变更”后，再重新办理国民健康保险、国民养老金的加入手续。
驾驶执照	请到居住地的警察署，提交住所变更申报。
电话	请与签约移动电话公司联系并办理住所变更手续。固定电话请拨打 NTT 公司的 116 服务号码，委托电话转移施工。
金融机构	进行住所变更联系。详细情况请咨询开户的金融机构。
邮政局	请向负责现住所地区的邮政局提出迁居申报。办理后，获得 1 年内邮件转送新居（新住所）服务。

※ 迁居是指从现住所迁往新住所，市区町村的役所（政府）称在同一市区町村内的搬迁为“转居”，在不同市区町村内的搬迁为“迁出”。

住宅用语说明

■不動産屋（房地产商）

进行房地产的买卖、私营租赁住宅介绍等经营活动的公司。

■家賃（房租）

租借住宅的一个月租金。每月在前一个月支付下一个月的房租。因此，在最初搬家后的月份要支付当月和下一个月的2个月房租。房租通常是通过银行账户进行自动支付。也有通过银行汇款支付。

■管理費・共益費（管理费、共同利益费）

住在同一处的所有住户共同使用的场所（楼梯及走廊等）、设备的管理、电费、清扫费等所需的费用。与房租不同而另外支付。

■敷金（押金）

租借者在签订合同时，预先支付给房东（住宅的所有者）款项。一般支付相当于房租的1~3个月金额。当租借者迁往新住所而不支付房租、或者住宅被损坏、弄脏等时，充当房租或者修理费用。如有余额将退还租借者。

■礼金（酬谢金）

签订合同时，作为谢礼支付的款项。通常为相当于房租的1~2个月金额，酬谢金将不退还。

■仲介手数料（介绍费）

作为手续费支付给介绍住宅房地产商的款项。通常为相当于一个月房租的金额。

■損害保険料（损害保险费）

签订合同时需要加入财产等损害保险时支付的款项。根据保险的种类，在发生火灾、漏水等损害时可获得补偿。

■契約更新料（合同更新费）

住宅租借期限通常为2年。2年后继续延长合同时，房东将会收取约相当于一个月房租的更新费。

■連帯保証人（连带责任担保人）

在住宅租借者在不能支付房租时，代替承担责任者。在很多情况下，在入住申请时都需要连带责任担保人。在没有担保人时，有时也可委托担保人代理公司。

■町内会・自治会（町内会、自治会）

在地区内居住的居民组织。传递役所（政府）等发布的通告传阅板以及进行防灾训练等，其他还组织祭典等居民之间的交流活动。也可能需要缴纳会费（每月 300 日元左右）。

■同居者（同住者）

对于租借的住宅中有共同居住者的情形，在签订合同时需向房东申报。如让未申报者共同居住，有时可能被勒令退房。



与邻居的相处

为了在日本社会顺利生活，也需要与邻居们友好交往相互帮助。

在大城市邻里之间交流可能比较少，但是越到乡下，与邻居的相处就越受到重视。甚至有时候你可能会觉得干涉太多，有点繁琐，但是日常的密切交往也是消除不必要的纠纷或误解的诀窍。

但是，以“地方的风俗习惯”为名而半强迫你进行违反个人意志的行为时，也需要毅然决然地拒绝。



自治会(町内会)

每个地区都有以加深居民和睦以及改善生活环境为目的的居民自治组织“自治会”(一般称作“町内会”)。自治会一方面负有“行政区”(市町村为了方便行政管理而进行的地区划分)的职能，同时市町村通过自治会面向居民举办宣传活动等的例子也不少见。自治会原则上是任意加入，但是为了促进日常生活顺利，加入会比较好。自治会除了举行加深和睦的活动等以外，也维持着町内的生活环境(清扫、垃圾回收点的管理、路灯及自治会持有的公民馆管理)，作为受益的居民，加入可能也是不得已。

每个自治会的会费不尽相同，一般每月几百日元左右。此外，也许会有收集捐款、轮流担任干部的情况。

儿童会

自治会下面设有以促进儿童间和睦相处、健康成长为目的“儿童会”。主要以小学生为对象，也举行暑假、寒假的活动及废品回收等。

红白喜事

人生重大仪式一般称为“婚丧嫁娶”，其中婚礼和葬礼，除了亲戚朋友外，有时邻居也会出席。

在婚礼等“喜事”上，有赠送现金作为祝贺的风俗习惯，一般是把现金放入红包(祝仪袋)当天带到现场。举办葬礼的形式中，最常见的是佛教式。去世当天或者第二天夜里会举行“灵前守夜”，近亲及邻居等会参加。之后，举行“葬礼”，如果出席，则将“奠仪”(敬献给去世的人的礼金)装在黑白色的“白事礼包(不祝仪袋)”带去现场。关于服装，“灵前守夜”时也可以穿日常服装，但是参加“葬礼”时，男性穿黑色或深蓝色的深色西装，并打上领带，袜子也要是黑色的。女性穿着黑色丧服，不要戴金银首饰。



除雪

公路的除雪工作原则上由道路管理者即国家、县、市町村负责，但是也有除雪车来的比较晚(或者不来)的地区，所以也许会有与邻居一起合作除雪的情况。

垃圾

一般家庭扔出的垃圾由市町村作为行政服务免费回收。企事业单位扔出的垃圾(废弃物)必须由企事业单位委托废弃物处理公司进行收费处理。

一般家庭的垃圾分为“可燃垃圾”、“不可燃垃圾”、“资源垃圾”、“粗大垃圾”等,请根据市町村指定的日期(星期)、时间并按照指定的方法扔出。

不同地区的垃圾回收点也各不相同,有小屋形状的,也有只是指定了室外某个场所。

另外,有些市町村还指定了放垃圾的袋子,请加以注意。

可燃垃圾

- 纸屑、衣服、木屑等

※ 有些市町村将“剩饭”作为“厨余垃圾”而不是“可燃垃圾”回收。

不可燃垃圾

- 金属类、塑料、陶器等

资源垃圾

- 玻璃瓶、空罐子、纸盒、塑料瓶、旧报纸、旧杂志等

粗大垃圾

- 无法放入垃圾袋的大型废品

※ 各个市町村的垃圾的分类及扔法也各不相同。详细内容请与房东、邻居或者自治会的干部、市町村担当课确认。

垃圾的分类

为了提高资源垃圾的回收效率，请分类后再扔出。关于分类方法及扔法，每个市町村各不相同，请按照当地规定扔出。

- 罐子、重复使用的瓶子、报纸、杂志、纸箱、纸盒等资源垃圾，请扔到各地的集体回收处。
- 关于市町村收集的资源垃圾，请在指定的垃圾回收日期扔到垃圾站。
- 废旧家电产品，换购时请让零售店以及量贩店等回收。
- 针等危险垃圾，请用厚纸包好并写上“危险”两字后再扔出。

罐子

罐子有铝罐和钢罐两种。

● **空罐的扔法**(⇒请扔至集体回收处等。)

- ① 倒出里面的东西。
- ② 用水稍微冲洗一下内部，并沥干水分。
(即使只有一点残余，也可能引起恶臭。)

玻璃瓶

● **玻璃瓶的扔法**(⇒重复使用的瓶子请扔至集体回收处等。)

- ① 取下瓶盖及瓶塞。
- ② 用水稍微冲洗一下内部，并沥干水分。
(即使只有一点残余，也可能引起恶臭。)

纸类

●**纸类的扔法**(⇒报纸、杂志类、纸箱请扔至集体回收处等。)

①按种类区分。

- 报纸(报纸、夹页广告等)
- 杂志类(周刊、单行本等)
- 纸箱(除去纸箱上的金属零件、胶带等，叠好后扔出)
- 其他纸类(纸盒、纸袋、包装纸等纸制容器包装)
(盒子类请按照大小叠好)

②用纸绳扎成十字形。

不要使用塑料绳捆扎或放入塑料袋内扔出。

* 请除去不得混入的东西。

即使是纸类也不得混入的东西

- 带有透明塑料窗的信封
- 热敏纸
- 乙烯基涂层纸
- 压敏纸
- 防水加工纸
- 油纸
- 照片
- 合成纸(塑料制纸等)
- 纸盒(单独回收)
- 涂蜡纸(纸杯及纸盘子等)

容易混入的纸以外的东西

- 胶带
- 金属类(夹子、订书针等)
- 玻璃纸
- 塑料类
- 铝箔纸
- 塑料袋

纸盒

●**纸盒的扔法**(⇒请扔至集体回收处等)

①清洗干净纸盒内部。

②剪开，除去塑料嘴等。

③放在阳光下照射以沥干水分，防止发霉。

* 内侧贴有铝箔的装酒瓶等的纸盒不能回收。

塑料类

●塑料瓶的扔法

- ①仅区分带有标记的瓶子。
(混入材质不同的瓶子时，在回收的过程中会产生问题。)
- ②取下盖子，倒出瓶子里的内容物。
- ③用水稍微冲洗一下瓶子内部，并沥干水分。

●塑料的扔法

- 塑料瓶以外的塑料容器包装是“塑料类”的分类对象。
虽然与塑料瓶同样要进行水洗等，但脏污严重的则进行焚烧处理。
- ①倒出内容物。
 - ②将内部清洗干净后扔出。

塑料容器包装的例子

- 塑料购物袋
- 塑料瓶的瓶盖
- 点心和面包袋
- 布丁及果冻的容器
- 杯拉面容器
- 鸡蛋盒
- 洗衣液容器
- 豆腐盒等
- 酱汁及蛋黄酱的容器

●托盘的扔法

- 根据容器包装回收法，只单独回收白色托盘。
- ①请只扔轻巧的可轻松掰开的白色托盘。
 - ②去除透明胶及保鲜膜等异物。
 - ③清洗后沥干。
(泡沫塑料托盘多是用于盛放生鲜食品。不清洗会产生恶臭。)

家电回收法的机制

根据家电回收法，使用过的电视机、电冰箱、洗衣机和烘干机、空调是回收对象。

回收再利用对象家电产品(回收再利用费用)

●消费者

将不用的家电产品交给零售店。消费者承担回收再利用费用以及搬运费用。

不同制造商所需具体金额也不相同，请加以确认。

●零售店

设定了废旧家电产品的搬运费用，下述情况下，回收废旧家电后交给家电制造商。

- 被要求回收自己曾销售的家电产品时
- 在销售家电产品时，被要求回收同种废旧家电产品时

●家电制造商

设置废旧家电产品的回收场所，同时将废旧家电产品进行回收再利用。

生活噪音, 宠物

生活噪音

日常生活中, 家中及周围发出的各种噪音称为“生活噪音”。尤其是普通公寓及高级公寓等住宅小区, 经常发生上下楼层响声相关的噪音纠纷。因为夜深时周围都很安静, 即使很小的声音也让人觉得很吵, 请加以注意。

宠物

低层公寓等禁止饲养宠物的情况比较多, 需要事先确认。

不得放养狗。包括散步在内, 需要一直套着牵引绳, 狗主人有责任处理散步途中产生的粪便。在与邻居家距离较近的日本, 会发生因为狗的叫声太大等因宠物引起的纠纷, 请充分注意。

出生 91 天以上的狗需要在政府机关办理注册手续, 并且 1 年接种 1 次疫苗。



金融机构的种类

日本有以下金融机构。

- **中央银行** 日本银行
- **政府金融机构** 住宅金融公库等
- **民营金融机构** 银行(普通银行、信托银行、长期信用银行、邮储银行等)
地方金融机构(信用金库、信用合作社等)
其他(农业协同合作社(JA)、保险公司、证券公司等)

在金融机构开立账户的目的可能不尽相同,如果只是开立活期存款账户,使用银行汇款及银行转账功能,选择县内各地都有分行的普通银行、信用金库、邮储银行、JA 等会比较方便。

■活期存款账户

存款账户主要有“普通活期存款账户”和“支票活期存款账户”,支票活期存款是支票和票据支付,因此主要是企业利用,所以一般是开立普通活期存款账户。

普通活期存款账户只存 1 日元也可以开立。请携带以下资料等到金融机构的柜台办理手续。

携带的资料等

- 可证明身份的证件(在留卡等)
- 印章

■存折

向金融机构存入现金时,银行会发行存折。存折上记载有存款金额、提款金额、利息等。在开立存款账户时,只要有登录的印章和存折,不管是谁都可以取钱,所以请谨慎保管。

■借记卡

在银行开立存款账户时，请同时申请借记卡。银行柜台通常除星期六、星期日和节假日以外，只在早上9点至下午3点之间营业。使用借记卡可取款的取款机(ATM)或者现金自动支付机(CD)，在工作日晚上9点前，星期六、星期日下午5点前都可以取款，也可以利用其它银行的存款自动提款机等，也可以提款。(不同银行的营业时间也不相同。其它银行间的提款及规定时间外的提款会产生手续费)另外，借记卡是使用“密码”以替代印章。

■银行汇款

向他人汇款的方法有现金挂号信、邮政汇票、邮寄支票等，但是向他人银行账户汇款的方式很便利。银行汇款是通过在汇款单上填写对方的银行名称、分行名称、存款类别、银行账号、姓名、汇款金额和自己的地址、电话号码等后，与现金一起提交至银行柜台。另外，在取款机(ATM)上也可以进行汇款。根据对方金融机构及汇款金额的不同会产生汇款手续费。(即使是同一家银行，也会产生手续费)

■银行转账

银行转账是指本人与签约人直接通过金融机构定期转移银行账户内的现金存款。例如，向金融机构申请电费的银行转账，就可以定期向电力公司的银行账户转入电费的请款金额，可省去逐一支付的麻烦。除了电费、煤气费、水费、电话费等公共缴费以外，也被广泛用于各种定期支付。

为了进行公共费用的银行转账，需要在金融机构的“银行转账委托书”上填写必要事项，按上银行账户用的印章并提交。(有些便利店等设施也放有银行转账委托书。该种情况下，可以填写后邮寄到金融机构进行申请。)

■货币兑换

可以在有“外汇经营店”“外币兑换经营店”标识的银行兑换外币。

但兑换需要手续费。

■贷款

金融机构除了有各种手续费收入以外，还会利用存款资金发放贷款从而获取利息收入，贷款是金融机构的主要业务。

在日本，从金融机构申请贷款时，没有担保(无法偿还贷款时可扣押的物件)的情况下，会根据申请人的偿还能力审批贷款。因此，学生及没有固定工作的人等很难贷到款。

外国人如果没有不动产等的担保或固定工作，和日本人相比贷款可能比较难。具体需要根据个别情况进行判断，需要向金融机构咨询。

■信用卡

信用卡由银行卡公司及信贷公司等发行，向银行等也可以申请加入。虽然与欧美相比，不能使用信用卡的店铺还有很多，但是在日本，信用卡也在逐步普及。

外国人申请信用卡时，虽然没有上述的贷款严格，但还是会考虑申请人的偿还能力及信用度。推荐外国人在自己本国申请国际上通用的信用卡(VISA 卡、万事达卡等。)



国内邮件

邮寄物主要有“明信片”、“信函”和“邮政包裹”，邮费根据邮寄物的种类及大小重量等不同。

此外，还有可附加的特殊处理服务。例如，邮寄现金或贵重物品时附加的“挂号”服务。追加该服务后，万一发生丢失等事故时，所受损害会得到赔偿。（普通邮寄不会赔偿损害。）此外也有其他各种特殊处理服务，如：想要尽快将邮寄物送到对方手里时可选择“速达”，证明邮寄物的内容的“内容证明”，证明已经送达邮寄物的“送达证明”，在指定日期送达的“送达日指定”等。（附加特殊处理服务时，除了邮费外还会加收特殊处理费。）

■国内邮寄费用（基本费用）

种类	内容		重量	费用
信函	定型邮寄物		25g以内	82日元
			50g以内	92日元
	定型外邮寄物	规格内 长边34cm以内、 短边25cm以内、 厚度3cm以内 及重量1kg以内	50g以内	120日元
			100g以内	140日元
			150g以内	205日元
			250g以内	250日元
			500g以内	380日元
			1kg以内	570日元
			规格外	50g以内
		100g以内		220日元
		150g以内		290日元
		250g以内		340日元
		500g以内		500日元
		1kg以内		700日元
		2kg以内		1,020日元
		4kg以内		1,330日元
		迷你信函		25g以内
LETTERPACK LIGHT 厚度3cm以内		4kg以内	360日元	
LETTERPACK PLUS 厚度3cm以内		4kg以内	510日元	
明信片	普通明信片			62日元
	往返明信片			124日元

快递服务

快递公司通过便利店等在日本国内配送包裹(30kg 以内)的服务即“快递服务”(宅急便)。不同快递公司，其重量分类及大小的处理也不相同，费用也各不相同。有指定送达日期、指定送达时间段、配送生鲜食物等各种服务。

可以邮寄到机场柜台的“机场宅急便”服务就经常在出国时被利用。



县内的交通

县内的主要公共交通有铁路和公交，但车次及路线有限，并不如首都圈方便。此外，各市町村有出租车公司及其事务所，也有航空飞机从花卷机场起飞降落。

■铁路

县内铁路有 **JR**(东日本旅客铁路)、**IGR 岩手银河铁路**和**三陆铁路**。

- **JR** 运行着东北新干线(东京～盛冈～新青森)、秋田新干线(东京～盛冈～秋田)、东北本线(盛冈～上野)、田泽湖线(盛冈～大曲)、北上线(北上～横手)、山田线(盛冈～宫古)、釜石线(釜石～远野～花卷)、大船渡线(盛～陆前高田～一关)、八户线(久慈～八户)及花轮线(好摩～大馆)等线路。
- **IGR 岩手银河铁路**运行着岩手银河铁路线(盛冈～目时)，
- **三陆铁路**运行着里阿斯线(久慈～盛)。

在局部区间，还有 BRT(快速公交系统)运行。

■公交车

县内的定期公交在盛冈以南的地区由岩手县交通、盛冈以北的地区由岩手县北公交运行。其他部分地区由 JR 公交及南部公交等运行。

■出租车

在市内，出租车一般停在站前等客，但也有必须打电话才能叫到车的地方。

■飞机

县内唯一的机场即岩手花卷机场位于花卷市，从盛冈站、花卷站、北上站等有公交车定期运行。从盛冈站出发大约需要 45 分钟。

■公交车的乘坐方法

- 在公交站等待公交车，公交车的到达时间记载在公交站指示板上。



- 在岩手县内，乘坐公交车时有从中间车门和前门上车的情况。上车时请不要忘记领取整理券。

(关于公交卡请参考下一页)



- 快要到达想要下车的站点时，请按下车按钮。



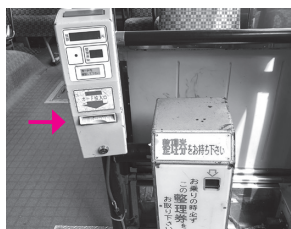
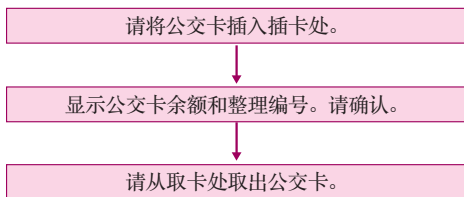
- 出口上方会显示整理券编号和所需车费，请将现金与整理券一起投入。(也可以兑换零钱。)



■公交卡

也有公交车可以使用公交卡(预付卡的一种)支付车费(乘坐岩手县交通和岩手县北公交需要各自的公交卡。)

使用公交卡不仅不需要准备零钱，车费还会打折。公交问询站等处销售公交卡，也可以从公交的驾驶员处购买。



※ 卡内余额不足时，公交卡将停留在刷卡机内。可以通过新的公交卡或者现金支付不足部分，请向乘务员提出。

■出租车

想要打车时，向空的出租车招手即可就地乘车。另外，也可以打电话给出租车公司，让出租车到家里等地来接。(到家里等地的路程免费)

出租车有4人座的小型车和4人座的中型、9人座的大型出租车等，在车顶有“TAXI”的标识。

到达目的地后，驾驶席旁边的计程表上显示费用，支付后下车。虽然不需要支付小费，但是深夜和凌晨可能会加收费用。

交通规则

交通规则主要是为了确保交通安全和交通顺畅而制定的规则。

除了高速公路以外，日本道路的特征就是所有的道路都位于人们居住生活的场所内，因此整个道路环境是相互交错的路很多，汽车和行人、自行车混在一起通行。

因此，为了维持交通秩序和防止交通事故，会严加取缔违反交通规则的行为。

根据违反的种类，会有罚款、吊销驾驶证等的罚则，超速、酒驾等恶劣、危险的行为，会被处以更加严厉的罚则。

不仅是汽车的驾驶者，行人和骑自行车的人也应遵守交通规则，遵守交通信号灯和道路标志，不给人添麻烦是交通规则的基本。

■驾驶证

在日本国内驾车需要驾驶证。无驾驶证驾车的情况下，会被视作无证驾驶受到严厉处罚。

外国人在日本国内驾车，必须满足以下条件。

- (1) 持有与日本签订相互协定的国家或地区的驾驶证及翻译证明。(爱沙尼亚、瑞士、德国、法国、比利时、摩纳哥和台湾)
- (2) 持有日内瓦条约加盟国发行的国际驾驶证。(入境日或者发行日起1年内有效。但是，国际驾驶证到期后申请再发行的情况下，再发行后需要在发行国居住3个月以上。)
- (3) 将外国的驾驶证变更为日本驾驶证。
- (4) 考取日本驾驶证。

■ 驾驶证的变更手续

将本国的驾驶证变更为日本驾驶证，需要向驾驶证中心等申请。

〔申请条件〕

- (1) 仅限第一种驾驶证。
- (2) 在岩手县内有住所。
- (3) 在外国考取的驾驶证仍在有效期内。
- (4) 能够证明在考取驾驶证的国家，考取后居住 3 个月以上。

〔必要资料〕

- (1) 在外国考取的驾驶证
- (2) 护照、在留卡
- (3) 能够确认停留天数的证明文件
- (4) 住民票
- (5) 外国驾驶证的日文翻译件(仅限大使馆、领事馆或日本汽车联盟(JAF)发行的翻译件。)
- (6) 照片 1 张(需要确认知识和技能时请准备 2 张)长 3cm×2.4cm(无背景、脱帽、正面、胸部以上、6 个月以内拍摄)

〔申请窗口〕

● 星期一至星期五(需要预约 节假日、调休日、年末年初不受理。)

○ 不需要确认知识和技能的申请。

盛冈驾驶证中心 ☎ 019-606-1251

县南驾驶证中心 ☎ 0197-44-3511

沿岸驾驶证中心 ☎ 0193-23-1515

县北驾驶证中心 ☎ 0194-52-0613

○ 自動車運転免許試験場 ☎ 019-683-1251

・ 确认资料 下午 3 点

・ 确认知识和技能 上午 9 点

〔费用〕

驾驶证种类不同费用也不相同，请咨询各驾驶证中心等。

■日本驾驶证的考取

考取日本驾驶证有两种方法，一是去日本的汽车驾校学习，并通过驾驶证中心等笔试，二是自学交通规则等，通过驾驶证考试点的笔试和驾驶技术的技能考试。

去汽车驾校学习既费时间，费用负担也比较重(需要30小时以上，30万日元以上)，但即使是日本人，自学通过考试也是非常难。

但如果没有外国驾驶证，只能通过上述方法获取驾驶证，能够听懂日语是一大前提条件。

■交通事故

发生交通事故时，请按以下步骤处理。

- 将车停在路边、空地等安全的地方。

- 有人受伤时，进行应急救护。

- 联系救护车(☎119)、警察(☎110)

(引起事故后不救护受伤人员而逃走会被控“肇事逃逸”罪，不向警察申报会被控“不申报”罪。)

- 听从警察的指示。

尤其是发生死亡事故时，会被控日本的业务过失致死伤罪，受到严厉处罚，除了吊销或停用驾驶证的处分外，还会根据责任能力处以刑法上的处罚。并且还必须赔偿给对方造成的经济损失和精神损失。并且，交通事故导致的损害赔偿等事后处理也很繁杂，涉及很多方面。万一自己成为交通事故的受害者或加害者，请致电岩手县民生活中心(☎019-624-2244)，为您提供咨询帮助。

■汽车损害赔偿责任保险

拥有摩托车及汽车时，必须加入汽车损害赔偿责任保险(强制保险)。法律规定汽车及 251cc 以上的摩托车有义务接受持续检查(车检)，办理车检手续时，会自动办理加入保险的手续。

但是，250cc 以下的摩托车的情况下，不负有车检义务，因此有时会发生保险到期的情况。尤其是购买 250cc 以下的二手摩托车时，请仔细确认保险的有效期。销售店可以办理加入保险的手续。

汽车损害赔偿责任保险的保障额度

- 意外伤害保障 120 万日元
- 意外后遗症伤害保障 75 万日元 ~4,000 万日元
- 意外死亡保障 3,000 万日元

■任意保险

因为汽车损害赔偿责任保险的保障额度有限，不足以负担支付给对方的损害赔偿费用的情况多发，并且，自己本人的治疗费用等不构成保险对象。因此推荐拥有摩托车及汽车的人，也一定要加入任意保险。



警察

发生交通事故及被盗等时，直接拨打“110”，可联系到警察。

- 警察接听电话后，请不要慌张，告知对方“发生了交通事故”、“被偷窃了”、“请帮帮我”等。（请设想警察听不懂外语，所以请学会简单的日语。）
- 正确传达发生事故的地方。（不知道地址时，可以告知标志性建筑。）

■ 消防车和救护车

发现火灾以及患急病、受伤时，都是拨打“119”（无局号）联系消防署。（消防车和救护车都配备在消防署。）

- 消防署接听电话后，请不要慌张，告知对方“发生了火灾”、“发生了事故”、“得了疾病”等。
- 请正确传达希望消防车或救护车前来的场所。如果能告知对方具体情况及内容更好。

利用公用电话拨打紧急电话

公用电话也可以免费拨打 110、119。

利用手机拨打紧急电话

手机也可以免费拨打 110、119。



11 地震／海啸

地震

日本是一个地震多发的国家，岩手县是其中地震尤其多的一个地区。

日常请做好心理准备和对策。

●请事先考虑应对地震的对策。

- 请事先确认自己所住地区的避难场所。
- 请事先决定好避难时家人的集合场所。
- 请事先确认家中是否有容易倒下的家具。家周围是否有危险场所。
- 家人及邻居中是否有老年人或身体有残疾的人。发生地震时请相互帮助。

●请事先决定好紧急时携带的物品及保管场所。

（应急食品、救急医疗用品、衣服、存折、印章、收音机、手电筒等）

●发生地震时不要慌张冷静行动很重要。

- 为了防止被困在建筑内部，请打开窗户以及门。
- 即使是大地震，摇晃时间也只是1分钟左右。等摇晃结束后也来得及。请不要慌张，先钻到桌子下面等待摇晃结束。
- 请关火。

●避难时请冷静行动。

- 不要开车，请步行前往避难场所。将行李缩减到最少程度，轻装上阵。
- 请充分注意坠落及倒塌的物体等。
- 请利用电视、收音机等获取准确的信息，不要受谣传及传闻愚弄。

■气象厅震度等级

地震震级	地震状况
1	室内稍有晃动。
2	电灯等吊着的物体稍有晃动。
3	室内的人几乎都感到了晃动。
4	电灯等吊着的物体大幅晃动，底部不稳的物品可能会倾倒。
5 弱	柜子里的餐具类及书本可能会掉落。未固定的家具可能会发生移位，底部不稳的物品可能会倾倒。
5 强	未固定的家具可能会倾倒，未加固的围墙可能会倒塌。
6 弱	墙壁上的瓷砖、玻璃窗可能会受损、掉落，耐震性低的木结构建筑可能会倾斜。
6 强	可能会发生较大的地裂，大规模的地崩及山林倒塌。
7	即使是耐震性高的木结构建筑，也有可能倾斜，会有较多的耐震性低的钢筋混凝土结构建筑倒塌。

海啸

在沿海地区，发生地震时需要时刻注意海啸。岩手县的沿海地区伸入太平洋内，并且有很多入海口及海湾，所以较高的海啸涌过来时，会带来超乎想象的灾害。县内过去也多次发生因海啸引起的灾害。

- 在沿海的低洼区感觉到地震时，请立即到高处避难。只是一分钟之差就有可能生死两隔。尤其是海啸涌来时，不要驾驶汽车等避难，请立即徒步避难。
- 海啸会反复发生。在警报及注意警报解除前，绝对不要靠近海边。
- 请事先决定好发生地震时前往避难场所的路线等，以备万一。
- 请通过收音机、电视等掌握正确消息并应对。



警察

在日本，各地区设立“派出所”，值班警察进行巡查等，努力维持当地治安。

因为最近外国人参与的案件也在增加，所以警察可能会对外国人进行职务询问。被询问时，为了防止给双方留下不愉快的印象，应积极配合，出示在留卡，并诚实回答提问等。

日常应与警察保持合作关系，当外国人自己被卷入案件或纠纷时，请找警察帮忙。

逮捕和拘留

作为刑事案件的嫌疑人被警察逮捕的情况下，会被按照以下手续拘留。

- ①警察在调查嫌疑人后，自拘留开始起 48 小时以内释放或者移送至检察官。
- ②检察官在 24 小时内审问嫌疑人，自拘留开始起 72 小时以内释放或请求法官判处拘留。
- ③法官收到检察官的拘留请求时会迅速发给拘留证。但是，被认为无需拘留时，应下令立即释放嫌疑人。拘留期间为 10 天以内。（刑事诉讼法第 208 条第 1 款）
但认为不得已的情况下，根据检察官的请求，在不超过 10 天的范围内可延长拘留期间。
- ④检察官根据最长 20 天以内（自逮捕起 23 天以内）的搜索结果判断是释放还是起诉嫌疑人。被拘留后直接被起诉的情况下，嫌疑人作为被告会继续被拘留，但是可申请取保候审。
- ⑤在逮捕之际，警察必须告知嫌疑人有权聘请律师。“值班律师制度”是采取值班制、24 小时受理的制度，可以通过警察、检察官、法官向律师会委托律师。第一次见面免费，之后继续委托辩护时则开始收费。对于支付律师费用存在经济困难的人，有援助律师费用的“法律扶助协会刑事嫌疑人辩护援助事业”。



13 消费者纠纷

消费者纠纷

利用花言巧语欺骗消费者高价购买冒牌商品的欺骗性交易行为层出不穷。也有很多日本人受骗。语言及风俗习惯方面还未完全适应的外国人尤其需要注意。对方亲切的态度究竟是出于善意还是恶意，一定要辨别清楚，“好事背后多蹊跷。”请务必注意。

另外，也有因沟通不顺畅引起的纠纷。请谨记商业习惯与本国不尽相同，一定要与对方充分确认买卖条件等。

为了防止此类消费者纠纷发生，也制定了在一定期间内，消费者可以单方面解除买卖合同的“冷静期制度”。

- 关于消费者纠纷及冷静期制度的咨询，请联系岩手县民生活中心(☎ 019-624-2209)或市里等地区的消费生活中心。

Dành cho người
nước ngoài

Sổ tay thông tin cuộc sống Iwate





1 Tư cách lưu trú

Thời hạn lưu trú

Thời hạn lưu trú có 11 loại như 15 ngày, 30 ngày, 90 ngày, 3 tháng, 6 tháng, 1 năm, 1 năm 3 tháng, 2 năm, 2 năm 3 tháng, 3 năm và 5 năm, và loại cho phép ở lại từng tháng cho việc chuẩn bị về nước. Nếu lưu trú qua thời hạn này thì phải xin phép lại.

Thay đổi thời hạn lưu trú

Khi muốn gia hạn lưu trú để tiếp tục hoạt động như giấy phép quy định, phải làm thủ tục thay đổi thời hạn lưu trú. Bạn có thể nộp đơn trước khi hết hạn lưu trú (trường hợp người có thời hạn lưu trú được trên 6 tháng thì nộp đơn khoảng 3 tháng trước khi hết hạn lưu trú).

Nếu kết quả xin thay đổi thời hạn lưu trú vẫn chưa có trong thời gian còn tư cách lưu trú, thì ngay cả sau khi đã hết hạn lưu trú vẫn có thể ở lại với cùng tư cách lưu trú tối đa là 2 tháng.(Nếu có kết quả trong thời gian 2 tháng đó, ngày đó được coi là ngày hết thời hạn lưu trú). Những giấy tờ cần thiết để xin thay đổi thời hạn lưu trú khác nhau tùy vào tư cách và thời hạn lưu trú nên bạn có thể đến hỏi sở quản lý nhập cảnh địa phương nơi cư ngụ.

Những giấy tờ cần thiết	1 Đơn xin thay đổi thời hạn lưu trú 2 Hình 3 Các giấy tờ ứng với nội dung hoạt động ở Nhật 4 Hộ chiếu hoặc giấy chứng minh tư cách lưu trú 5 Thẻ lưu trú 6 Giấy phép hoạt động ngoài tư cách lưu trú (Trong trường hợp được cấp phép hoạt động ngoài tư cách) 7 Giấy bảo lãnh nhân thân ...
Nơi nhận giấy tờ/ hỏi đáp	Nơi nhận giấy tờ: Cục quản lý nhập cảnh địa phương của nơi ở Nơi hỏi đáp: Cục quản lý nhập cảnh địa phương của nơi ở hay Trung tâm thông tin tổng hợp về việc lưu trú người nước ngoài
Từ khi nào đến khi nào	Bạn có thể nộp đơn trước khi hết hạn lưu trú (trường hợp người có thời hạn lưu trú được trên 6 tháng thì nộp đơn khoảng 3 tháng trước khi hết hạn lưu trú)
Lệ phí	※ Khi được phép, phải đóng 4.000 yên (bằng tem Shunyuinshi).

Ở lại bất hợp pháp

Nếu ở lại quá hạn ít nhất 1 ngày thì bị xem là “Ở lại bất hợp pháp (Over-stay)”. Theo nguyên tắc, người đó sẽ không được quay lại Nhật trong một thời gian nhất định. Khi người đã ở lại bất hợp pháp về nước thì phải làm thủ tục như sau.

Về nước như bình thường	Trong trường hợp có lý do bất đắc dĩ như bị ốm đau hay chỉ ở lại thêm một thời gian rất ngắn thì nên xin gia hạn lưu trú. Nếu đơn xin được chấp nhận thì người đó có thể được về nước như bình thường nên hãy nộp đơn cho sở quản lý nhập cảnh địa phương gần nơi ở càng sớm.
Về nước theo lệnh xuất cảnh	Chế độ ra lệnh xuất cảnh là chế độ đặc biệt áp dụng vào những người ở lại Nhật bất hợp pháp mà có đầy đủ điều kiện nhất định trong người trái Luật quản lý nhập cảnh. Họ không bị bắt giữ và được xuất cảnh bằng cách thủ tục đơn giản. Đối tượng bị ra lệnh là những người ở lại Nhật bất hợp pháp thích hợp với tất cả những điều sau. (1) Đã tự lên sở quản lý nhập cảnh nhanh chóng với ý định xuất cảnh từ nước Nhật. (2) Không có lý do phải trục xuất ngoài vụ quá thời hạn được phép ở lại (3) Sau khi vào Nhật, chưa bị tù vì những tội như ăn cắp. (4) Chưa bao giờ bị trục xuất hay xuất cảnh từ Nhật theo lệnh xuất cảnh. (5) Được xem là chắc chắn xuất cảnh từ Nhật một cách nhanh chóng.
Trục xuất (đưa về một cách bắt buộc)	Nếu bị bắt, người đó sẽ bị giữ tại những nơi như nhà giam. Sau đó, người đó sẽ được đưa đến sở quản lý nhập cảnh. Ở đó người đó có thể bị thủ tục trục xuất hoặc bị khởi tố và xét xử trên toà án. Những người xuất cảnh do biện pháp trục xuất sẽ không được qua Nhật lại trong vòng 5 năm. Nếu người đó hỏi trước cũng bị trục xuất thì không được qua lại trong vòng 10 năm hoặc sẽ không bao giờ vào Nhật được nữa. * Giấy phép lưu trú đặc biệt: Dù được xem là đối tượng nên bị trục xuất nhưng người đó vẫn được cấp phép ở lại do Bộ trưởng Bộ tư pháp xem xét tình trạng của người đó. Đó là giấy phép lưu trú đặc biệt do Bộ trưởng Bộ tư pháp quyết định. Chỉ có trường hợp có phép này, người đó hưởng được tư cách lưu trú để tiếp tục sinh sống tại Nhật.

Thay đổi tư cách lưu trú

Những người có tư cách lưu trú như “Vợ/chồng con của người Nhật”, “Người định trú”, “Người vĩnh trú” và “Vợ/chồng con của những người vĩnh trú” không bị hạn chế về hoạt động nên không cần thay đổi tư cách lưu trú theo công việc. Tuy nhiên, những người có tư cách lưu trú khác mà chuyển nơi làm và tìm việc làm thì phải thay đổi tư cách lưu trú phù hợp với hoạt động đó và nộp đơn xin thay đổi tư cách lưu trú lên sở quản lý nhập cảnh địa phương. Những giấy tờ cần thiết khác nhau tùy vào tư cách và thời hạn lưu trú nên bạn có thể hỏi chi tiết tại sở quản lý nhập cảnh địa phương gần nơi ở.

Những giấy tờ cần thiết	1 Đơn xin thay đổi tư cách lưu trú 2 Hình 3 Các giấy tờ ứng với nội dung hoạt động ở Nhật 4 Hộ chiếu hoặc giấy chứng minh tư cách lưu trú 5 Thẻ lưu trú 6 Giấy phép hoạt động ngoài tư cách lưu trú (Trong trường hợp được cấp phép hoạt động ngoài tư cách) 7 Giấy bảo lãnh nhân thân ...
Nơi nhận giấy tờ/Hỏi đáp	Nơi nhận giấy tờ: Cục quản lý nhập cảnh địa phương của nơi ở Nơi hỏi đáp: Cục quản lý nhập cảnh địa phương của nơi ở hay Trung tâm thông tin tổng hợp về việc lưu trú người nước ngoài
Từ khi nào đến khi nào	Từ khi phát sinh lý do cần thay đổi tư cách lưu trú cho đến khi hết hạn lưu trú.
Lệ phí	※ Khi được phép, phải đóng 4.000 yen (bằng tem Shunyuinshi).

Xin giấy phép vĩnh trú

Người có nguyện vọng vĩnh trú cần phải xin giấy phép vĩnh trú.

Người đó xin giấy phép vĩnh trú ở sở quản lý nhập cảnh địa phương. Sau khi nhận được giấy phép vĩnh trú, người đó có được tư cách lưu trú là “người vĩnh trú” và sống ở Nhật luôn với quốc tịch nước ngoài. Người vĩnh trú không cần làm thủ tục gia hạn hay thay đổi tư cách lưu trú nhưng khi có dịp xuất cảnh từ Nhật như đi du lịch thì phải xin giấy phép tái nhập cảnh (tuy nhiên trong trường hợp có hộ chiếu và thẻ lưu trú còn hiệu lực, và tái nhập cảnh trong vòng 1 năm kể từ ngày xuất cảnh thì không cần lấy giấy phép tái nhập cảnh). Bạn phải có đủ một số điều kiện nhất định để có giấy phép vĩnh trú, nên có thể đến hỏi chi tiết tại sở quản lý nhập cảnh địa phương gần nơi ở.

Lệ phí

Khi được phép, phải đóng 8.000 yen (bằng tem Shunyuinshi).

Giấy phép hoạt động ngoài tư cách

Đây là giấy phép cần thiết cho những trường hợp ví dụ như khi du học sinh muốn đi làm thêm. (Trong trường hợp du học sinh làm những công việc như trợ giảng (TA) hoặc hỗ trợ nghiên cứu (RA) tại trường đại học hoặc trường trung học cao đẳng chuyên môn nơi mình đang theo học (Chỉ giới hạn ở sinh viên năm 4, năm 5 và môn học chuyên môn). Những người không được phép lao động mà muốn đi làm thêm để có thu nhập thì cần phải được cấp giấy phép hoạt động ngoài tư cách tại sở quản lý nhập cảnh địa phương. Trường hợp người có tư cách lưu trú là Du học / Ở lại cùng gia đình...thì có hạn chế về thời gian làm việc và nội dung công việc khi đi làm thêm. Nếu làm việc ở ngoài phạm vi hoạt động của tư cách lưu trú mình thì người đó bị phạt vì “lao động bất hợp pháp”. Xin hỏi chi tiết tại sở quản lý nhập cảnh địa phương gần nơi ở.

Những giấy tờ cần thiết	1 Đơn xin giấy phép hoạt động ngoài tư cách 2 Hồ sơ trình bày rõ về nội dung của hoạt động cần giấy phép hoạt động ngoài tư cách 3 Hộ chiếu hoặc giấy chứng minh tư cách lưu trú 4 Thẻ lưu trú... 5 Xuất trình những văn bản chứng minh bản thân (trường hợp người bản thân nộp đơn tại nơi đó)
Nơi nhận giấy tờ/Hỏi đáp	Nơi nhận giấy tờ: Cục quản lý nhập cảnh địa phương của nơi ở Nơi hỏi đáp: Cục quản lý nhập cảnh địa phương của nơi ở hay Trung tâm thông tin tổng hợp về việc lưu trú người nước ngoài
Từ khi nào đến khi nào	Khi muốn lãnh lương bằng hoạt động ngoài tư cách lao động mà mình đang có.
Lệ phí	Miễn phí

Lấy tư cách lưu trú

Trường hợp trẻ em đã sinh ra tại Nhật và không có quốc tịch Nhật mà muốn ở lại Nhật thì phải đến sở quản lý nhập cảnh địa phương thuộc nơi ở để làm thủ tục lấy tư cách lưu trú trong vòng 30 ngày sau ngày sinh ra của trẻ đó. Tuy nhiên nếu trẻ xuất cảnh từ Nhật trong vòng 60 ngày sau ngày sinh ra thì không cần làm thủ tục đó.

Những giấy tờ cần thiết	1 Đơn xin giấy phép tư cách lưu trú 2 Giấy khai sinh, sổ tay sức khoẻ mẹ con ... 3 Hộ chiếu hoặc thẻ lưu trú của cha mẹ ... 4 Giấy bảo lãnh nhân thân
Nơi nhận giấy tờ/ hỏi đáp	Nơi nhận giấy tờ: Cục quản lý nhập cảnh địa phương của nơi ở Nơi hỏi đáp: Sở quản lý nhập cảnh địa phương của nơi ở hay Trung tâm thông tin tổng hợp về việc lưu trú người nước ngoài (Xin tham khảo ở trang “4 Hỏi đáp liên quan đến vấn đề lưu trú”)
Từ khi nào đến khi nào	Trong vòng 30 ngày sau ngày sinh ra (tuy nhiên nếu dự định xuất cảnh từ Nhật trong vòng 60 ngày sau ngày sinh ra thì không cần làm thủ tục).
Lệ phí	Miễn phí



Căn cứ vào pháp luật Nhật, chúng tôi giải thích về việc kết hôn và ly hôn của người nước ngoài. Điểm khác biệt lớn so với người Nhật là người nước ngoài phải nộp các giấy tờ cần thiết cho cơ quan có thẩm quyền tại Nhật cũng như tại nước mình. Ngoài ra cùng với việc kết hôn, ly hôn sẽ tiến hành đăng ký và nộp các loại giấy tờ khác. Do đó xin hãy ghi nhớ và thực hiện các thủ tục như trên.

Kết hôn

Hai người kết hôn quốc tế thì mỗi người đều phải tuân theo luật pháp nước mình. Mặt khác phải làm thủ tục kết hôn tại cả hai nước.

Cụ thể là ngoài việc đăng ký kết hôn, còn phải đăng ký nhiều thứ khác nữa theo qui định của pháp luật (tham khảo ở 3 Các loại i đ ăng k ý k hác c ùng v ớ i kết hôn và ly hôn), xin hãy ghi nhớ và tiến hành các thủ tục trên. Cũng có nhiều khi đăng ký kết hôn thông qua công ty hoặc trường học nên bạn cũng hãy thông báo cho công ty và trường học biết.

Kết hôn tại Nhật

Dưới đây là những điều kiện về kết hôn do pháp luật Nhật qui định. Tất cả những điều kiện này phải được thỏa mãn.

- Tuổi kết hôn là nam giới phải từ 18 tuổi và nữ giới phải từ 16 tuổi trở lên (Luật dân sự điều 731).
- Dưới 20 tuổi thì phải có sự đồng ý của cha mẹ (Luật dân sự điều 737).
- Đang không có vợ hoặc chồng (Luật dân sự điều 732)
- Trường hợp phụ nữ tái hôn, thì có qui định là phải vượt qua 6 tháng kể từ ngày ly hôn (Luật dân sự điều 733)
- Không phải là họ hàng gần (quan hệ trực hệ hoặc họ hàng thuộc đời thứ 3) (Luật dân sự điều 734)

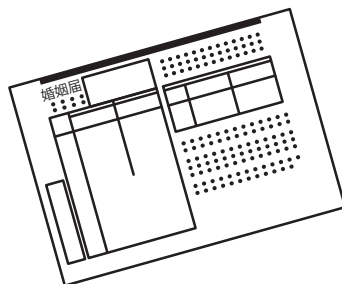
Đăng ký kết hôn

Giấy đăng ký kết hôn là giấy phải nộp cho tòa hành chính thành phố, phường xã khi kết hôn. Điều kiện để việc kết hôn được hoàn thành ở mỗi nước khác nhau, cho nên người Nhật phải đáp ứng các điều kiện về kết hôn của Nhật bản, người nước ngoài thì phải đáp ứng các điều kiện về kết hôn của nước mình. Trường hợp người nước ngoài kết hôn, phải nộp giấy chứng nhận hội đủ điều kiện kết hôn để chứng minh có đủ điều kiện.

Giấy chứng nhận hội đủ điều kiện kết hôn của người nước ngoài được cấp tại đại sứ quán và lãnh sự quán của nước mình tại Nhật, nếu giấy tờ đó được ghi bằng tiếng nước ngoài thì phải đính kèm bản dịch tiếng Nhật có chữ ký và con dấu của người phiên dịch. Trường hợp nước mà không cấp giấy chứng nhận hội đủ điều kiện kết hôn, phải chuẩn bị giấy tờ thay tương đương khác, xin hãy hỏi thêm chi tiết tại tòa hành chính thành phố, phường xã.

Giấy tờ cần thiết	1 Giấy đăng ký kết hôn (lấy mẫu đơn có ở tòa hành chính thành phố, phường xã). * Cần có chữ ký và con dấu của hai người làm chứng đã trưởng thành. 2 Bản sao hộ tịch (người Nhật) 3 Giấy chứng nhận hội đủ điều kiện kết hôn hoặc giấy tờ tương đương. (người nước ngoài) 4 Hộ chiếu (vật chứng minh quốc tịch)
Nơi nộp và trao đổi	Tòa hành chính của thành phố, phường xã mà vợ hoặc chồng có địa chỉ và nguyên quán của người Nhật (lấy mẫu đơn có ở tòa hành chính thành phố, phường xã).
Thời hạn	Tùy ý
Người nộp	Hai người kết hôn

* Nếu cần, sau khi thụ lý, sẽ được cấp giấy chứng nhận đã thụ lý kết hôn.



Trường hợp một người là người nước ngoài.

Trường hợp người Nhật và người nước ngoài kết hôn tại Nhật thì phải nộp giấy đăng ký kết hôn theo luật hộ tịch. Lúc này thủ tục kết hôn tại Nhật kết thúc, kể đó là bạn sẽ làm thủ tục tại nước mình. Lúc đó bạn cần giấy chứng nhận đã thụ lý kết hôn. Vì vậy khi nộp giấy đăng ký kết hôn thì nên xin được cấp giấy chứng nhận đã thụ lý kết hôn. Tùy nước mà phương pháp làm thủ tục khác nhau, xin hãy xác nhận tại đại sứ quán và lãnh sự quán của nước mình tại Nhật. Khi kết hôn với người Nhật và có nguyện vọng thay đổi từ tư cách lưu trú hiện giờ sang tư cách lưu trú vợ (chồng) của người Nhật thì xin hãy đến tư vấn tại sở quản lý nhập cảnh.

Cách ghi giấy đăng ký kết hôn.

Cách ghi giấy đăng ký kết hôn giống như người Nhật trừ các điểm dưới.

●Họ tên, ngày, tháng, năm sinh, nơi cư ngụ của đương sự.

Ghi họ rồi đến tên bằng chữ Katakana, giữa họ và tên thì đánh dấu chấm.

Có thể ghi ngày, tháng, năm sinh bằng dương lịch. địa chỉ là chỗ mà đăng ký cư trú.

●Nguyên quán

Đương sự chỉ cần ghi quốc tịch

●Ký tên và đóng dấu

Chỉ cần ký tên cũng được.

Trường hợp cả hai người cùng là người nước ngoài

Trường hợp hai người nước ngoài muốn kết hôn tại Nhật thì tùy mỗi nước mà phương pháp làm thủ tục khác nhau, xin hãy xác nhận tại đại sứ quán và lãnh sự quán của nước mình tại Nhật. Trường hợp muốn làm thủ tục đăng ký kết hôn tại tòa hành chính thành phố, phường xã của Nhật, xin hãy xác nhận các loại giấy tờ cần thiết tại tòa hành chính thành phố, phường xã (sau khi được thụ lý sẽ được cấp giấy chứng nhận đã thụ lý kết hôn). Mặt khác, việc đăng ký kết hôn tại mỗi nước mình cũng cần thiết.

Quốc tịch sau khi kết hôn

Khi người nước ngoài kết hôn với người Nhật thì không có chuyện là tự nhiên có thể lấy được quốc tịch Nhật. Để lấy được quốc tịch Nhật thì phải có sự cho phép nhập quốc tịch của bộ trưởng Tư Pháp.

Các loại đăng ký khác cùng với việc kết hôn và ly hôn

Cùng với việc nộp giấy đăng ký kết hôn và ly hôn, cũng phải nộp các giấy tờ giống như ở dưới đây. Trường hợp này không phải nộp ở toà hành chính mà thường là nộp thông qua công ty hoặc trường học. Do đó, việc thông báo đến công ty, trường học là điều cần thiết.

Các loại đăng ký cần thiết	Nơi đăng ký
Khai báo ly hôn, khai tử cho người phối ngẫu	Sở quản lý nhập cảnh của địa phương
Thay đổi tư cách lưu trú	Sở quản lý nhập cảnh của địa phương
Chuyển nhà đi	Ở tòa hành chính của thành phố, phường xã .
Chuyển nhà đến	Ở tòa hành chính của thành phố, phường xã nơi chuyển đến.
Thay đổi danh nghĩa, địa chỉ của thẻ Bảo hiểm sức khỏe quốc dân và sổ lương hưu quốc dân	Tòa hành chính của thành phố, phường xã
Thay đổi danh nghĩa, địa chỉ của bằng lái xe	Sở cảnh sát, nơi thi lấy bằng lái xe
Thay đổi tình trạng bản thân mình	Nơi làm việc
Thay đổi địa chỉ, danh nghĩa của sổ tài khoản	Ngân hàng, cơ quan tín dụng
Thay đổi hợp đồng ga, điện, nước	Công ty ga, công ty điện, công ty nước
Thay chuyển, nối điện thoại	Công ty điện thoại
Vấn bản thay đổi địa chỉ nhận bưu phẩm	Bưu điện

KẾT HÔN - LY HÔN

Kết hôn giữa người Nhật và người nước ngoài

Người Nhật phải đủ các điều kiện về kết hôn như pháp luật Nhật đã qui định. Người nước ngoài cũng phải đủ các điều kiện về kết hôn của nước mình.

Giấy tờ cần chuẩn bị

- 1 Giấy đăng ký kết hôn (lấy ở tòa hành chính thành phố, phường xã. Ngoài ra phải có chữ ký và con dấu của hai người làm chứng đã trưởng thành)
- 2 Bản sao hộ tịch (người Nhật)
- 3 Giấy chứng nhận đủ điều kiện kết hôn hoặc giấy tờ tương đương (người nước ngoài)
- 4 Hộ chiếu (giấy tờ chứng minh quốc tịch) .v.v...

Các giấy tờ trên sẽ nộp tại tòa hành chính của thành phố, phường xã, nơi một trong hai người kết hôn đang cư ngụ, hoặc là nộp tại tòa hành chính thành phố hay phường xã, nơi nguyên quán của phía người Nhật.

Sau khi giấy tờ được thụ lý, việc kết hôn tại Nhật được hoàn thành.

Tại đó, bạn sẽ nhận được giấy chứng nhận thụ lý đăng ký kết hôn.

Người nước ngoài làm thủ tục kết hôn tại nước mình.

Tùy mỗi nước có phương pháp làm thủ tục kết hôn khác nhau. Vì vậy, xin hãy xác nhận tại đại sứ quán và lãnh sự quán của nước bạn.

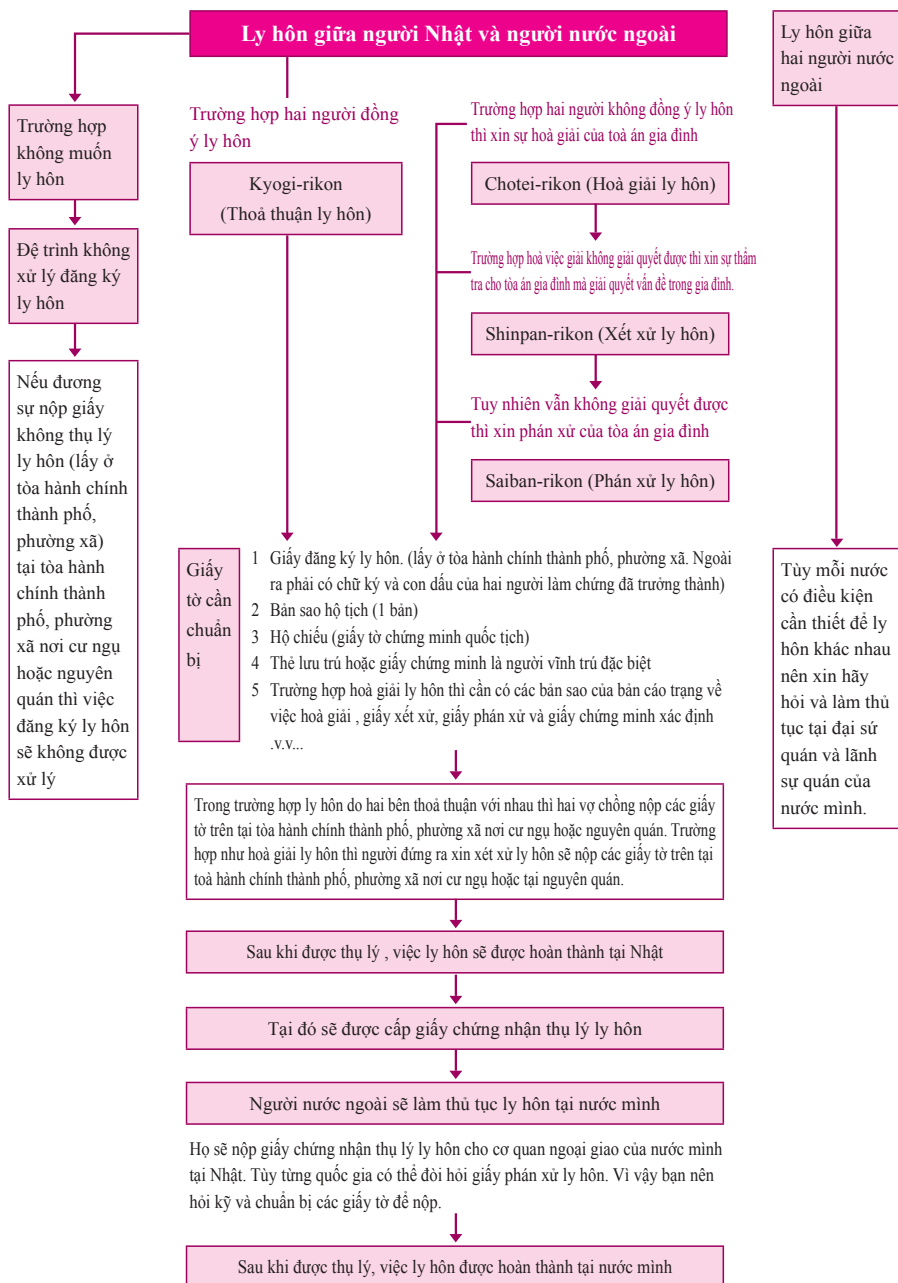
Sau khi giấy tờ được thụ lý, việc kết hôn tại nước mình cũng được hoàn thành.

Người có nguyện vọng đổi tư cách lưu trú như bây giờ sang tư cách lưu trú vợ hoặc chồng của người Nhật thì xin hãy trao đổi tại sở quản lý nhập cảnh.

Kết hôn giữa hai người nước ngoài

Tùy mỗi nước có điều kiện cần thiết để thành hôn khác nhau nên xin hãy hỏi và làm thủ tục tại cơ quan ngoại giao của nước mình tại Nhật.
Trường hợp bạn muốn làm thủ tục đăng ký kết hôn tại tòa hành chính thành phố, phường xã của Nhật thì xin hãy hỏi tại tòa hành chính của thành phố, phường xã.

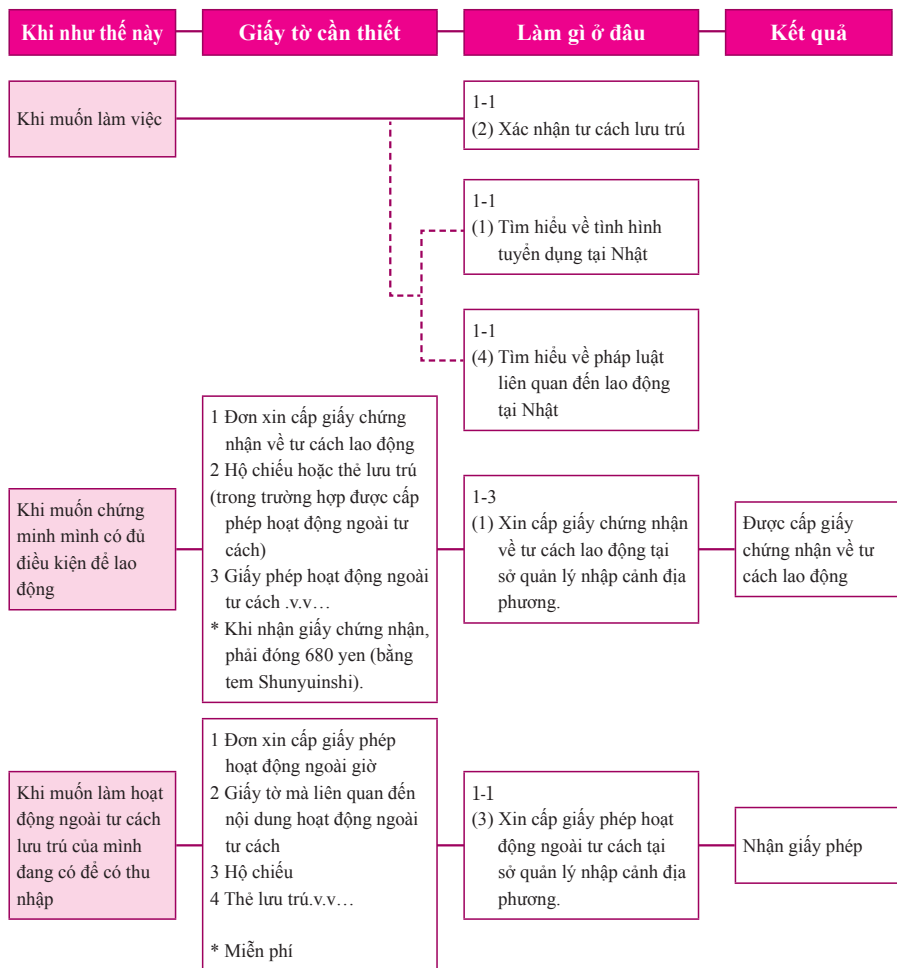
Các bước tiến hành thủ tục ly hôn quốc tế

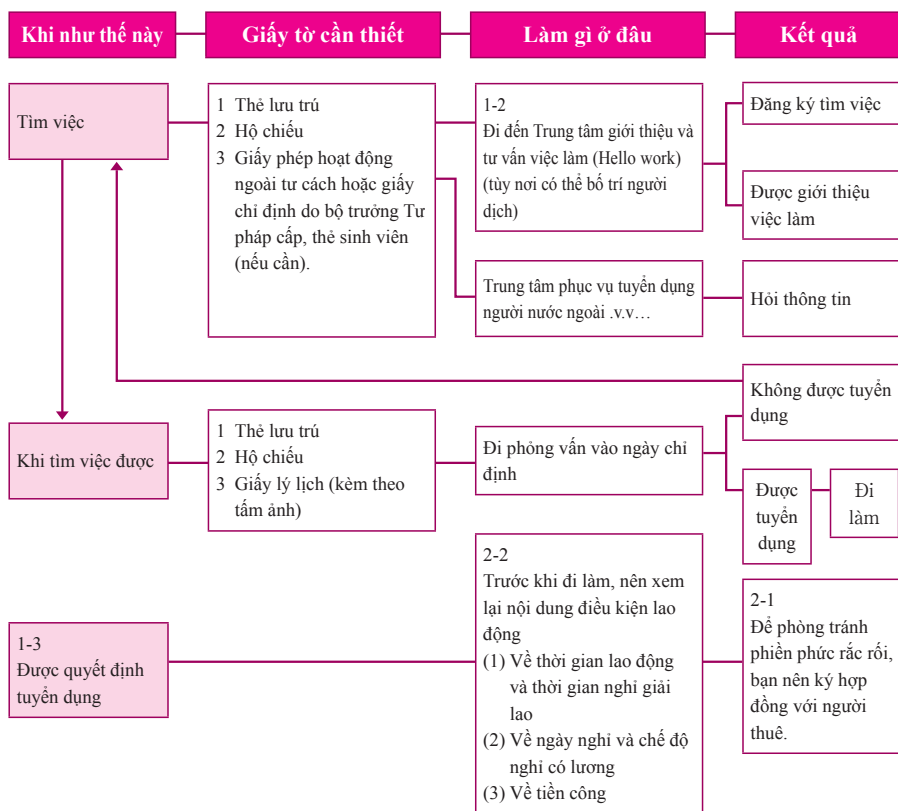


**3**

LAO ĐỘNG VÀ TU NGHIỆP

Khi nhận việc, sau khi nhận việc, thôi việc

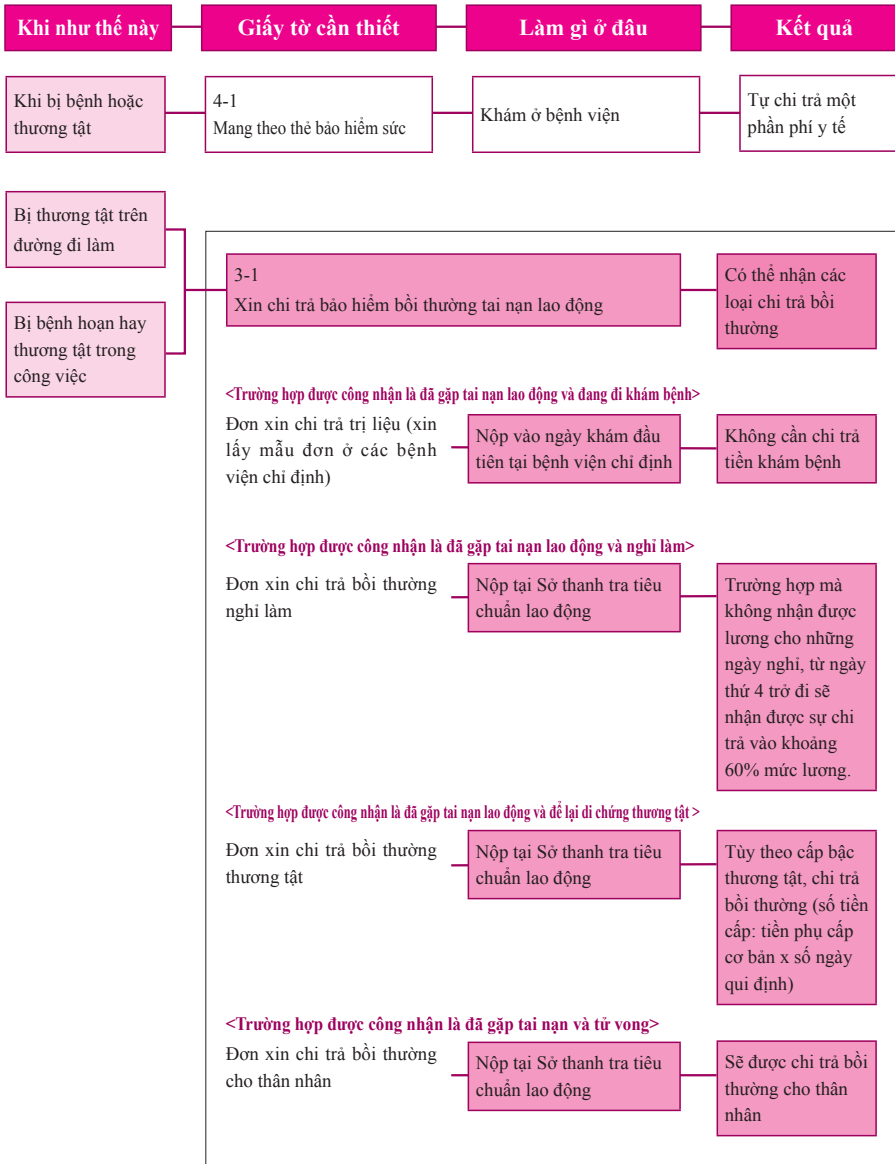


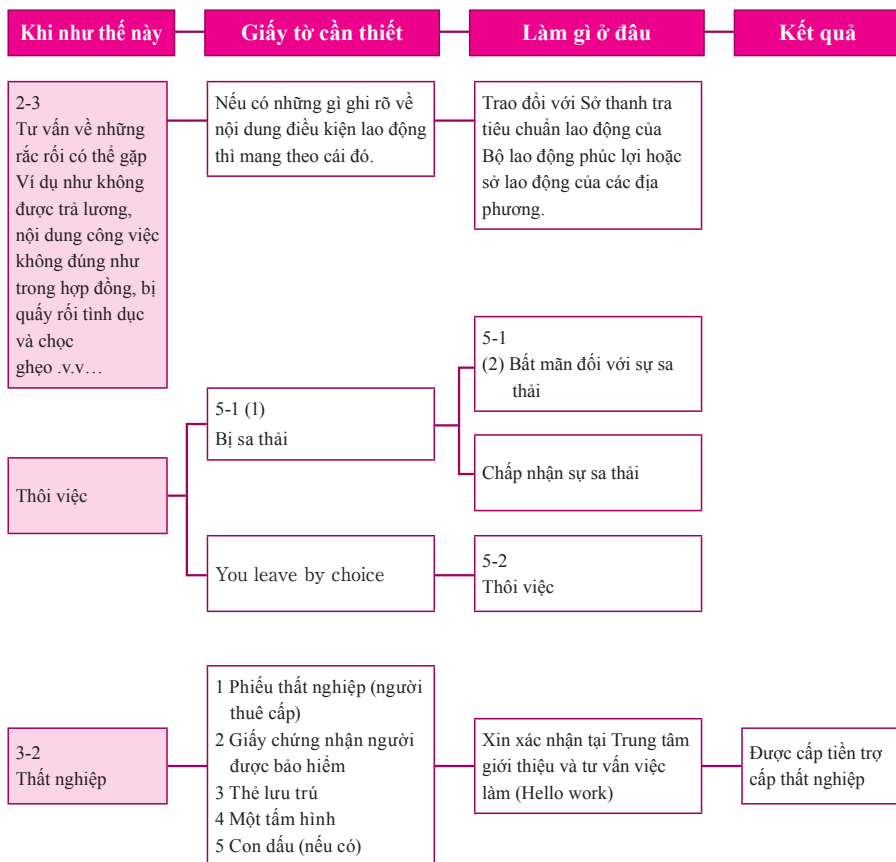


Các bảo hiểm mà người thuê phải làm thủ tục gia nhập cho người lao động

- | | | |
|-----|--------------------------------------|---|
| 3-1 | Bảo hiểm bồi thường tai nạn lao động | Cần thiết cho những lúc bị thương tật hoặc bệnh hoạn trong giờ lao động hoặc trên đường đi làm. |
| 3-2 | Bảo hiểm việc làm | Cần thiết trong khi thất nghiệp. |
| 4-1 | Bảo hiểm sức khỏe | Cần thiết trong khi bị thương tật hoặc bệnh hoạn. |
| 4-2 | Lương hưu | Để toàn bộ xã hội nuôi dưỡng người già |
- When you leave Japan

Có chế độ chi trả cho việc ra khỏi bảo hiểm

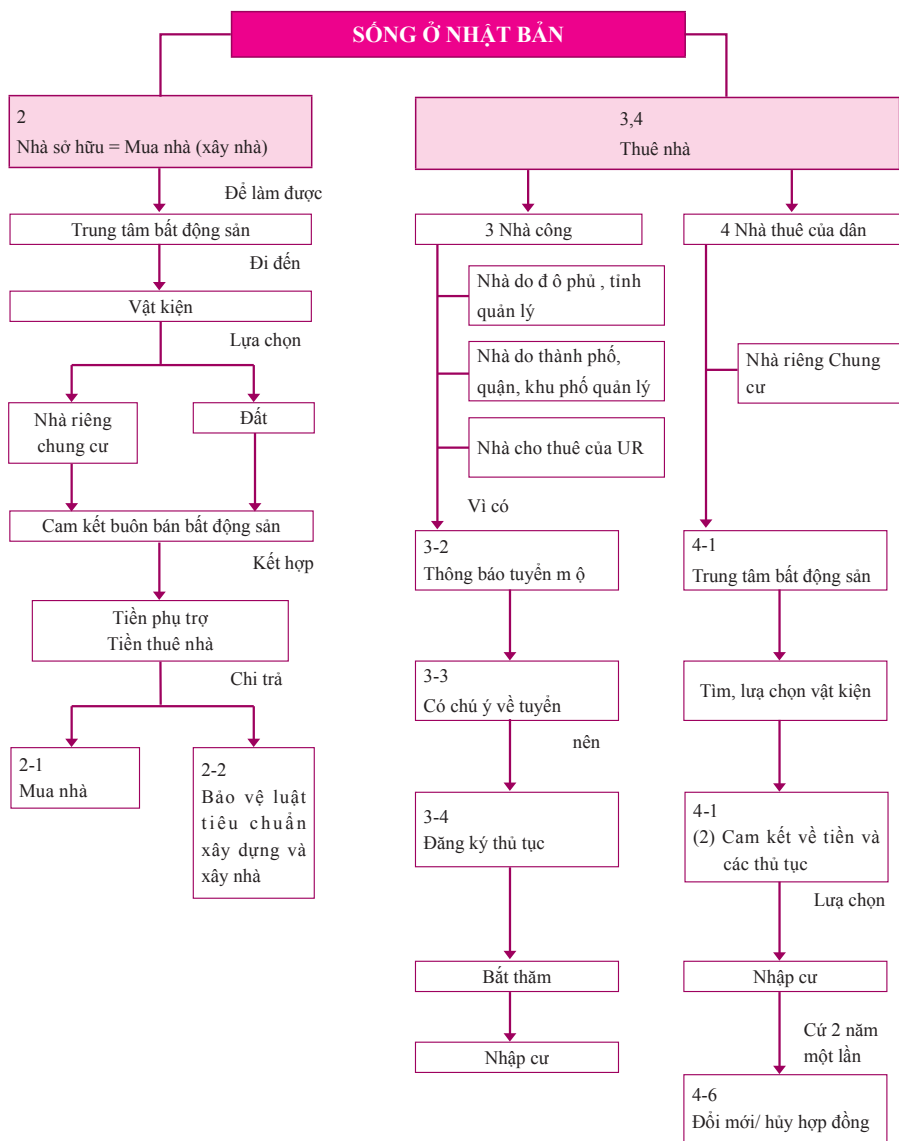




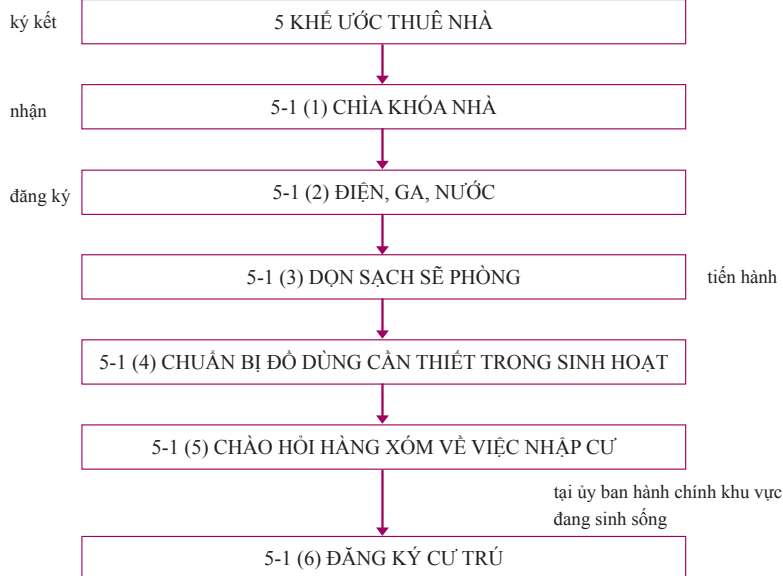


4

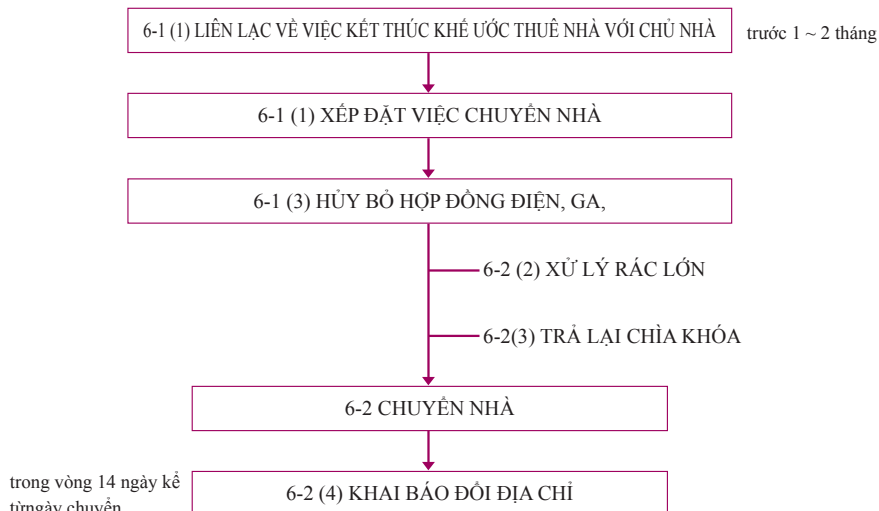
Việc định cư và thay đổi chỗ ở



KHI MỚI BẮT ĐẦU NHẬP CƯ VÀO NHÀ THUÊ



KHI RÚT LUI HOẶC CHUYỂN CHỖ



Nhà ở

Nhà ở của Nhật Bản được chia làm 3 loại khác nhau: Nhà sở hữu, nhà công ích và nhà thuê của người dân. Ở đây chúng tôi giải thích về đặc trưng của từng loại nhà, chiều rộng, sự bố trí trong nhà, địa thế của nhà và tổ chức dân khu phố .v.v...

Về nhà ở của Nhật Bản

Nhà sở hữu

Nhà có quyền sở hữu thì được gọi là nhà sở hữu. Có các loại hình như là nhà riêng, nhà chung cư ..., và để sở hữu nhà thì thường phát sinh thêm nhiều giấy cam kết và các thủ tục liên quan đến việc mua bán.



Nhà công ích

Nhà công ích là nhà mà các cơ quan hành chính khu vực như tỉnh, thành phố, phường xã và các xí nghiệp công cộng cung cấp với mức giá rẻ cho những người dân đang gặp khó khăn về việc mua nhà. Có các loại nhà như là nhà ở do đô phủ tỉnh quản lý, nhà ở do thành phố quản lý, nhà ở do khu phố quản lý, nhà cho thuê UR. Vì tư cách của người nhập cư đã được qui định sẵn nên chỉ có những người nào đủ tư cách mới được nhập cư.

Nhà thuê tư nhân

Nhà thuê tư nhân là nhà, căn hộ hoặc chung cư mà để vào ở là phải trả tiền thuê nhà cho người chủ. Tiền thuê nhà phải trả trước mỗi tháng (cầm tiền đến và trả). Cũng có những trường hợp là ngoài tiền nhà còn cần phải đóng thêm tiền quản lý, tiền công ích .v.v... trường hợp như vậy thì phải đóng chung với tiền nhà.



Về chiều rộng và cách bài trí trong nhà

Chiều rộng của nhà được tính bằng diện tích sử dụng (mét vuông) bao gồm các phòng, toilet, phòng tắm và nhà ăn. Chiều rộng của nhà được tính bằng số chiều trải dưới nền và gọi 1 tấm chiếu là 1 chiều. 1 chiếu cơ bản là 180cm x 90cm, khoảng 1,6 mét vuông, nhưng cũng có những cỡ vào khoảng 170cm x 85cm hoặc là 176cm x 88cm.

Hơn nữa, phòng và số phòng thì được biểu thị bằng số và chữ cái alphabet. Có các kiểu phòng là phòng có nền chiếu tức phòng theo kiểu Nhật Bản, phòng có nền ván gỗ... tức phòng theo kiểu phương Tây.

[Ví dụ]

- 2LDK có 2 phòng độc lập và phòng khách, nhà ăn kiêm nhà bếp.
- 2 số phòng
- L phòng khách (Living Room)
- D phòng ăn (Dining Room)
- L D K là một phòng sử dụng cho cả phòng khách, phòng bếp và nhà ăn.
- D K là một phòng sử dụng cho cả nhà bếp và nhà ăn.

Cách kí hiệu cho tầng lầu và tầng hầm

Ở Nhật Bản, người ta biểu thị tầng 1 là kí hiệu 1F, tầng hầm là B1.

[Ví dụ]

- 1 F ~ 5 F 5F là biểu thị từ tầng 1 đến tầng 5.
- 2 B là biểu thị cho tầng hầm 2.

Nhà sở hữu

Nhà sở hữu là nhà mình đã mua hoặc thừa nhận chứ không phải thuê hay mượn của ai khác. Ở đây chúng tôi giới thiệu những phương pháp khi mua nhà và những lưu ý khi xây nhà.

Thủ tục và những phương pháp để có được

Khi mua nhà sở hữu thì phổ biến nhất là sử dụng trung tâm bất động sản. Nếu đã lựa chọn căn nhà và quyết định mua thì sau khi được giải thích về những điểm quan trọng chủ yếu, sẽ ký “bản cam kết mua bán bất động sản”, trả tiền đặt cọc và hầu hết thường đăng ký vay trả sau. Sau đó sẽ tiến hành các thủ tục đăng ký chuyển nhượng quyền sở hữu cho người mua và các thủ tục về thuế tư sản cố định. Các thủ tục cần thiết thì trung tâm bất động sản sẽ làm thay mình và thu phí, nên hãy bàn bạc với họ.

Những điều cần chú ý khi xây nhà

Khi xây nhà ở Nhật Bản thì phải kế hoạch, thi công đúng theo pháp luật mà gọi là “luật tiêu chuẩn kiến trúc”. Có rất nhiều qui định ví dụ như độ lớn của tòa nhà đối với diện tích đất, chiều cao của tòa nhà .v.v..., và nếu như không có giấy phép đồng ý của thành phố, phường xã thì không thể tiến hành được. Thông tin chi tiết thì xin hãy bàn bạc với những người phụ trách ở văn phòng chỉ đạo xây dựng nhà ở của phòng hành chính khu vực.

Nhà công

Nhà công là nhà do các đoàn thể công cộng địa phương và do các xí nghiệp công cộng cung cấp. Dưới đây xin giới thiệu về các loại nhà địa phương công cộng, tư cách nhập cư, các thông tin tuyển mộ, và cách đăng ký.

Các loại nhà công

Về nhà công có các loại: nhà của đoàn thể công cộng địa phương và do các xí nghiệp công cộng cung cấp. Về nhà công do đoàn thể công cộng địa phương cung cấp thì có nhà do đô phủ tỉnh thành điều hành quản lý, nhà do thành phố điều hành quản lý, nhà do quận, phường và xã điều hành quản lý .v.v... Còn về nhà do các xí nghiệp công cộng điều hành quản lý thì có nhà cho thuê UR của cơ quan đô thị UR (nhà cơ cấu đô thị).

Điều kiện để được vào ở

Bất cứ nhà công nào cũng có những qui định rất chi tiết về điều kiện để được vào ở như có phải là người đăng ký cư trú hay không, hoặc là người có tư cách lưu trú là “Ngoại giao”..., tiêu chuẩn về thu nhập .v.v... Muốn biết rõ thêm chi tiết thì hãy hỏi các cơ quan hành chính địa phương mà quản lý nhà công hoặc cơ quan đô thị UR.

Thông báo về tuyển mộ

Nhà công thì được tuyển mộ theo định kỳ hoặc bất cứ lúc nào. Nhà thuộc về tỉnh thì phần lớn tuyển mộ 4 lần trong 1 năm (tháng 1, tháng 4, tháng 7 và tháng 10). Bảng hướng dẫn tuyển mộ được dán ở các bảng thông báo của phòng hành chính khu vực.v.v...

Nhà cho thuê UR: Qua trang web của cơ quan đô thị UR, bạn có thể tìm được căn nhà phù hợp với nguyện vọng của mình và ứng tuyển

Phương pháp đăng ký

Ngoài việc xác nhận tư cách đăng ký còn có đính kèm thêm nhiều thứ loại cần thiết khác trong giấy đăng ký nhập cư đã được chỉ định và đăng ký tại phòng phụ trách việc nhập cư của khu vực đang tuyển mộ.

Nhưng nhà công thường có nhiều người muốn vào ở, nên người ta tuyển người vào ở bằng cách bốc thăm. Tiền thuê nhà thường được qui định tùy theo thu nhập, nên ngoài tiền thuê nhà thì tiền công ích và tiền thuê bãi đỗ xe cũng rất quan trọng.

Những giấy tờ cần thiết	1 Giấy đăng ký xin vào ở 2 Phiếu cư trú của toàn bộ những người có nguyện vọng vào ở 3 Giấy chứng nhận thu nhập 4 Ngoài ra nếu cần, sẽ có yêu cầu những giấy tờ khác
Nơi nộp	Phòng phụ trách việc nhập cư của khu vực đang tuyển mộ
Khi nào	<Nhà thuộc về thành phố, quận, phường xã ... và nhà cho thuê UR> Theo định kỳ hoặc bất cứ lúc nào <Nhà thuộc về tỉnh> Thường tuyển mộ 4 lần trong 1 năm (tháng 1, tháng 4, tháng 7 và tháng 10)
Ghi chú	Xin hỏi các cơ quan hành chính địa phương mà quản lý nhà công ích hoặc cơ quan đô thị UR

Nhà cho thuê tư nhân

Khi thuê nhà của các doanh nghiệp tư nhân thì phải làm thủ tục ở các trung tâm bất động sản. Khi đó, việc quan trọng là phải chính lý trước những điều kiện và nguyện vọng của mình. Khi làm hợp đồng, có nhiều trường hợp phải cần tới 5 đến 6 tháng tiền nhà.

Cách tìm và thuê nhà

Cách tìm nhà

Đi đến những trung tâm giới thiệu nhà ở khu vực mình muốn sống chẳng hạn như trung tâm bất động sản, chung cư hay những nơi cho thuê nhà. Sau đó truyền đạt cho họ về những yêu cầu của mình về giá nhà, độ rộng, cự ly có gần ga không để họ giới thiệu cho mình những nơi cho thuê thích hợp.

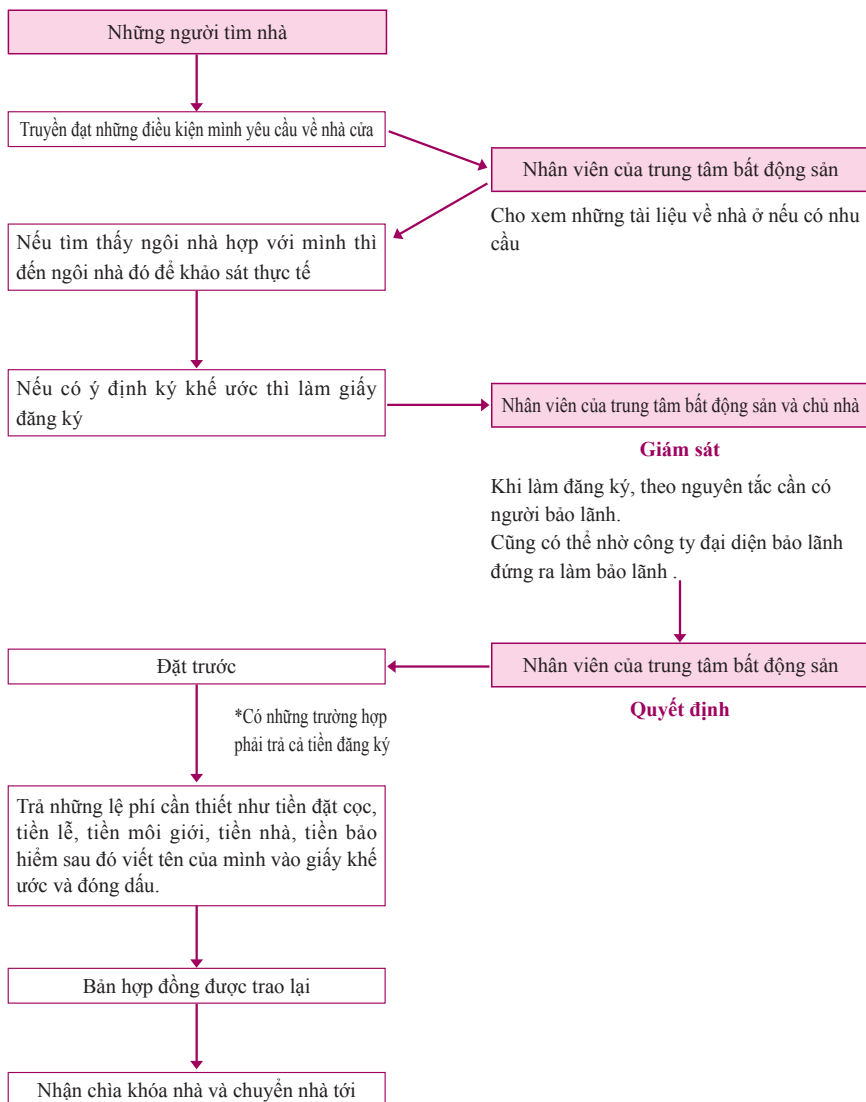
Có thể tìm thấy những thông tin dân ở những trung tâm đó hay cũng có thể tìm kiếm những thông tin đó qua tạp chí hay internet. Những du học sinh có một cách khác là nhờ sự giúp đỡ của phòng hướng dẫn sinh viên tại trường.

Cách thuê nhà

Khi thuê nhà hay chung cư thì được ràng buộc bằng hợp đồng. Những hợp đồng về thuê nhà thông thường có thời hạn 2 năm. Khi làm hợp đồng thuê nhà thì cần thiết phải có những giấy tờ được liệt kê ở dưới đây.

Những giấy tờ cần thiết khi làm khế ước	1 Phiếu cư trú của toàn bộ những người có nguyện vọng vào ở 2 Giấy chứng nhận thu nhập 3 Giấy chứng nhận của người bảo lãnh (tham khảo mục 7 Giải thích những thuật ngữ liên quan đến nhà ở) 4 Giấy chứng minh con dấu .v.v...
Lệ phí cần thiết khi làm khế ước	1 Tiền nhà tháng đầu và tháng tiếp theo 2 Tiền đặt cọc 3 Tiền lễ 4 Tiền môi giới Cộng tất cả những khoản lệ phí trên thì khi thuê nhà ban đầu phải mất từ 5 đến 6 tháng tiền nhà.

Những bước khi thuê nhà



Những điểm cần chú ý khi thuê nhà

■ Về sự thuận tiện của giao thông

Sự thuận tiện của giao thông được tính bằng cách giả sử 1 phút đi bộ đi được 80m sau đó sẽ được ghi là “cách ga gần nhất bao nhiêu phút”. 1 phút đi bộ được 80 m có nghĩa là 1 giờ đi được 4.8km, những đường dốc, cầu thang hay tín hiệu giao thông không được tính vào trong cự ly này. Trước khi làm hợp đồng nên thử đi từ nhà ra ga cũng là một cách tốt.

■ Về vật nuôi

Nhiều chủ nhà thường không cho phép nuôi vật nuôi trong nhà, nên trong trường hợp muốn nuôi vật nuôi thì trước khi ký hợp đồng phải xác nhận lại với trung tâm bất động sản.



Việc nuôi vật nuôi

■ Cải tạo và thay đổi nội thất

Nếu không nhận được sự cho phép của chủ nhà thì không được phép cải tạo thay đổi nội thất và cho những người ngoài gia đình vào sống cùng. Tất nhiên, không được phép cho 1 phần hay toàn bộ gian nhà cho người khác mượn.



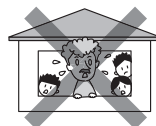
Việc đóng đinh hay sơn nhà

■ Những thứ có trong nhà và không có trong nhà

Ở Nhật khi đi thuê nhà thì có những thứ đã được trang bị từ trước và có những thứ mà mình phải chuẩn bị khi dọn vào. Những thứ có trong nhà và không có trong nhà được liệt kê như dưới đây.

- Những thứ có trong nhà ... Những trang bị về điện, gas và đường dẫn nước
- Những thứ không có trong nhà ... Những thiết bị chiếu sáng, bếp ga, lò sưởi, đồ dùng gia đình.

Người thuê nhà phải tự chuẩn bị những thứ cần thiết.



Việc cho người khác mượn

Những lời khuyên khi đi thuê nhà

Khi đi thuê nhà có thể phát sinh những trở ngại. Chính vì vậy, có những lời khuyên sau. Những hiệp hội giao lưu quốc tế ở khu vực bạn đang sinh sống cũng có thể giúp đỡ mình trong những trường hợp này

- Khi không nói được tiếng Nhật ... Hãy đi cùng với những người có khả năng nói tiếng Nhật. Chỉ cần có thể chào hỏi được bằng tiếng Nhật thì ấn tượng về bạn cũng sẽ khác đi rất nhiều.
- Khi không cho thuê nhà cho người nước ngoài ... Thông qua những người quen biết hay internet, hãy tìm đến những trung tâm bất động sản và tìm hiểu thông tin ở đó là một cách làm hiệu quả.
- Không có người bảo lãnh ... Có thể nhờ những công ty đại diện bảo lãnh. Trước hết hãy thảo luận với các trung tâm bất động sản.

Ở trung tâm bất động sản

Trung tâm bất động sản thông thường sẽ hỏi những câu sau

1. Họ và tên	()
2. Nghề nghiệp	()
3. Hình thức thuê dụng	☐ Nhân viên chính thức ☐ Nhân viên hợp đồng ☐ Nhân viên bán thời gian ☐ Sinh viên → Có học bổng hay không... ☐ Có ☐ không
4. Người có dự định sống chung	Nhiều người () ☐ Gia đình ☐ Bạn bè ☐ Những trường hợp khác
5. Thu nhập cố định Bản thân người thuê	☐ Tiền lương ☐ Tiền nhận từ gia đình ☐ Những trường hợp khác • 10 vạn yên/tháng • 10~15 vạn yên/tháng • 15~20 vạn yên/tháng • 20~25 vạn yên/tháng • 25~30 vạn yên/tháng • Trên 30 vạn yên
Người có dự định sống chung	☐ Tiền lương ☐ Tiền nhận từ gia đình ☐ Những trường hợp khác • 10 vạn yên/tháng • 10~15 vạn yên/tháng • 15~20 vạn yên/tháng • 20~25 vạn yên/tháng • 25~30 vạn yên/tháng • Trên 30 vạn yên
6. Khả năng tiếng Nhật Nói	☐ Có khả năng ☐ Trình độ hội thoại hàng ngày ☐ Không có khả năng
Đọc	☐ Có khả năng ☐ Tiếng Nhật đơn giản ☐ Chỉ biết chữ hiragana ☐ Không có khả năng về tiếng Nhật
7. Có hay không có người bảo lãnh	☐ Có → Quan hệ thế nào với người bảo lãnh () ☐ Không → Có nhu cầu nhờ công ty đại diện bảo lãnh... ☐ Có ☐ không
8. Địa chỉ liên lạc khi khẩn cấp (ngoài bản thân người thuê)	()
9. Giấy tờ tùy thân	☐ Hộ chiếu ☐ Thẻ lưu trú hoặc giấy chứng minh là người vĩnh trú đặc biệt ☐ Những thứ khác: ()
10. Dự định về nước	☐ Có Sau () năm ☐ Không ☐ Không biết
11. Lý do chọn nhà	()

Bảng kiểm tra căn nhà theo nguyện vọng của mình

Bản thân hãy tự làm rõ những nguyện vọng của mình

■ Nội dung của căn nhà theo nguyện vọng

1. Tiền nhà	Từ () yên đến () yên
2. Yêu cầu về khu vực	1 Gần ga () 2 Từ ga đi bộ khoảng () phút
3. Kiểu nhà	☐ Nhà tập thể ☐ Chung cư cao tầng ☐ Nhà riêng
4. Tầng	Tầng ()
5. Bố trí	
(1) Số phòng	() phòng
(2) Về nhà bếp	☐ K ☐ D K ☐ L D K *K.....chỉ có nhà bếp DK... nhà bếp và nhà ăn LDKnhà bếp, nhà ăn và phòng khách
(3) Kiểu phòng	☐ Phòng Tây ☐ Phòng Nhật ☐ Kiểu nào cũng được
6. Nhà vệ sinh	☐ Kiểu Tây ☐ Kiểu Nhật ☐ Nhà vệ sinh riêng ☐ Nhà vệ sinh chung cũng được
7. Nhà tắm	☐ Có bồn tắm ☐ Không có bồn tắm cũng được
8. Máy điều hòa	☐ Có ☐ Không
9. Hướng nhà	☐ Hướng nam ☐ Hướng đông nam ☐ Ngoài hướng bắc ☐ Hướng nào cũng được
10. Môi trường xung quanh	☐ Có phòng tắm chung ☐ Có chỗ giặt đồ ☐ Trường học ☐ Những điều kiện khác ()
11. Ngày dự định vào ở	Từ năm () tháng ()

Xác nhận lại giấy khế ước

Những điều khoản ghi trong giấy hợp đồng là những qui định về quyền lợi và nghĩa vụ của người thuê nhà và người cho thuê. Khi ký tên vào giấy hợp đồng có nghĩa là người thuê nhà đồng ý với những điều khoản ghi trong đó và có nghĩa vụ tuân theo những điều khoản đó. Vì vậy xin hãy xác nhận kỹ về nội dung, chỗ nào không hiểu hay yêu cầu giải thích rõ ràng. Phải lý giải xong những điều khoản ghi trong khế ước rồi mới được ký tên. Hãy cùng xác nhận lại những điều sau để ngăn ngừa những trục trặc có thể xảy ra .

Tiền nhà và tiền quản lý	Số tiền, ngày thanh toán và hình thức thanh toán .v.v...
Những điều cấm	Cấm nuôi vật nuôi .v.v...
Khả năng gia hạn hợp đồng	Thông thường thời hạn của hợp đồng là 2 năm. Sau khi hết hạn 2 năm, có những trường hợp từ phía chủ nhà có yêu cầu lệ phí gia hạn. Cũng có những trường hợp từ phía trung tâm bất động sản có yêu cầu thu lệ phí để làm thủ tục gia hạn.
Những điều kiện khi kết thúc hợp đồng	Khi kết thúc hợp đồng thì có những trường hợp tiền đặt cọc không được trả lại và còn bị yêu cầu một khoản tiền lớn để làm sạch lại nhà. Chính vì vậy phải xác nhận lại những điều khoản khi hủy bỏ hợp đồng .

Gia hạn và hủy bỏ hợp đồng

Ở Nhật Bản, thời hạn để gia hạn hợp đồng thuê nhà là 2 năm. Cái này gọi là gia hạn hợp đồng . Nếu có nhu cầu tiếp tục thuê nhà, thì phía thuê nhà phải đăng ký và nộp tiền gia hạn cho phía trung tâm bất động sản. Ngược lại khi trở về nước hay chuyển chỗ ở, thì có những trường hợp phải hủy bỏ hợp đồng. Khi đó phải truyền đạt cho phía trung tâm bất động sản và chủ nhà tối thiểu từ 1 ~ 2 tháng trước khi hủy bỏ hợp đồng .

Gia hạn hợp đồng (thủ tục gia hạn hợp đồng)

Khi có nhu cầu gia hạn hợp đồng thì phải đăng ký với trung tâm bất động sản và chủ nhà. Khi đó có nhiều trường hợp tiền nhà sẽ tăng lên và có thể phải nộp 1 tháng tiền nhà cho trung tâm bất động sản và chủ nhà như là lệ phí cho việc gia hạn.

Về bản khế ước, hầu hết là được dùng tiếp bản hợp đồng lúc trước. Cũng có những trường hợp trước khi hết kỳ hạn hợp đồng sẽ có bản hướng dẫn gia hạn từ trung tâm bất động sản và cũng có những trường hợp tiền nhà được giữ nguyên và không phải trả thêm tiền gia hạn hợp đồng cho trung tâm bất động sản và chủ nhà.

Khi kết thúc hợp đồng (thông báo việc kết thúc thuê nhà)

Khi kết thúc hợp đồng thì phải thông qua phía bất động sản hay trực tiếp báo với chủ nhà về việc kết thúc thuê nhà. Quan trọng là phải truyền đạt sớm theo như các bản hợp đồng thì thông thường phải truyền đạt trước từ 1

~ 2 tháng.

Trong trường hợp không thông báo cho phía chủ nhà hay là chỉ thông báo trước khi chuyển đi chỗ khác thì sẽ không được hoàn lại tiền đặt cọc. Chính vì vậy hãy cố gắng thông báo việc kết thúc thuê nhà sớm.

Chuyển đến nơi ở mới

Sau khi đã quyết định xong nhà ở và ký kết vào hợp đồng thuê nhà thì bạn phải làm các bước chuẩn bị cho chỗ ở mới. Bạn phải đăng ký dọn vệ sinh nhà cửa, sử dụng điện ga nước và tiến hành làm các thủ tục như đăng ký cư trú, khai báo thay đổi địa chỉ.... Cũng phải sắm sửa những vật dụng thiết yếu cho cuộc sống. Sau khi chuyển đến chỗ ở mới, việc đi chào hỏi những người hàng xóm cũng hết sức quan trọng.

Đầu tiên khi chuyển đến nhà mới

■ Nhận chìa khóa

Sau khi đã ký kết hợp đồng thuê nhà thì người thuê nhà sẽ được nhận chìa khóa. Sau này khi bạn kết thúc hợp đồng thuê nhà thì phải hoàn trả lại chìa khóa nên phải chú ý không để mất. Trong trường hợp bị mất chìa khóa phải nhanh chóng báo với chủ nhà và trung tâm bất động sản. Khi đó những phí tổn cho việc thay đổi chìa khóa thì phía người thuê nhà phải chịu. Đây cũng là một việc quan trọng để phòng chống trộm cắp.

■ Đăng ký sử dụng điện, ga, nước

Không có điện, ga và nước thì chúng ta không thể sinh hoạt được. Vì vậy trước khi chuyển đến chỗ ở mới hãy hoàn thành các thủ tục để có thể sử dụng được điện, ga và nước. Tùy theo từng khu vực mà các thủ tục cũng khác nhau nhưng nhìn chung là gồm những thủ tục sau.

	Điện	Ga	Nước
Khi nào?	Sau khi chuyển đến chỗ ở hoặc sau khi nhận chìa khóa	Sau khi chuyển đến chỗ ở hoặc sau khi nhận chìa khóa	Sau khi chuyển đến chỗ ở hoặc sau khi nhận chìa khóa
Liên lạc với chỗ nào?	Công ty điện lực ở khu vực sinh sống	Công ty ga ở khu vực sinh sống	Bộ phận phụ trách nước sinh hoạt của phòng hành chính khu vực
Làm như thế nào	Đây công tác của biến áp lên là có thể dùng được điện. Viết tên, địa chỉ, ngày bắt đầu sử dụng vào bưu thiếp (kèm theo công tác của biến áp) bỏ vào hòm thư. Trường hợp không có phiếu thì trực tiếp liên lạc với công ty điện lực.	Liên lạc trực tiếp với công ty cung cấp ga để họ cử người đến vào ngày mình muốn bắt đầu sử dụng ga.	Liên lạc với bộ phận phụ trách nước sinh hoạt của phòng hành chính khu vực để họ đến vào ngày mình muốn bắt đầu sử dụng nước. Cũng có những nơi người thuê nhà viết vào bưu thiếp có ghi họ tên, địa chỉ và ngày bắt đầu sử dụng sau đó bỏ bưu thiếp đó vào hòm thư
Remarks		Tuy nhiên, những dụng cụ cần thiết để chế biến như bếp ga thường không có ngay từ đầu nên khi phải chuẩn bị đầy đủ trước khi người công ty ga đến xem.	Khi làm thủ tục khê ước thuê nhà hãy hỏi trung tâm bất động sản và chủ nhà xem có thể dùng nước ngày khi chuyển tới không

■ Dọn dẹp phòng

Phòng thuê chuẩn bị chuyển tới thường đã được giữ ở trạng thái tốt nhưng để khi bắt đầu sống được thoải mái thì trước khi chuyển đến hãy quét dọn trước. Để quét dọn được thì trước khi chuyển tới nhà thuê, việc đăng ký sử dụng điện, ga và nước cũng hết sức quan trọng.

■ Chuẩn bị đầy đủ các dụng cụ cần thiết cho cuộc sống

Các nhà cho thuê ở Nhật thông thường không có kèm theo các đồ dùng, màn nên mình phải tự chuẩn bị các vật dụng cần thiết như đồ điện, các dụng cụ ngủ, dụng cụ nhà bếp, nhà vệ sinh.

■ Chào hỏi sau khi dọn đến nhà thuê

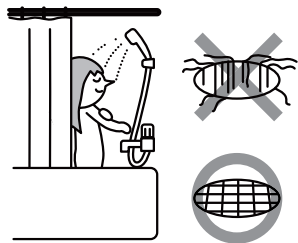
Ở Nhật Bản, sau khi chuyển đến chỗ ở mới thì việc đi chào hỏi những người xung quanh là điều thông thường. Trước hết là để biết mặt những người xung quanh và có thể nhận được từ họ những thông tin về khu vực mình chuẩn bị sinh sống. Hãy giới thiệu tên tuổi và những điều đơn giản về bản thân mình.

■ Đăng ký cư trú/ Khai báo đổi địa chỉ

Xin hãy làm thủ tục tại phòng hành chính khu vực nơi mình sinh sống. Về chi tiết, xin tham khảo mục A Chế độ quản lý lưu trú mới / Chế độ đăng ký cư trú cơ bản cho cư dân người nước ngoài 4-1 Khi thay đổi chỗ ở (địa chỉ).

■ Cách sử dụng phòng tắm và nhà vệ sinh

Trong nhà tắm và nhà vệ sinh nếu bị tắc đường ống thoát nước thải thì nước sẽ bị tràn ra và trở thành một việc nghiêm trọng. Nếu trường hợp gây tổn hại cho những người sống ở tầng dưới, thì có những trường hợp phải bỏ tiền của mình ra để bồi thường và tu sửa lại như cũ. Không được thải tóc xuống đường ống thoát nước và không được thải cái gì khác giấy vệ sinh trong nhà vệ sinh (cũng không được thải giấy lụa hay băng vệ sinh).

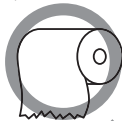


Nếu nhà vệ sinh bị tắc đường ống thoát nước thì nước sẽ bị tràn ra.

Không được thải cái gì khác giấy vệ sinh.



● Giấy vệ sinh
(loại tan được trong nước)



● Giấy lụa
(loại không tan được trong nước)



■ Cách sử dụng ban công và hiên

Bancông và hiên còn được sử dụng làm nơi thoát hiểm trong những trường hợp khẩn cấp nên không được đặt vật cản trở lối thoát cũng như không được đặt những vật trước tấm tường dùng để tị nạn của phòng bên cạnh. Ngoài ra, bancông và hiên còn được dùng để phơi chăn và quần áo. Khi nuôi cây cảnh trên bancông và hiên thì chú ý để nó không rơi từ trên những chỗ đó xuống.

Hãy chú ý để chăn hay cây cảnh không rơi xuống.

■ Cách sử dụng những nơi công cộng

Những nơi sống tập thể, thì ngoài phòng của mình còn có tiền sảnh và cầu thang là nơi mà mọi người cùng sử dụng. Khi có động đất hay hỏa hoạn đó cũng là nơi thoát hiểm nên không được để vật dụng của mình ra những nơi đó.

■ Cách sử dụng chỗ để xe đạp và xe hơi

Ở những nơi sống tập thể thì xe đạp phải để gọn gàng vào những nơi qui định.

Ngoài ra, xe hơi thì cần phải thuê chỗ để gửi xe hơi. Không được đậu xe trên đường. Những nơi đậu xe đều có tốn lệ phí. Hàng tháng đều phải trả tiền cho chỗ để xe nên không được thấy chỗ người khác thuê đang trống mà đậu xe của mình vào đó.

Chuyển chỗ ở và rời chỗ ở

Khi chuyển đến một nơi ở mới, khi chuyển nhà và rời nhà trước hết phải quyết định ngày chuyển nhà rồi sau đó liên lạc với chủ nhà. Việc chuyển nhà thông thường là nhờ những công ty chuyên về dịch vụ chuyển nhà. Những thủ tục cắt hợp đồng dùng điện, ga cũng không được quên. Sau đó phải dọn dẹp nhà cửa sạch đẹp để giao lại nhà. Cũng không được để lại rác trong phòng.

Chuẩn bị chuyển nhà

Liên lạc với chủ nhà

Thông thường theo những điều ghi trong hợp đồng thuê nhà thì phải thông báo việc chuyển nhà cho chủ nhà trước 1 đến 2 tháng. Người thuê nhà sẽ thông báo việc hủy bỏ khế ước thuê nhà cho chủ nhà trong thời gian được ghi trong giấy hợp đồng (thông thường trước 1 ~ 2 tháng).

Lựa chọn cách chuyển nhà

Ở Nhật có rất nhiều công ty chuyển nhà. Ngoài những công ty chuyên chuyển nhà thì cũng có những công ty vận chuyển cũng có thể đảm nhiệm việc chuyển nhà. Về việc giá cả thì thay đổi theo lượng đồ đạc và cự ly vận chuyển. Chính vì vậy hãy tham khảo một vài công ty, xác nhận lại về giá cả và nội dung phục vụ để rồi chọn ra công ty hợp với yêu cầu của mình nhất. Việc so sánh giữa các công ty chuyển nhà với nhau cũng có thể tra được qua internet.

Ngoài ra còn có thể mượn xe của người bạn hay thuê xe để tự vận chuyển cũng được.

Hủy bỏ hợp đồng điện, ga, nước

Xin hãy liên lạc trước khi chuyển nhà từ 2 ~ 3 ngày.

	Điện	Ga	Nước
Khi nào?	2~3 ngày trước khi chuyển nhà	2~3 ngày trước khi chuyển nhà	2~3 ngày trước khi chuyển nhà
Liên lạc với chỗ nào?	Thông báo cho công ty điện lực ở gần nơi bạn sống	Thông báo cho công ty ga ở gần nơi bạn sống	Thông báo cho bộ phận cung cấp nước sinh hoạt ở phòng hành chính nơi bạn sống
Làm như thế nào?	Vào ngày chuyển nhà người của công ty điện lực sẽ đến cắt điện và tính tiền cho đến ngày đó	Vào ngày chuyển nhà người của công ty ga sẽ đến cắt ga và tính tiền cho đến ngày đó	Người của ủy ban sẽ đến cắt nước và tính tiền sử dụng nước cho đến ngày đó

Chuyển nhà

Vận chuyển đồ đạc

Đưa tất cả đồ đạc ra khỏi nhà, lau dọn phòng sạch sẽ. Không được để lại rác trong phòng.

Rác lớn

Những rác lớn chẳng hạn như đồ dùng gia đình hay trong trường hợp mà vứt 1 lần một khối lượng lớn rác thì phải liên lạc bộ phận phụ trách của phòng hành chính khu vực nơi bạn sống để xác nhận cách vứt rác.

Trả lại chìa khóa

Trả lại chìa khóa và thanh toán tiền đặt cọc. Dưới sự giám sát của chủ nhà và người của trung tâm bất động sản, bạn hãy tuân theo những điều khoản về hiện trạng khi trả nhà.

Khi hoàn trả lại nhà để chuyển đến chỗ mới thì có cách suy nghĩ là hồi phục hiện trạng. Nội dung của hồi phục hiện trạng tùy theo hợp đồng và những trung tâm bất động sản cũng có sự khác nhau. Đôi khi những vấn đề này nảy sinh ra những chuyện trục trặc nên khi làm hợp đồng thuê nhà bạn phải đọc kỹ những điều khoản về hồi phục hiện trạng khi trả nhà. Tùy theo trường hợp khi dọn đến nhà bạn có thể chụp lại ảnh cũng tốt. Số tiền dùng để hồi phục lại căn nhà sẽ được lấy từ tiền đặt cọc và còn dư sẽ hoàn trả lại cho người thuê nhà và lúc rời khỏi nhà.

Thay đổi địa chỉ

Khi chuyển nhà thì cần phải làm những thủ tục sau đây. Những thủ tục này tuyệt đối không được quên.

■ Những thủ tục khi chuyển chỗ ở

	Phương pháp làm thủ tục
Thay đổi chỗ ở	Trong vòng 14 ngày kể từ ngày chuyển chỗ ở, phải mang thẻ lưu trú hoặc giấy chứng minh là người vĩnh trú đặc biệt đến ủy ban hành chính nơi bạn sống để đăng ký địa chỉ mới. Khi nơi mình sẽ chuyển nhà đến không phải là thành phố, quận, khu phố của nơi đang sống (khi chuyển đi), thì trong khoảng thời gian từ 14 ngày trước khi chuyển nhà cho đến khi chuyển nhà, phải xin ủy ban hành chính địa phương của nơi mình đang sống “Giấy chứng minh chuyển đi” và nộp khi khai báo thay đổi tại thành phố, quận, khu phố nơi mình chuyển nhà đến trong vòng 14 ngày sau khi chuyển nhà.
Bảo hiểm sức khỏe quốc dân và lương hưu quốc dân	Khi nơi mình sẽ chuyển nhà đến không phải là thành phố, quận, khu phố của nơi đang sống (khi chuyển đi), thì phải nộp “Khai báo bị tịch thu tư cách” tại ủy ban hành chính địa phương của nơi mình đang sống, và sau khi làm thủ tục đăng ký “thay đổi chỗ ở” tại ủy ban hành chính khu vực nơi bạn sắp chuyển đến để làm thủ tục gia nhập bảo hiểm sức khỏe quốc dân và lương hưu.
Bằng lái xe	Đi tới sở cảnh sát ở khu vực bạn chuyển đến và nộp giấy thông báo chuyển địa chỉ.
Điện thoại	Liên lạc với công ty điện thoại để báo về việc chuyển địa chỉ. Điện thoại để bàn thì gọi đến số 116 để nhờ công ty NTT làm dịch vụ chuyển điện thoại đến địa chỉ mới.
Các cơ quan tài chính như ngân hàng	Liên lạc để báo về việc thay đổi địa chỉ. Cụ thể hãy tới các cơ quan tài chính nơi bạn mở tài khoản.
Bưu điện	Gửi giấy thông báo chuyển địa chỉ tới bưu điện nơi bạn đang sống. Khi đó trong vòng 1 năm những bưu phẩm của bạn được gửi tới địa chỉ cũ sẽ tự động được gửi tới địa chỉ mới cho bạn.

* Việc chuyển nhà là việc chuyển chỗ ở từ nơi hiện tại sang một chỗ mới. Tại phòng hành chính khu vực, nếu địa chỉ mới và địa chỉ cũ trong cùng một thành phố thì gọi là “tenkyo” (chuyển cư), còn nếu khác thành phố thì gọi là “tenshutsu” (chuyển xuất).

Giải thích về các thuật ngữ liên quan đến nhà ở

■ Trung tâm bất động sản (fudousanya)

Là những nơi đứng ra làm trung gian trong việc mua bán bất động sản hay việc thuê mượn nhà tư nhân.

■ Tiền thuê nhà (yachin)

Là tiền mà người thuê nhà phải trả trong 1 tháng. Hàng tháng phải trả tiền nhà cho tháng tiếp trước khi hết tháng đó. Chính vì vậy, tiền nhà khi bắt đầu chuyển đến phải đóng là 2 tháng tiền nhà bao gồm tiền nhà tháng đó và tháng tiếp theo. Thông thường, tiền nhà sẽ được tự động rút ra từ ngân hàng. Cũng có trường hợp hàng tháng đi chuyển khoản vào ngân hàng.

■ Tiền quản lý và tiền công ích (kanrihi / kyouekihi)

Là tiền chi trả cho việc quản lý những chỗ công cộng cho những người ở cùng sử dụng (chẳng hạn như cầu thang, hành lang), các thiết bị khác. Ngoài ra còn bao gồm tiền điện và tiền quét dọn. Tiền này được trả riêng với tiền nhà.

■ Tiền đặt cọc (shikikin)

Là tiền gửi nhà chủ (người chủ sở hữu của căn nhà) khi làm khế ước thuê nhà. Thường gửi số tiền bằng 1 đến 3 tháng tiền nhà. Tiền đặt cọc được dùng khi người thuê nhà khi chuyển nhà ra chỗ khác mà chưa trả tiền nhà, hay được dùng để sửa chữa những chỗ hư hỏng hay làm sạch những chỗ bẩn trong thời gian người thuê nhà sống. Nếu còn dư thì phần còn lại sẽ được trả lại cho người thuê nhà.

■ Tiền lễ (reikin)

Là tiền cảm ơn chủ nhà khi làm khế ước thuê nhà. Thông thường bằng từ 1 đến 2 tháng tiền nhà. Tiền này không được hoàn trả lại.

■ Tiền môi giới (chukai tesuryo)

Tiền trả cho các trung tâm bất động sản đứng ra làm môi giới khi thuê nhà. Thông thường bằng 1 tháng tiền nhà.

■ Tiền bảo hiểm tổn hại (songai hokenryo)

Là tiền chi trả khi làm hợp đồng thuê nhà mà có sự cần thiết phải gia nhập các bảo hiểm tổn hại chẳng hạn như về gia tài. Tùy theo loại bảo hiểm, thì có thể được đền bù trong những trường hợp có tổn hại do hỏa hoạn hay mưa dột.

■ Tiền gia hạn khế ước (keiyaku koshinryo)

Thời hạn làm hợp đồng thuê nhà thông thường là 2 năm. Sau 2 năm có thể phải đóng thêm 1 tháng tiền nhà nếu có yêu cầu từ phía người chủ nhà.

■ Người bảo lãnh liên đới (rentai hoshonin)

Là người chịu trách nhiệm trả tiền nhà trong trường hợp người thuê nhà không có khả năng chi trả. Trong nhiều trường hợp khi làm thủ tục đăng ký cần phải làm thủ tục này. Trong trường hợp không có người bảo lãnh, có những trường hợp có thể sử dụng những công ty đứng ra đại diện với tư cách như người bảo lãnh.

■ Hội dân khu phố và tổ chức tự quản (chonaikai / jichikai)

Là những tổ chức của người dân trong khu phố sinh sống. Ngoài các thông báo báo tin từ phòng hành chính khu vực, các buổi diễn tập phòng chống hỏa hoạn, còn có các hoạt động lễ hội, giao lưu giữa những người cùng khu phố sinh sống. Có trường hợp thu tiền hội phí (khoảng 300 yên/tháng).

■ Người sống cùng (dokyosha)

Trong trường hợp có người sống cùng với người thuê nhà thì khi làm hợp đồng phải báo với chủ nhà. Nếu không thông báo với chủ nhà mà tự tiện cho người khác sống chung sẽ có khả năng bị buộc rời khỏi nhà đó.



Kết bạn với hàng xóm

Để có thể sinh sống thuận lợi trong xã hội Nhật Bản, việc kết giao thân thiết với những người bạn hàng xóm và hỗ trợ lẫn nhau cũng vô cùng quan trọng.

Ở thành phố thì hẳn là vậy rồi, nhưng càng đi về các địa phương thì việc kết bạn với hàng xóm cũng rất được coi trọng. Đôi khi, bạn cảm thấy họ can thiệp nhiều và thấy phức tạp, nhưng việc kết giao thân thiện trong cuộc sống hàng ngày cũng là một bí quyết để giúp xóa bỏ các vấn đề không mong muốn và sự hiểu lầm.

Tuy nhiên, nếu bị yêu cầu thực hiện các hành vi trái với mong muốn của mình vì bị đưa ra lý do là theo “phong tục địa phương”, bạn cũng nên kiên quyết từ chối.



Hội tự quản (hiệp hội khu phố)

Ở bất kỳ địa phương nào cũng có “Hội tự quản” – là tổ chức tự quản của người dân nhằm kết giao thân thiết giữa những người dân với nhau và cải thiện môi trường sống (Thường gọi là “hiệp hội khu phố”). Hội tự quản một mặt đóng vai trò là “Khu hành chính” (phân chia khu vực được xác định bởi đơn vị hành chính cấp hạt (thành phố, thị trấn và làng mạc) để thuận tiện cho việc quản lý hành chính), đôi khi các hoạt động quảng bá từ đơn vị hành chính cấp hạt tới người dân cũng được thực hiện thông qua các hội tự quản. Việc tham gia vào hội tự quản là tự nguyện, nhưng bạn nên tham gia vào hội này để cuộc sống hàng ngày thuận lợi hơn. Hội tự quản ngoài việc thực hiện các sự kiện nhằm kết giao thân thiết giữa những người dân, còn thực hiện duy trì môi trường sống ở trong khu phố (quản lý vệ sinh, quản lý nơi tập trung rác, quản lý đèn đường và hội trường công cộng thuộc sở hữu của hội tự quản), với tư cách là một cư dân được hưởng lợi thì cũng khó có thể từ chối không tham gia.

Phí thành viên khác nhau tùy thuộc vào các hội tự quản, nhưng thường là khoảng vài trăm yên mỗi tháng. Ngoài ra, cũng có trường hợp bạn cần đóng góp vào quỹ từ thiện hoặc thay nhau đảm nhiệm chức vụ trong hội tự quản đó.

Hội trẻ em

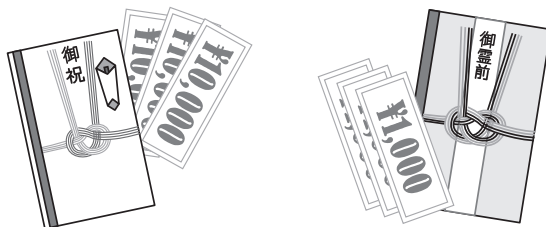
Trong hội tự quản còn có “Hội trẻ em” với mục đích tạo mối quan hệ thân thiết giữa các em bé và giúp nuôi dạy trẻ em lớn lên khỏe mạnh. Đối tượng chủ yếu là học sinh tiểu học, thực hiện các sự kiện vào kỳ nghỉ hè, kỳ nghỉ đông, thu gom phế liệu, v.v.

Hiếu hỉ

Các nghi lễ quan trọng trong cuộc sống của con người được gọi là “Ma chay hiếu hỉ”, trong số đó, với lễ cưới, đám ma thì không chỉ bạn bè, người quen, mà cả hàng xóm cũng sẽ tham dự.

Đối với “lễ chúc mừng” như lễ cưới, có phong tục tặng tiền mặt để chúc mừng. Người ta để vào trong phong bì chúc mừng và mang đi tặng vào ngày thực hiện lễ cưới.

Hình thức phổ biến nhất của tang lễ là theo nghi lễ Phật giáo. Vào đêm ngày người đó chết, hoặc vào đêm hôm sau, có một nghi lễ gọi là “Thức trắng đêm quanh quan tài”, khi đó người thân và hàng xóm sẽ tập trung lại. Sau đó là “tang lễ”, khi tham dự tang lễ, người ta sẽ cho tiền “Kanon” (tiền cúng người quá cố) vào “túi viếng” màu đen và trắng, mang vào đám tang để làm lễ. Về trang phục, trong buổi lễ “Thức trắng đêm quanh quan tài” thì có thể mặc trang phục bình thường, nhưng khi thực hiện nghi thức “tang lễ”, đàn ông có bộ đồ tối màu như màu đen hoặc xanh đậm, cà vạt và tất cũng là màu đen. Phụ nữ mặc đồ màu đen, và không sử dụng các trang sức bằng vàng và bạc.



Dọn tuyết

Công việc dọn tuyết trên các đường phố công cộng về nguyên tắc sẽ do cấp quốc gia, tỉnh, đơn vị hành chính cấp hạt thực hiện bởi những người quản lý đường phố, nhưng cũng có những khu vực mà xe dọn tuyết bị trễ (không đến được), hoặc có trường hợp công việc dọn tuyết cần phải thực hiện dưới sự phối hợp với khu phố bên cạnh.

Rác

Rác thải từ các hộ gia đình thông thường được đơn vị hành chính cấp hạt thu gom miễn phí với tư cách là dịch vụ hành chính. Rác thải (chất thải) từ các nơi làm việc thì doanh nghiệp phải thuê công ty xử lý rác thải xử lý có trả phí.

Rác thải từ các hộ gia đình thông thường thì thực hiện bỏ rác theo phương thức được quy định vào thứ và giờ mà đơn vị hành chính cấp hạt đã quy định theo từng loại rác như “Rác cháy được”, “Rác không cháy được”, “Rác tài nguyên”, “Rác to” v.v.

Nơi tập trung rác sẽ khác nhau tùy theo địa phương, nơi thì quy định là để trong các nhà nhỏ có mái che, nơi thì quy định là để ở phía ngoài nhà, v.v. Ngoài ra, tùy theo đơn vị hành chính cấp hạt mà có nơi còn chỉ định cả loại túi đựng rác nữa, vì vậy hãy chú ý.

“Rác cháy được”

- Giấy vụn, quần áo, gỗ vụn, v.v.

※ Cũng có đơn vị hành chính cấp hạt thu gom “Thức ăn thừa” là “Rác tươi”, không thu chung với “Rác cháy được”

“Rác không cháy được”

- Các loại kim loại, nhựa, đồ sứ, v.v.

“Rác tài nguyên”

- Chai lọ, vỏ lon, Túi giấy, chai nhựa PET, báo cũ, tạp chí cũ, v.v.

“Rác to”

- Các loại rác thải cỡ lớn không thể cho vào túi đựng rác

※ Việc phân loại rác và cách đổ rác khác nhau tùy theo đơn vị hành chính cấp hạt. Về chi tiết, hãy hỏi chủ nhà và khu phố, hoặc cán bộ của hội tự quản, cán bộ phụ trách của đơn vị hành chính cấp hạt.

Phân loại rác

Cần phân loại và đổ rác đúng để nâng cao hiệu quả của việc tái chế rác tái nguyên. Phương thức phân loại và đổ rác khác nhau tùy theo đơn vị hành chính cấp hạt. Hãy đổ rác theo quy định của khu vực đó.

- Rác tái nguyên gồm vỏ lon, vỏ chai thu hồi, báo, tạp chí, bia cứng, Túi giấy thì hãy bỏ rác vào các vị trí để các tập thể của địa phương thu hồi.
- Rác tái nguyên do đơn vị hành chính cấp hạt thu gom thì hãy xem lịch bỏ rác và bỏ rác vào các trạm rác vào ngày quy định.
- Đồ điện cũ hỏng sẽ được các cửa hàng bán lẻ và cửa hàng bán buôn thu gom khi đi mua hàng thay thế.
- Rác nguy hại như kim sẽ cần quấn vào giấy dày, viết là “nguy hiểm” rồi mới bỏ rác.

Vỏ lon

Vỏ lon có 2 loại là vỏ lon bằng nhôm và vỏ lon bằng thép.

● Cách bỏ rác là các vỏ lon rỗng

(⇒ Bỏ rác vào các vị trí để các đoàn thể địa phương thu hồi)

- ① Lấy hết nước, đồ uống bên trong ra.
- ② Rửa qua phần bên trong lon và cho hết nước ra.
(Nếu bên trong vẫn còn nước, đồ uống thì sẽ là nguyên nhân gây mùi hôi.)

Chai thủy tinh

● Cách bỏ rác là các chai thủy tinh

(⇒ Các chai thu hồi thì bỏ rác vào vị trí để các tập thể địa phương thu hồi)

- ① Tháo nắp và nút chai ra.
- ② Rửa qua phần bên trong và cho hết nước ra.
(Nếu bên trong vẫn còn nước, đồ uống thì sẽ là nguyên nhân gây mùi hôi.)

Các loại giấy

● Cách bỏ rác là các loại giấy

(⇒ Báo, tạp chí, bìa cứng thì bỏ rác vào vị trí để các tập thể địa phương thu hồi)

① Phân theo từng loại.

- Báo (báo giấy, tờ quảng cáo dạng gấp, v.v.)
- Tạp chí (tạp chí hàng tuần, cuốn tạp chí phát hành 1 lần, v.v.)
- Bìa các tông (tháo các đồ kim loại và băng dính v.v. gấp lại rồi mới bỏ rác)
- Các loại giấy khác (bao bì đựng giấy như hộp giấy, túi giấy, giấy gói v.v.)

(Các hộp giấy thì gấp lại với cùng kích thước)

② Buộc thành hình chữ thập bằng dây buộc giấy.

Không được bỏ rác lẫn với dây buộc bằng nhựa hoặc túi ni lông.

* Hãy loại bỏ những thứ không được phép để cùng khi bỏ rác.

Những thứ không được phép bỏ cùng với giấy.

- Phong bì thư có cửa sổ
- Giấy in nhiệt
- Giấy tráng vinyl
- Giấy không carbon
- Giấy chống thấm
- Giấy dầu
- Ảnh
- Giấy tổng hợp (giấy nhựa, v.v.)
- Túi giấy (được tái chế riêng)
- Giấy sập (cốc giấy, đĩa giấy, v.v.)

Những thứ dễ để lẫn khi bỏ cùng (ngoài giấy)

- Băng dính
- Kim loại (kim của kẹp và ghim, v.v.)
- Giấy bóng kính
- Nhựa
- Giấy nhôm
- Túi ni lông

Túi giấy

● Cách bỏ rác là Túi giấy

(⇒ Bỏ rác vào vị trí để các tập thể địa phương thu hồi)

① Rửa sạch phía bên trong.

② Cắt ra và loại bỏ các vôi nhựa, v.v.

③ Để dưới ánh nắng mặt trời cho khô, ngăn chặn sự xuất hiện của nấm mốc.

* Không thể tái chế các Túi giấy ví dụ như túi đựng rượu v.v. mà có dán giấy nhôm ở bên trong.

Các loại nhựa

● Cách bỏ rác là các chai nhựa

① Chỉ phân loại những chai nhựa có nhãn mác.

(Nếu để lẫn những chai nhựa có chất liệu khác nhau thì sẽ gây ra vấn đề trong quá trình tái chế.)

② Tháo nắp và lấy hết những thứ bên trong ra.

③ Rửa qua phần bên trong và cho hết nước ra.

● Cách bỏ rác là nhựa

Bao bì đồ đựng làm bằng nhựa mà không phải là chai nhựa thì được phân loại là "đồ nhựa".

Sẽ dùng nước rửa giống như chai nhựa v.v. nhưng cái nào quá bẩn thì thiêu hủy.

① Lấy hết những thứ bên trong ra.

② Làm sạch phần bên trong rồi bỏ rác.

Ví dụ bao bì đồ đựng làm bằng nhựa

- Túi phát ở quầy thanh toán khi mua hàng,
- túi đựng bánh kẹo,
- bánh mì,
- hộp đựng mì ăn liền,
- hộp đựng chất tẩy rửa,
- hộp đựng nước sốt và sốt mayonnaise,

- nắp chai nhựa,
- hộp đựng bánh pudding và thạch,
- túi đựng trứng,
- túi đựng đậu phụ,
- v.v.

● Cách bỏ rác là khay

Theo hoạt động của luật tái chế bao bì đựng, sẽ chỉ phân loại và thu gom các khay màu trắng.

① Chỉ bỏ rác là các khay màu trắng nhẹ và dễ vỡ.

② Loại bỏ các dị vật như băng dính trong suốt hoặc màng bọc.

③ Rửa sạch và phơi khô

(Nhiều khay xốp được sử dụng để đồ tươi sống. Nếu bạn không rửa thì sẽ gây ra mùi hôi.)

Cơ chế của luật tái chế thiết bị điện gia dụng

Theo Luật tái chế thiết bị điện gia dụng, tivi, tủ lạnh, máy giặt, máy sấy quần áo, điều hòa không khí đã qua sử dụng sẽ là đối tượng tái chế.

Thiết bị điện gia dụng là đối tượng tái chế (phí tái chế)

• Người tiêu dùng

Mang thiết bị điện gia dụng không sử dụng tới chỗ các cửa hàng bán lẻ. Người tiêu dùng sẽ chịu phí tái chế cộng với phí vận chuyển.

Số tiền cụ thể sẽ khác nhau tùy thuộc vào nhà sản xuất, nên hãy xác nhận.

• Cửa hàng bán lẻ

Quy định phí vận chuyển cho các thiết bị điện gia dụng thải bỏ, tiếp nhận các thiết bị điện gia dụng thải bỏ trong các trường hợp sau đây và bàn giao cho các nhà sản xuất thiết bị điện gia dụng.

- Khi được yêu cầu tiếp nhận đồ điện gia dụng mà cửa hàng mình đã bán
- Khi bán sản phẩm đồ điện gia dụng thì được yêu cầu tiếp nhận đồ điện gia dụng thải bỏ cùng loại

• Nhà sản xuất thiết bị điện gia dụng

Thiết lập các điểm tiếp nhận thiết bị điện gia dụng thải bỏ, đồng thời tái chế thiết bị điện gia dụng thải bỏ.

Tiếng ồn trong sinh hoạt/Thú cưng

Tiếng ồn trong sinh hoạt

Người ta gọi các loại tiếng ồn khác nhau phát sinh trong nhà và xung quanh nhà trong cuộc sống hàng ngày là "tiếng ồn trong sinh hoạt". Đặc biệt tại các khu nhà tập thể như căn hộ và chung cư, thường phát sinh nhiều vấn đề tiếng ồn liên quan đến các vật gây ồn ở tầng trên và tầng dưới. Ban đêm thì xung quanh trở nên yên tĩnh, những tiếng động nhỏ cũng khiến người ta nghe thấy rất rõ nên hãy chú ý.

Thú cưng

Tại khu căn hộ, nhiều trường hợp bị cấm nuôi thú cưng, vì cần phải xác nhận.

Không được nuôi thả chó tự do. Khi đi bộ cần luôn dắt chó bên mình, nếu có phân chó trong lúc đi bộ thì người chủ phải có trách nhiệm dọn phân. Chó sủa quá nhiều hoặc khoảng cách với nhà hàng xóm rất gần như Nhật Bản thì thường hay xảy ra những rắc rối về thú cưng, nên hãy hết sức chú ý.

Chó trên 91 ngày tuổi cần phải đi đăng ký tại tòa thị chính và tiêm phòng mỗi năm một lần.



7

Các loại tổ chức tài chính

Các loại tổ chức tài chính

Ở Nhật Bản có các tổ chức tài chính sau đây.

- **Ngân hàng trung ương** Ngân hàng Nhật Bản
- **Tổ chức tài chính nhà nước** Cơ quan tài chính nhà ở Nhật Bản, v.v.
- **Tổ chức tài chính tư nhân** Các ngân hàng (ngân hàng thông thường, ngân hàng tín thác, ngân hàng tín dụng dài hạn, Ngân hàng Bưu điện Nhật Bản, v.v.)
 Các tổ chức tài chính địa phương (hiệp hội tín dụng, nghiệp đoàn tín dụng, v.v.)
 Các tổ chức tài chính khác (Hiệp hội Hợp tác xã Nông nghiệp (JA), công ty bảo hiểm, công ty chứng khoán, v.v.)

Mỗi tổ chức tài chính có mục đích khác nhau, nếu bạn chỉ cần mở tài khoản tiền gửi thông thường để chuyển tiền cho người khác hoặc chuyển khoản cho mình trong cùng hệ thống thì sử dụng các ngân hàng thông thường, ngân hàng tín thác, ngân hàng Bưu điện Nhật Bản, JA, v.v. có chi nhánh ở các địa phương trong tỉnh.

■ Tài khoản tiền gửi

Tài khoản tiền gửi chủ yếu có "tài khoản tiền gửi thông thường" và "tài khoản vãng lai", nhưng tài khoản vãng lai chủ yếu là tài khoản tiền gửi được công ty sử dụng để thanh toán séc / hóa đơn, vì vậy, thông thường bạn sẽ mở tài khoản tiền gửi.

Bạn có thể mở tài khoản tiền gửi chỉ cần với 1 yên. Vui lòng mang theo các giấy tờ dưới đây để làm thủ tục tại quầy thủ tục của tổ chức tài chính.

Các giấy tờ mang theo

- Giấy chứng minh bản thân (ví dụ **thẻ cư trú**, v.v.)
- Con dấu

■ Sổ ngân hàng

Khi bạn gửi tiền vào một tổ chức tài chính, bạn sẽ được cấp một cuốn sổ ngân hàng. Trong sổ ngân hàng sẽ ghi số tiền gửi, số tiền xuất chi, tiền lãi, v.v. Khi mở tài khoản tiền gửi, chỉ cần có con dấu và sổ ngân hàng đã đăng ký, bất kỳ ai cũng có thể thực hiện xuất tiền, vì vậy hãy cất giữ chúng cẩn thận.

■ Thẻ rút tiền mặt

Cùng với việc mở tài khoản tiền gửi, bạn cũng nên xin đăng ký phát hành thẻ rút tiền mặt. Quầy thủ tục của ngân hàng thường chỉ làm việc từ 9 giờ sáng đến 3 giờ chiều, trừ thứ bảy, chủ nhật và ngày lễ. Nếu bạn sử dụng máy rút tiền tự động (ATM) hoặc máy thanh toán tiền tự động (CD) nơi có thể xuất tiền tiền gửi bằng thẻ rút tiền, bạn có thể xuất tiền đến 9 giờ tối các ngày trong tuần, 5 giờ chiều các ngày thứ bảy và chủ nhật. Ngoài ra, bạn cũng có thể rút tiền bằng máy xuất tiền gửi tự động của ngân hàng khác. (Giờ làm việc của các máy này khác nhau tùy thuộc vào ngân hàng xử lý. Bạn sẽ bị mất lệ phí rút tiền khi rút tiền từ máy của ngân hàng khác hoặc rút tiền ngoài giờ)

Khi sử dụng thẻ rút tiền, sẽ sử dụng "số PIN" thay cho con dấu.

■ Chuyển khoản khác hệ thống

Để chuyển tiền cho người khác, bạn có thể sử dụng dịch vụ chuyển tiền mặt bảo đảm qua bưu điện, thư chuyển tiền, gửi séc, v.v., nhưng việc chuyển khoản vào tài khoản tiền gửi của người khác sẽ rất thuận tiện.

Khi chuyển khoản, bạn cần điền tên ngân hàng tiếp nhận, tên chi nhánh của ngân hàng tiếp nhận, loại tiền gửi, số tài khoản, tên tài khoản, số tiền chuyển và địa chỉ của bản thân, số điện thoại, v.v. vào mẫu chuyển khoản, kẹp theo tiền mặt để chuyển khoản vào tài khoản tiền gửi cho quầy thủ tục. Ngoài ra, bạn cũng có thể chuyển khoản bằng máy rút tiền tự động (ATM).

Lệ phí chuyển khoản khác nhau tùy theo tổ chức tài chính tiếp nhận, số tiền chuyển khoản. (Ngay cả cùng một ngân hàng thì lệ phí cũng khác nhau)

■ Chuyển tiền thanh toán của bản thân

Chuyển tiền thanh toán của bản thân là việc bản thân người chuyển và người ký hợp đồng thực hiện di chuyển tiền gửi giữa các tài khoản một cách định kỳ thông qua tổ chức tài chính. Ví dụ, nếu bạn đăng ký Chuyển tiền thanh toán của bản thân với tổ chức tổ chức để thanh toán hóa đơn tiền điện thì số tiền điện phải trả đó sẽ định kỳ được chuyển tới công ty điện lực, như vậy bạn sẽ không bị mất thời gian thực hiện thủ tục thanh toán mỗi lần.

Bạn có thể sử dụng dịch vụ này không chỉ cho các hóa đơn dịch vụ công cộng như tiền điện, tiền gas, tiền nước, phí điện thoại, mà còn có thể sử dụng cho các khoản thanh toán định kỳ khác.

Để thực hiện chuyển khoản chi phí tiện ích, bạn cần điền các nội dung cần thiết vào "mẫu yêu cầu chuyển tiền thanh toán của bản thân" theo quy định của tổ chức tài chính, đóng dấu dùng cho tài khoản tiền gửi và nộp. (Có trường hợp mẫu yêu cầu chuyển tiền thanh toán của bản thân cũng được đặt tại cửa hàng tiện lợi, v.v. Khi đó, bạn có thể đăng ký với tổ chức tài chính qua đường bưu điện)

■ Chuyển đổi tiền

Việc đổi tiền giữa đồng yên Nhật và ngoại tệ được thực hiện tại các ngân hàng có ghi rõ "Nơi giao dịch tiền ngoại tệ" và "Nơi giao dịch đổi tiền ngoại tệ".

Ngoài ra, bạn sẽ phải trả lệ phí đổi tiền.

■ Vay tiền

Các tổ chức tài chính được vận hành bởi các nguồn thu nhập từ các loại lệ phí, thu nhập lãi của các khoản vay sử dụng nguồn vốn đã tiết kiệm bằng tài khoản tiền gửi. Việc cho vay cũng là một dịch vụ chính của các tổ chức tài chính.

Ở Nhật Bản, khi vay tiền từ tổ chức tài chính, nếu không có tài sản thế chấp (tài sản sẽ bị tịch thu khi bạn không thể trả được nợ), người ta sẽ tính đến khả năng trả nợ của người đó sẽ được thực hiện cho vay. Do đó, rất khó để vay tiền nếu bạn không phải là sinh viên hoặc không có công việc ổn định.

Trường hợp người nước ngoài, nếu không có tài sản thế chấp như bất động sản hoặc nghề nghiệp cố định, nên nếu không phải là người Nhật thì việc vay tiền có thể gặp khó khăn. Cụ thể, tổ chức tín dụng sẽ cần phải đánh giá theo hoàn cảnh cá nhân của người đi vay nên xin hãy trao đổi với tổ chức tài chính.

■ Thẻ tín dụng

Thẻ tín dụng là sản phẩm của công ty phát hành thẻ ngân hàng, công ty bán hàng tín dụng v.v. nhưng bạn cũng có thể đăng ký tham gia tại các ngân hàng, v.v. Ở Châu Âu và Hoa Kỳ vẫn có một số cửa hàng không chấp nhận thanh toán bằng thẻ tín dụng ở nhưng ở Nhật Bản, hiện nay thẻ tín dụng đã được sử dụng rộng rãi. Khi người nước ngoài đăng ký làm thẻ tín dụng, sẽ không quá khó khăn như thực hiện khoản vay ghi trên đây, nhưng tổ chức tín dụng vẫn sẽ xem xét đến khả năng trả nợ và mức độ uy tín của người đó. Đối với người nước ngoài, nên sử dụng thẻ tín dụng quốc tế (thẻ VISA, thẻ Master, v.v.) được phát hành tại nước mình.



Bưu điện trong nước

Ở ngân hàng, chủ yếu có "bưu thiếp" "thư dán kín" "bưu kiện". Lệ phí gửi bưu điện sẽ khác nhau tùy theo chủng loại vật cần gửi và độ lớn, trọng lượng.

Bên cạnh đó, ngân hàng cũng thực hiện các dịch vụ gia tăng khác. Ví dụ: Dịch vụ "đảm bảo" được thêm vào khi gửi tiền mặt hoặc các vật có giá trị. Nếu sử dụng thêm dịch vụ này, trường hợp xảy ra sự cố chẳng hạn như bị mất thì sẽ được bồi thường thiệt hại. (Nếu gửi thông thường thì sẽ không được bồi thường thiệt hại.) Ngoài ra, nếu bạn muốn gửi nhanh cho người nhận thì có các dịch vụ đặc biệt như "Gửi nhanh - Express", "chứng nhận nội dung" hãy chứng minh nội dung của bưu phẩm được gửi đi, "bằng chứng giao" chứng minh việc giao bưu phẩm, "chỉ định ngày giao" để giao bưu phẩm vào ngày mong muốn. (Nếu bạn sử dụng thêm dịch vụ gia tăng này thì sẽ bị tính thêm phí dịch vụ đặc biệt.)

■ Lệ phí bưu chính trong nước (phí cơ bản)

Chủng loại	Nội dung		Trọng lượng	Lệ phí
Thư	Bưu phẩm có hình dạng cố định		Nhỏ hơn 25g	82 yên
			Nhỏ hơn 50g	92 yên
	Bưu phẩm không có hình dạng cố định	Trong tiêu chuẩn	Nhỏ hơn 50g	120 yên
		Mặt dài nhỏ hơn hoặc bằng 34cm	Nhỏ hơn 100g	140 yên
		Mặt ngắn nhỏ hơn hoặc bằng 25cm	Nhỏ hơn 150g	205 yên
		Độ dày nhỏ hơn hoặc bằng 3cm	Nhỏ hơn 250g	250 yên
		Trọng lượng nhỏ hơn hoặc bằng 1kg	Nhỏ hơn 500g	380 yên
			Nhỏ hơn 1kg	570 yên
		Ngoài tiêu chuẩn	Nhỏ hơn 50g	200 yên
			Nhỏ hơn 100g	220 yên
			Nhỏ hơn 150g	290 yên
			Nhỏ hơn 250g	340 yên
			Nhỏ hơn 500g	500 yên
			Nhỏ hơn 1kg	700 yên
			Nhỏ hơn 2kg	1020 yên
			Nhỏ hơn 4kg	1330 yên
	Mini letter		Nhỏ hơn 25g	62 yên
Letter pack light Độ dày nhỏ hơn hoặc bằng 3cm		Nhỏ hơn 4kg	360 yên	
Letter pack plus Độ dày nhỏ hơn hoặc bằng 3cm		Nhỏ hơn 4kg	510 yên	
Bưu thiếp	Bưu thiếp thông thường			62 yên
	Bưu thiếp khứ hồi			124 yên

Giao hàng tại nhà

Là dịch vụ "Giao hàng tại nhà" (Takkyubin) do các công ty dịch vụ chuyên môn thực hiện dịch vụ giao hàng trong nước các vật phẩm nhỏ (dưới 30kg) ví dụ như cửa hàng tiện lợi. Tùy thuộc vào công ty dịch vụ này mà kích thước, trọng lượng của vật phẩm giao cũng như lệ phí sẽ khác nhau.

Có nhiều dịch vụ khác nhau như chỉ định ngày giao hàng, chỉ định thời gian giao hàng, giao hàng tươi sống, v.v.

Dịch vụ "Takkyubin sân bay" được sử dụng nhiều khi đi nước ngoài, bạn có thể gửi đến quầy phụ trách của sân bay.



Giao thông trong tỉnh

Phương tiện giao thông công cộng chủ yếu trong tỉnh là đường sắt và xe buýt, nhưng số lượng chuyển và tuyến đường bị hạn chế, không thuận tiện như ở khu vực thủ đô.

Bên cạnh đó, mỗi đơn vị hành chính cấp hạt đều có hãng taxi và văn phòng riêng, và máy bay chở khách hàng không sẽ khởi hành từ sân bay Hanamori.

■ Đường sắt

Đường sắt trong tỉnh có JR (Đường sắt Đông Nhật Bản), Đường sắt IGR Iwate Ginga, Đường sắt Sanriku.

- JR vận chuyển hành khách giữa các tuyến gồm tuyến Tohoku Shinkansen (Tokyo - Morioka - Shin Aomori), Akita Shinkansen (Tokyo - Morioka - Akita), tuyến chính Tohoku (Morioka - Ueno), tuyến Tazawa-ko (Morioka - Omagari), tuyến Kitakami (Kitakami - Yokote), tuyến Yamada (Morioka - Miyako), tuyến Kamaishi (Kamaishi - Tōno - Hanamaki), tuyến Ōfunato (Sakari - Rikuzentakata - Ichinoseki), tuyến Hachinohe (Kuji - Hachinohe) và tuyến Hanawa (Kōma - Ōdate).
 - Đường sắt IGR Iwate Ginga vận chuyển hành khách giữa tuyến đường sắt Iwata Ginga (Morioka - Metoki),
 - Đường sắt Sanriku vận chuyển hành khách giữa tuyến Riasusen (Kuji- Sakari).
- Có một số đoạn thì vận chuyển hành khách bằng BRT (xe buýt nhanh).

■ Xe buýt

Xe buýt chạy tuyến cố định trong tỉnh có phương tiện giao thông công cộng tỉnh Iwate, xe buýt phía Bắc tỉnh Iwate chạy ở khu vực phía Bắc Morioka. Một số khu vực khác vận hành xe buýt JR và xe buýt phía Nam.

■ Taxi

Nếu ở khu vực thành phố thì xe taxi sẽ chờ ở trước nhà ga, tuy nhiên cũng có những nơi không thể gọi xe taxi bằng điện thoại.

■ Máy bay

Sân bay Iwate Hanamaki - sân bay duy nhất trong tỉnh nằm ở thành phố Hanamaki, có những chuyến buýt chạy cố định từ ga Morioka, ga Hanamaki, ga Kitakami. Đi đến sân bay này mất khoảng 45 phút.

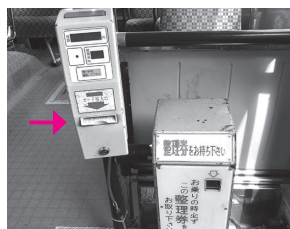
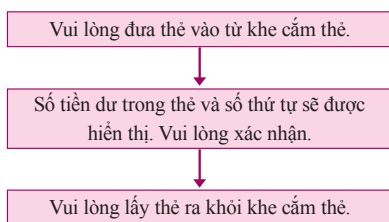
■ Cách sử dụng xe buýt

- Bạn sẽ chờ xe buýt tại trạm dừng xe buýt. Giờ chạy của xe buýt được đăng trên bảng thông báo của trạm dừng xe buýt.
- Tại tỉnh Iwate, lối lên xe buýt có trường hợp nằm ở chính giữa xe, có trường hợp nằm ở phía trước của xe. Hãy nhớ lấy số thứ tự.
- Khi đến gần điểm dừng xe buýt và bạn muốn xuống, hãy nhấn nút xuống.
- Tiền vé sẽ được hiển thị tương ứng với số thứ tự ở phía trên cửa ra, nên hãy thả tiền cùng với số thứ tự vào thùng này. (Cái này cũng có chức năng chuyển đổi tiền)



■ Thẻ xe buýt

Cũng có xe buýt mà bạn có thể sử dụng thẻ xe buýt (một loại thẻ trả trước) để trả tiền xe buýt. (Bạn cần có thẻ xe buýt riêng cho phương tiện công cộng của tỉnh Iwate và xe buýt phía Bắc tỉnh Iwate) Khi dùng thẻ này, bạn không cần chuẩn bị tiền lẻ, và cũng có trường hợp được giảm giá. Thẻ xe buýt được bán tại nơi hướng dẫn về xe buýt, nhưng bạn cũng có thể mua từ người lái xe buýt.



※ Nếu số tiền dư thẻ không đủ, thẻ sẽ bị nuốt vào trong máy thanh toán. Với số tiền không đủ, bạn có thể thanh toán bằng thẻ mới hoặc tiền mặt, vì vậy hãy liên hệ với nhân viên xe buýt.

■ Taxi

Khi muốn đi taxi, bạn có thể vẫy xe taxi còn trống và ra hiệu là có thể lên xe tại vị trí đó. Ngoài ra, nếu bạn gọi điện thoại cho hang taxi, họ sẽ đến tận nhà đón bạn. (Không tính phí đến đón) Về taxi thì có loại xe nhỏ 4 chỗ và xe cỡ trung bình 4 chỗ, xe taxi lớn 9 chỗ, v.v, trên đỉnh xe sẽ hiển thị chữ "TAXI".

Khi đến nơi cần đến, bạn trả tiền phí hiển thị trên đồng hồ bên cạnh ghế lái và xuống xe. Bạn không cần tip cho tài xế, nhưng nếu đi vào sáng sớm, đêm khuya thì có thể sẽ phải trả thêm phí.

Luật giao thông

Luật giao thông là các quy định đưa ra chủ yếu để đảm bảo an toàn giao thông và đảm bảo lưu lượng giao thông diễn ra suôn sẻ.

Một đặc trưng của đường bộ Nhật Bản là tất cả các con đường đều nằm ở nơi người dân sinh sống (ngoại trừ đường cao tốc) nên có nhiều đường giao nhau, những con đường này có cả xe ô tô, người đi bộ và xe đạp cùng tham gia giao thông.

Do đó, để duy trì trật tự giao thông và ngăn ngừa tai nạn giao thông, Nhật Bản thực thi nghiêm túc các chế tài đối với việc vi phạm luật giao thông.

Tùy loại vi phạm mà có các hình phạt như phạt tiền và bị tước giấy phép lái xe, đặc biệt còn có thêm các hình phạt rất nghiêm khắc cho các hành vi xấu và nguy hiểm như lái xe quá tốc độ và lái xe sau khi uống rượu.

Không chỉ người điều khiển xe ô tô mà cả người đi bộ và người đi xe đạp đều tuân thủ luật giao thông, hành vi tham gia giao thông dựa theo tín hiệu đèn giao thông và biển báo đường để không làm phiền người khác là hành vi cơ bản của luật lệ giao thông.

■ Giấy phép lái xe

Để lái xe ở Nhật Bản, cần có giấy phép lái xe. Nếu lái xe không có giấy phép lái xe thì sẽ bị xử phạt rất nặng với tư cách là tội lái xe không có giấy phép.

Người nước ngoài muốn lái xe ở Nhật Bản phải đảm bảo các điều kiện điều sau đây.

- (1) Có giấy phép lái xe và giấy chứng nhận dịch thuật tại quốc gia hoặc khu vực đã ký thỏa thuận chung với Nhật Bản. (Estonia, Thụy Sĩ, Đức, Pháp, Bỉ, Monaco và Đài Loan)
- (2) Có giấy phép lái xe quốc tế do các quốc gia thành viên của Công ước Geneva cấp. (Có hiệu lực một năm kể từ ngày nhập cảnh hoặc ngày cấp. Tuy nhiên, nếu giấy phép lái xe quốc tế hết hạn và được cấp lại thì phải cư trú từ 3 tháng trở lên tại nước phát hành giấy phép lái xe này kể từ sau khi nhận được cấp lại.)
- (3) Chuyển đổi giấy phép lái xe nước ngoài thành giấy phép lái xe Nhật Bản.
- (4) Có giấy phép lái xe của Nhật Bản.

■ Thủ tục thay đổi giấy phép lái xe

Để thay đổi giấy phép lái xe của nước bạn thành giấy phép lái xe của Nhật Bản, bạn cần đăng ký với trung tâm cấp giấy phép lái xe, v.v.

[Điều kiện đăng ký]

- (1) Chỉ giới hạn ở giấy phép loại 1.
- (2) Có địa chỉ tại tỉnh Iwate.
- (3) Thời hạn hiệu lực của giấy phép lái xe nước ngoài vẫn còn.
- (4) Giấy chứng nhận đã sống tại nước được cấp giấy phép lái xe từ 3 tháng trở lên kể từ sau ngày được cấp.

[Các giấy tờ cần thiết]

- (1) Giấy phép lái xe được cấp tại nước ngoài
- (2) Hộ chiếu, thẻ cư trú
- (3) Giấy xác nhận số ngày cư trú
- (4) Thẻ công dân
- (5) Bản dịch tiếng Nhật của giấy phép nước ngoài (chỉ giới hạn ở loại do Đại sứ quán, Lãnh sự quán hoặc Liên đoàn ô tô Nhật Bản (JAF) cấp)
- (6) 1 ảnh (trường hợp kèm theo xác nhận kiến thức và kỹ năng thì là 2 ảnh) Chiều dài 3 cm × chiều rộng 2,4 cm (nền trắng, không độ mũ, chụp mặt trước, chụp 1/3 người phía trên, chụp trong vòng 6 tháng)

[Quầy tiếp nhận đăng ký]

● Từ thứ Hai đến thứ Sáu (cần đặt lịch từ trước, không tiếp nhận vào ngày nghỉ lễ, ngày nghỉ bù, nghỉ cuối năm đầu năm)

○ Đăng ký không kèm theo xác nhận kiến thức và kỹ năng

Trung tâm cấp giấy phép lái xe Morioka ☎ 019-606-1251

Trung tâm cấp giấy phép lái xe phía Nam tỉnh ☎ 0197-44-3511

Trung tâm cấp giấy phép lái xe Engan ☎ 0193-23-1515

Trung tâm cấp giấy phép lái xe phía Bắc tỉnh ☎ 0194-52-0613

○ Nơi thi lấy giấy phép lái xe ô tô ☎ 019-683-1251

- Thi lý thuyết: 3 giờ chiều
- Thi kiến thức và kỹ năng: 9 giờ sáng

[Chi phí]

Sẽ khác nhau tùy loại giấy phép, vui lòng liên hệ với các trung tâm giấy phép lái xe.

■ Lấy giấy phép lái xe của Nhật Bản

Để lấy giấy phép lái xe của Nhật Bản, hoặc là phải theo học tại trường lái xe của Nhật Bản rồi thi đỗ kỳ thi lý thuyết của trung tâm cấp giấy phép lái xe, hoặc là tự học luật giao thông rồi thi đỗ kỳ thi lý thuyết và kỳ thi thực hành lái xe tại trung tâm thi cấp bằng lái xe.

Việc theo học tại trường lái xe sẽ mất nhiều thời gian và chi phí (hơn 30 giờ, tốn hơn 300.000 yên), nhưng nếu tự học thì sẽ rất khó thi đỗ kể cả là người Nhật).

Tuy nhiên, nếu bạn không có giấy phép lái xe nước ngoài, bạn buộc phải làm theo cách trên để có bằng, và điều kiện tiên quyết là phải biết tiếng Nhật.

■ Tai nạn giao thông

Khi gây ra tai nạn giao thông, bạn cần xử lý như sau.

- Dừng xe ở nơi an toàn như sát mép đường, chỗ đất trống.
- Nếu có người bị thương thì thực hiện cứu hộ khẩn cấp.
- Gọi xe cứu thương (☎ 119), cảnh sát (☎ 110).

(Nếu gây tai nạn mà bỏ chạy, không cứu giúp người bị nạn thì sẽ bị coi là phạm tội “bỏ trốn sau khi gây tai nạn”, nếu không khai báo với cảnh sát thì bị coi là “phạm tội không khai báo”).

- Làm theo hướng dẫn của cảnh sát.

Đặc biệt, trường hợp gây ra tai nạn chết người, bạn sẽ bị trừng phạt nghiêm khắc ví dụ bị tử hình với lý do gây chết người do bất cẩn theo luật Nhật Bản, bị tước hoặc đình chỉ giấy phép lái xe, ngoài ra còn bị xử phạt theo luật hình sự tùy theo mức độ trách nhiệm. Ngoài ra, bạn còn phải bồi thường cho những thiệt hại về kinh tế và về tinh thần mà bạn đã gây ra cho họ.

Ngoài ra, việc xử lý sau tai nạn ví dụ như bồi thường thiệt hại do tai nạn giao thông sẽ rất phức tạp và liên quan đến nhiều vấn đề. Nếu chẳng may bạn là nạn nhân hoặc là thủ phạm của tai nạn giao thông, hãy liên hệ với Trung tâm Đời sống nhân dân tỉnh Iwate để được tư vấn (☎ 019-624-2244).

■ Bảo hiểm trách nhiệm dân sự bắt buộc xe ô tô

Nếu sở hữu xe máy hoặc xe ô tô, bạn phải mua Bảo hiểm trách nhiệm dân sự bắt buộc xe ô tô (bảo hiểm bắt buộc). Xe ô tô và xe máy từ 251 cc trở lên phải đi đăng kiểm xe theo quy định pháp luật, khi làm thủ tục này thì tự động sẽ được làm thủ tục mua bảo hiểm.

Tuy nhiên, xe máy dưới 250 cc không cần phải đi đăng kiểm, vì vậy, sẽ có trường hợp hết hạn bảo hiểm. Nếu bạn mua xe máy cũ dưới 250 cc, vui lòng kiểm tra thời hạn hiệu lực của bảo hiểm. Thủ tục mua bảo hiểm sẽ được thực hiện tại đại lý bán xe.

Mức trách nhiệm bảo hiểm dân sự bắt buộc xe ô tô

- Bảo hiểm thiệt hại thương tích: 1.200.000 yên
- Bảo hiểm thiệt hại thương tật vĩnh viễn: 750.000 ~ 40 triệu yên
- Bảo hiểm thiệt hại tử vong: 30 triệu yên

■ Bảo hiểm tự nguyện

Do bảo hiểm dân sự bắt buộc xe ô tô có mức trách nhiệm bảo hiểm rất hạn chế, nên thường sẽ không đủ khả năng chi trả chi phí thiệt hại cho đối phương, và không bao gồm chi phí điều trị của bản thân. Vì vậy, những người sở hữu xe máy hoặc ô tô nên tham gia cả bảo hiểm tự nguyện.

**10**

Cấp cứu

Cảnh sát

Trong trường hợp xảy ra tai nạn giao thông, bị trộm cắp, v.v, hãy gọi "110" (không có đầu số) để được kết nối với cảnh sát.

- Khi cảnh sát nghe máy, không được hấp tấp, hãy trình bày rõ ràng sự việc cho cảnh sát, ví dụ như "Đó là tai nạn giao thông", "Tôi bị ăn trộm", "Làm ơn giúp tôi", v.v.
(Hãy nhớ các câu tiếng Nhật đơn giản vì có thể người cảnh sát đó không hiểu tiếng nước ngoài.)
- Trình bày rõ nơi xảy ra tai nạn. (Nếu không biết địa chỉ, hãy nói tòa nhà để cảnh sát có thể nhận biết.)

■ Xe cứu hỏa / xe cứu thương

Khi phát hiện đám cháy, khi bị bệnh cần cấp cứu, bị thương, hãy gọi cho sở cứu hỏa bằng cách quay số "119" (không có đầu số). (Cả xe cứu hỏa và xe cứu thương đều được đặt tại sở cứu hỏa.)

- Khi sở cứu hỏa nghe máy, không được hấp tấp, hãy trình bày rõ ràng sự việc cho họ, ví dụ như "Có đám cháy", "Tôi bị tai nạn", "Tôi bị bệnh cần cấp cứu", v.v.
- Hãy nói rõ vị trí để xe cứu hỏa hoặc xe cứu thương đến. Cũng nên mô tả cả tình trạng và nội dung.

Gọi điện thoại cấp cứu từ điện thoại công cộng

Bạn cũng có thể quay số 110 và 119 miễn phí từ điện thoại công cộng.

Gọi điện thoại cấp cứu từ điện thoại di động

Bạn cũng có thể quay số 110 và 119 miễn phí từ điện thoại di động.



11

Động đất/Sóng thần

Động đất

Nhật Bản là một quốc gia có nhiều trận động đất, và tỉnh Iwate có thể được cho là một khu vực có nhiều trận động đất.

Hãy thực hiện các đối sách chuẩn bị ngay từ cuộc sống thường ngày.

● Hãy suy nghĩ trước về các biện pháp đối phó nếu chẳng may xảy ra động đất.

- Hãy kiểm tra nơi lánh nạn của khu vực bạn đang sống.
- Hãy quyết định nơi gia đình sẽ tập trung nếu phải đi lánh nạn.
- Hãy kiểm tra xem trong nhà có đồ nội thất nào dễ bị đổ không? Có chỗ nào nguy hiểm xung quanh nhà không?
- Trong gia đình hoặc khu phố có người cao tuổi hoặc người khuyết tật nào không? Hãy chuẩn bị để có thể giúp đỡ lẫn nhau khi xảy ra động đất.

● Hãy quyết định trước những thứ sẽ mang theo và nơi cất giữ chúng trong trường hợp khẩn cấp.

(Thực phẩm khẩn cấp, thuốc và vật tư y tế khẩn cấp, quần áo, sổ tiết kiệm, con dấu, đài, đèn pin, v.v.)

● Điều quan trọng là không được hành động hấp tấp khi xảy ra động đất.

- Hãy mở cửa sổ và cửa ra vào để không bị kẹt trong tòa nhà.
- Kể cả trong trận động đất lớn thì rung chuyển cũng chỉ diễn ra trong khoảng một phút. Hãy chờ cho hết rung rồi mới thoát ra. Hãy bình tĩnh ẩn nấp dưới gầm bàn.
- Hãy dập tắt ngọn lửa.

● Khi lánh nạn thì thực hiện một cách bình tĩnh.

- Không sử dụng xe ô tô, hãy đi bộ tới chỗ lánh nạn. Hạn chế tối đa hành lý, làm sao để hành động mau lẹ.
- Cẩn thận với những vật rơi xuống, vật đổ vỡ
- Chú ý lắng nghe những thông tin đúng trên đài, ti vi, không dễ bị ảnh hưởng bởi các tin đồn không đúng.

■ **Cấp độ động đất dựa theo Cục khí tượng thủy văn**

Cấp độ động đất	Tình trạng động đất
1	Cảm thấy rung nhẹ trong phòng.
2	Những vật treo ví dụ như bóng đèn sẽ rung nhẹ.
3	Hầu như mọi người trong phòng đều cảm thấy có rung chấn.
4	Có trường hợp những vật treo ví dụ như bóng đèn sẽ rung lớn, những vật không đứng vững sẽ đổ xuống.
5 yếu	Có trường hợp các loại bát đĩa, sách vở trên giá sẽ rơi xuống. Những đồ gỗ nội thất không cố định sẽ di chuyển, những vật không ổn định sẽ đổ.
5 mạnh	Có trường hợp những đồ gỗ nội thất không cố định sẽ đổ, những mảng tường không được gia cố sẽ đổ.
6 yếu	Có trường hợp ngói trên mái nhà, kính cửa sổ bị vỡ và rơi xuống, những tòa nhà bằng gỗ với sức chịu động đất kém sẽ bị nghiêng.
6 mạnh	Có trường hợp phát sinh nứt vỡ đất lớn, sạt lở đất và phá hủy rừng quy mô lớn
7	Có trường hợp những tòa nhà bằng gỗ với sức chịu động đất tốt cũng bị nghiêng, những tòa nhà bê tông cốt thép với sức chịu động đất kém sẽ bị đổ.

Sóng thần

Tại khu vực ven biển, mỗi khi xảy ra động đất đều cần chú ý đến sóng thần. Khu vực ven biển của tỉnh Iwate nằm ở phía Thái Bình Dương, có nhiều vũng và vịnh, vì vậy sóng thần cao sẽ gây ra nhiều thiệt hại hơn dự kiến. Trong tỉnh Iwate, trước đây đã xảy ra nhiều thảm họa do sóng thần.

- Nếu bạn cảm thấy có động đất ở một nơi thấp ở khu vực ven biển, hãy ngay lập tức sơ tán lên chỗ cao. Cũng có lúc một phút chậm trễ có thể dẫn đến tử vong. Đặc biệt là khi sóng thần đang đến gần, tránh sơ tán bằng xe ô tô, hãy đi bộ tới nơi lánh nạn.
- Sóng thần sẽ đến lặp đi lặp lại nhiều lần. Tuyệt đối không được đến gần biển cho đến khi báo động và cảnh báo về sóng thần được hủy.
- Hãy quyết định sẵn lộ trình và nơi sơ tán khi xảy ra động đất, hãy chuẩn bị sẵn cho trường hợp khẩn cấp.
- Hãy nắm bắt thông tin chính xác từ đài hoặc TV để ứng phó thích hợp.



12 Cảnh sát

Cảnh sát

Tại Nhật Bản, ở mỗi khu vực đều có "trạm cảnh sát", các sĩ quan cảnh sát thường xuyên đi tuần để duy trì an ninh của khu vực.

Gần đây, gia tăng nhiều vụ án liên quan đến người nước ngoài cho nên cũng có trường hợp cảnh sát sẽ hỏi người nước ngoài về công việc. Trong trường hợp đó, để không tạo cảm giác khó chịu cho cả hai bên, hãy xuất trình thẻ cư trú, v.v. và trả lời với thái độ hợp tác và thành thật.

Giữ mối quan hệ hợp tác với cảnh sát trong cuộc sống thường ngày, khi bản thân người nước ngoài bị vướng vào các vụ việc hoặc rắc rối, hãy liên hệ với cảnh sát để được tư vấn.

Bắt giữ, giam giữ

Nếu bị cảnh sát bắt giữ vì bị cho là nghi phạm của một vụ án hình sự, bạn sẽ bị tạm giam giữ theo các thủ tục sau đây.

- ① Sau khi điều tra nghi phạm, cảnh sát sẽ thả bạn ra trong vòng 48 giờ kể từ thời điểm giam giữ hoặc bị gửi tới công tố viên công.
- ② Công tố viên công thẩm vấn nghi phạm trong vòng 24 giờ, trả tự do trong vòng 72 giờ kể từ thời điểm giam giữ hoặc yêu cầu thẩm phán giam giữ.
- ③ Thẩm phán sẽ nhanh chóng phát hành một lá thư thực hiện giam giữ sau khi nhận được yêu cầu giam giữ từ công tố viên công. Tuy nhiên, nếu thấy không cần phải giam giữ, họ sẽ phải lập tức ra lệnh thả nghi phạm. Thời gian giam giữ là trong vòng 10 ngày. (Khoản 1 điều 208 Luật tố tụng hình sự)
Ngoài ra, trường hợp bắt buộc cần thiết thì có thể gia hạn thời gian giam giữ nhưng không quá 10 ngày theo yêu cầu của công tố viên công.
- ④ Công tố viên công sẽ quyết định là thả nghi phạm hay thực hiện truy tố dựa theo kết quả điều tra trong vòng tối đa 20 ngày (trong vòng 23 ngày sau khi bị bắt). Trong trường hợp bị giam giữ hoặc bị truy tố, nghi phạm sẽ tiếp tục bị coi là bị cáo và bị giam giữ, nhưng có thể yêu cầu tại ngoại.
- ⑤ Việc có thể mời luật sư là việc sẽ phải được nói với nghi phạm khi bị bắt. Ở Nhật có hệ thống tiếp nhận 24 giờ theo ca trực gọi là "Hệ thống luật sư trực", bạn có thể yêu cầu Hiệp hội luật sư cử luật sư biện hộ cho mình thông qua cảnh sát, công tố viên công, thẩm phán. Việc gặp gỡ lần đầu là miễn phí, nếu tiếp tục yêu cầu luật sư biện hộ, bạn sẽ phải trả phí. Có "Dự án hỗ trợ người biện hộ nghi phạm hình sự của Hiệp hội trợ giúp pháp lý" nhằm hỗ trợ chi phí luật sư cho những người khó khăn về kinh tế, không có tiền chi trả chi phí luật sư.



13

Vấn đề rắc rối của người tiêu dùng

Vấn đề rắc rối của người tiêu dùng

Luôn tồn tại các hành vi kinh doanh gian lận dùng lời ngọt ngào khiến người tiêu dùng mua hàng giả với giá cao. Đã có nhiều người Nhật Bản là nạn nhân. Vì vậy, người nước ngoài không quen với ngôn ngữ hoặc phong tục của Nhật càng cần phải chú ý hơn. Cần phải nhìn rõ xem thái độ tử tế của người bán hàng là theo ý tốt hay xấu, và nhất định cần lưu ý rằng "Có thứ gì đó ẩn giấu đằng sau những lời ngọt ngào".

Ngoài ra, cũng có những rắc rối xảy ra do không hiểu nhau. Hãy luôn nhớ rằng thói quen thương mại của mỗi nước có sự khác nhau, hãy xác nhận kỹ các điều kiện mua bán với đối phương.

Ở Nhật Bản có "Hệ thống Cooling-off" giúp người tiêu dùng có thể đơn phương hủy hợp đồng mua bán nếu vẫn đang trong thời hạn nhất định để phòng ngừa những vấn đề của người tiêu dùng,

- Để được tư vấn về những rắc rối của người tiêu dùng và hệ thống Cooling-off, vui lòng liên hệ với Trung tâm đời sống nhân dân tỉnh Iwate (☎ 019-624-2209) hoặc Trung tâm đời sống người tiêu dùng của thành phố.

転載

一般財団法人自治体国際化協会「多言語生活情報」

<http://www.clair.or.jp/tagengo/>

編集・発行

公益財団法人岩手県国際交流協会

Iwate International Association

〒020-0045

岩手県盛岡市盛岡駅西通1-7-1 アイーナ5F国際交流センター内

TEL 019-654-8900 FAX 019-654-8922

Eメール iwateint@iwate-ia.or.jp

URL <https://iwate-ia.or.jp/>